

Oracle® Smart View for Office

Developer's Guide

リリース 11.1.2.5.200

Smart View Developer's Guide, 11.1.2.5.200

Copyright © 2004, 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	11
第 1 章 VBA 関数について	13
必要な知識	13
VBA 関数の場所	13
VBA 関数のコード・サンプルの使用	13
64 ビット・バージョンでの VBA 関数	14
VBA のパラメータ	14
VBA の戻り値	15
Smart View での Spreadsheet Toolkit VBA アプリケーションの使用	18
VBA 関数タイプ	19
第 2 章 メニュー関数	21
メニュー関数について	22
HypMenuVAbout	22
HypMenuVAdjust	23
HypMenuVBusinessRules	23
HypMenuVCalculation	24
HypMenuVCascadeNewWorkbook	24
HypMenuVCascadeSameWorkbook	25
HypMenuVCellText	25
HypMenuVCollapse	26
HypMenuVConnect	26
HypMenuVCopyDataPoints	27
HypMenuVExpand	27
HypMenuVFunctionBuilder	28
HypMenuVInstruction	28
HypMenuVKeepOnly	29
HypMenuVLRO	29
HypMenuVMemberInformation	30
HypMenuVMemberSelection	30
HypMenuVMigrate	31
HypMenuVOptions	31

HypMenuVPasteDataPoints	32
HypMenuVPivot	33
HypMenuVPOVManager	33
HypMenuVQueryDesigner	34
HypMenuVRedo	34
HypMenuVRefresh	35
HypMenuVRefreshAll	35
HypMenuVRefreshOfflineDefinition	36
HypMenuVRemoveOnly	36
HypMenuVRulesOnForm	37
HypMenuVRunReport	37
HypMenuVSelectForm	38
HypMenuVShowHelpHtml	38
HypMenuVSubmitData	39
HypMenuVSupportingDetails	39
HypMenuVSyncBack	40
HypMenuVTakeOffline	40
HypMenuVUndo	41
HypMenuVVisualizeinExcel	41
HypMenuVZoomIn	42
HypMenuVZoomOut	42
HypExecuteMenu	43
HypHideRibbonMenu	44
HypHideRibbonMenuReset	45
第3章 一般関数	47
一般関数について	47
HypShowPanel	47
HypGetVersion	48
HypGetLastError	50
HypShowPov	51
HypSetMenu	51
HypCopyMetaData	52
HypDeleteMetaData	53
HypIsDataModified	54
HypIsSmartViewContentPresent	55
HypIsFreeForm	56
HypUndo	57
HypRedo	57

HypPreserveFormatting	58
HypRemovePreservedFormats	59
HypSetAliasTable	60
HypGetSubstitutionVariable	61
HypSetSubstitutionVariable	62
HypGetDatabaseNote	63
第 4 章 接続関数	65
接続関数について	65
HypConnect	65
HypUIConnect	66
HypConnected	67
HypConnectionExists	68
HypCreateConnection	69
HypCreateConnectionEx	71
HypDisconnect	73
HypDisconnectAll	73
HypDisconnectEx	74
HypGetSharedConnectionsURL	75
HypSetSharedConnectionsURL	75
HypIsConnectedToSharedConnections	76
HypRemoveConnection	77
HypInvalidateSSO	77
HypResetFriendlyName	78
HypSetActiveConnection	79
HypSetAsDefault	79
HypSetConnAliasTable	80
第 5 章 アド・ホック関数	83
アド・ホック関数について	83
HypPerformAdhocOnForm	83
HypRetrieve	84
HypRetrieveRange	85
HypRetrieveNameRange	86
HypGetNameRangeList	87
HypRetrieveAllWorkbooks	88
HypExecuteQuery	89
HypSubmitData	90
HypPivot	91
HypPivotToGrid	91

HypPivotToPOV	92
HypKeepOnly	93
HypRemoveOnly	94
HypZoomIn	96
HypZoomOut	97
第 6 章 フォーム関数	99
フォームについて	99
HypOpenForm	99
第 7 章 セル関数	101
セル関数について	101
HypGetDimMbrsForDataCell	101
HypCell	103
HypFreeDataPoint	104
HypGetCellRangeForMbrCombination	105
HypGetDataPoint	106
HypIsCellWritable	107
HypSetCellsDirty	108
HypDeleteAllLROs	109
HypDeleteLROs	110
HypAddLRO	111
HypUpdateLRO	112
HypListLROs	113
HypRetrieveLRO	114
HypExecuteDrillThroughReport	115
HypGetDrillThroughReports	116
第 8 章 POV 関数	119
POV 関数について	119
HypSetPOV	119
HypGetBackgroundPOV	120
HypSetBackgroundPOV	121
HypGetPagePOVChoices	122
HypSetPages	123
HypGetMembers	123
HypSetMembers	124
HypGetActiveMember	125
HypSetActiveMember	126
HypGetDimensions	127

HypSetDimensions	128
第 9 章 計算スクリプトおよびビジネス・ルール関数	131
計算スクリプトおよびビジネス・ルール関数について	131
HypListCalcScripts	131
HypExecuteCalcScript	132
HypListCalcScriptsEx	133
HypExecuteCalcScriptEx	134
HypDeleteCalc	139
第 10 章 計算、連結、および換算関数	141
計算、連結、および換算関数について	141
HypCalculate	141
HypCalculateContribution	142
HypConsolidate	143
HypConsolidateAll	143
HypConsolidateAllWithData	144
HypForceCalculate	145
HypForceCalculateContribution	145
HypForceTranslate	146
HypTranslate	147
第 11 章 メンバー問合せ関数	149
メンバー問合せ関数について	149
HypFindMember	149
HypFindMemberEx	151
HypGetAncestor	152
HypGetChildren	153
HypGetParent	154
HypIsAttribute	155
HypIsDescendant	156
HypIsAncestor	156
HypIsExpense	157
HypIsParent	158
HypIsChild	159
HypIsUDA	160
HypOtlGetMemberInfo	161
HypQueryMembers	162
HypGetMemberInformation	165
HypGetMemberInformationEx	167

第 12 章 オプション関数	169
オプション関数について	169
HypGetGlobalOption	169
HypSetGlobalOption	171
HypGetSheetOption	172
HypSetSheetOption	174
HypGetOption	175
HypSetOption	180
HypDeleteAllMRUItems	181
第 13 章 動的リンク関数	183
動的リンク・ビューについて	183
動的リンク・ビューの設定	184
マクロの自動実行	184
HypUseLinkMacro	184
HypSetLinkMacro	185
HypGetLinkMacro	186
HypGetSourceGrid	187
HypDisplayToLinkView	187
HypGetConnectionInfo	189
HypSetConnectionInfo	190
HypGetRowCount	192
HypGetColCount	192
HypGetPOVCount	193
HypGetRowItems	194
HypSetRowItems	195
HypGetColItems	196
HypSetColItems	197
HypGetPOVItems	198
HypSetPOVItems	199
第 14 章 MDX 問合せ関数	201
MDX について	201
HypExecuteMDXEx	201
第 15 章 Oracle BI EE の関数	205
Oracle BI EE の関数について	205
Oracle BI EE の関数を使用する準備	205
Oracle Smart View BI Extension オブジェクトのインスタンス化	206
Oracle Smart View BI Extension の関数	207

InsertView	207
EditPrompts	210
EditPagePrompts	212
GetPagePrompts	213
DeleteView	214
AnalysisProperties	214
DirProperties	215
InvokeMenu	216
CopyView	217
PasteView	217

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1

VBA関数について

この章の内容

必要な知識.....	13
VBA 関数の場所	13
VBA 関数のコード・サンプルの使用.....	13
64 ビット・バージョンでの VBA 関数.....	14
VBA のパラメータ	14
VBA の戻り値	15
Smart View での Spreadsheet Toolkit VBA アプリケーションの使用.....	18
VBA 関数タイプ	19

必要な知識

Oracle Smart View for Office では、Microsoft Excel の Visual Basic Editor を使用して、Microsoft Visual Basic for Applications (VBA)関数を使用した一般的なタスクのカスタマイズおよび自動化が可能です。

この章の情報を使用して Smart View の VBA アプリケーションの開発するには、次の実用的な知識が必要です:

- Smart View および Smart View が組織でどのように使用されるか
- Visual Basic または VBA プログラミング言語
- VBA 開発環境としての Excel Visual Basic Editor

VBA 関数の場所

Smart View VBA 関数はすべて、ファイル smartview.bas に格納されており、デフォルトでは EPM_ORACLE_HOME/smartview/bin にあります。これらの関数を利用するには、smartview.bas を Visual Basic Editor モジュールにインポートし、このモジュールをプログラムの VBA 関数のソースとして使用します。

VBA 関数のコード・サンプルの使用

このガイドでは、各 VBA 関数のサンプルを示します。このようなコード・サンプルを Visual Basic Editor Module にコピーすることもできますが、モジュールにインポートされる smartview.bas を関数宣言のソースとして使用することをお勧めし

ます。これは、配列を含む宣言の場合に特に重要です。13 ページの「VBA 関数の場所」を参照してください。

コード・サンプルをコピーして貼り付ける場合には、常にこのガイドの HTML バージョンを使用します。PDF ファイルからコピーすると、コード内の文字が消失する可能性があります。

64 ビット・バージョンでの VBA 関数

64 ビット・バージョンの Microsoft Office を使用している場合、VBA 関数の宣言は 32 ビット・バージョンとは少し異なります。64 ビット・バージョンでは、宣言で Declare キーワードの後に PtrSafe が含まれます。例:

- 32 ビット・バージョン: `Public Declare Function HypMenuVAbout Lib "HsAddin" () As Long`
- 64 ビット・バージョン: `Public Declare PtrSafe Function HypMenuVAbout Lib "HsAddin" () As Long.`

Smart View インストールで提供される smartview.bas ファイルによって、適切な宣言文が自動的に含まれます。

注: このガイドのコード・サンプルには、Office の 32 ビット・バージョン用の宣言が含まれています; 64 ビット・バージョンの場合は PtrSafe を宣言に組み込んでください。

VBA のパラメータ

ほとんどの VBA 関数では、1 つ以上のパラメータの値を指定する必要があります。表 1 に、パラメータのタイプと、各タイプに有効な値を示します:

表 1 VBA のパラメータ

パラメータ	値
テキスト	二重引用符で囲んだ語、句または名前。例: <ul style="list-style-type: none">● "Smart View"● "[Book2.xls]Sheet1"
ブール	<ul style="list-style-type: none">● True● False

パラメータ	値
範囲オブジェクト	1つのセル、行、または列、1つ以上のセルの選択、または三ディメンション範囲アドレスを、二重引用符で囲んだもの。例: <ul style="list-style-type: none"> ● RANGE("A1") ● RANGE("A1:B2") ● RANGE("G:G,I:I,K:K") ● RANGE("A1:B5,C1:C10,D5:L8") ● RANGE("Sheet1!C3:R20,Sheet2!C3:R20")
数値	二重引用符もカンマも含まない1つの数値。例: <ul style="list-style-type: none"> ● 1 ● 2.5 ● 50000
文字列のリスト	カンマで区切られたテキスト値のリスト。例: "Qtr1"、"Actual"、"Oregon"
定数	smartview.bas で定義済の値
デフォルト値	<ul style="list-style-type: none"> ● Null ● Empty <p>注： 多くのパラメータには、Null または Empty が指定された際に使用されるデフォルト値またはデフォルト動作があります。そのようなパラメータに値を指定しない場合は、Null または Empty を使用します。そのようなパラメータのデフォルト値については、各関数の説明を参照してください。</p>

VBA の戻り値

Smart View VBA 関数は、関数が成功したか失敗したかを示す次のいずれかの値を返します。戻り値ゼロ(0)は、関数が正常に実行されたことを示します。負数はクライアントの問題を表し、正数はサーバーの問題を表します。表 2 に、戻り値を示します。

表 2 戻り値とその説明

戻り値		説明
4	SS_ERR_ERROR	データ・プロバイダ固有のエラー、または値にマップできない一般的なエラー。
2	SS_NO_GRID_ON_SHEET_BUT_FUNCTIONS_SUBMITTED	グリッドなしの関数シートが発行されたときに戻される値。
1	SS_SHEET_NOT_CONNECTED_BUT_FUNCTIONS_SUBMITTED	接続されていない関数シートが発行されたときに戻される値。
0	SS_OK	関数が正常に実行されました。
-1	SS_INIT_ERR	初期化エラー。

戻り値		説明
-2	SS_TERM_ERR	終了エラー。
-3	SS_NOT_INIT	初期化エラー。
-4	SS_NOT_CONNECTED	スプレッドシートがサーバーに未接続です。
-5	SS_NOT_LOCKED	スプレッドシートがロックされていません。
-6	SS_INVALID_SSTABLE	スプレッドシートが不安定になりました。
-7	SS_INVALID_SSDATA	スプレッドシートに無効なデータが含まれています。
-8	SS_NOUNDO_INFO	元に戻す操作の情報が存在しません。
-9	SS_CANCELED	操作が取り消されました。
-10	SS_GLOBALOPTS	使用しません。
-11	SS_SHEETOPTS	使用しません。
-12	SS_NOTENABLED	元に戻す操作が使用可能ではありません。
-13	SS_NO_MEMORY	使用可能なメモリー・リソースが不足しています。
-14	SS_DIALOG_ERROR	適切なダイアログ・ボックスが表示されませんでした。
-15	SS_INVALID_PARAM	関数に無効なパラメータが含まれています。
-16	SS_CALCULATING	計算が実行中です。
-17	SS_SQL_IN_PROGRESS	非推奨設定。
-18	SS_FORMULAPRESERVE	スプレッドシートが式の保持モードであるため操作を実行できません。
-19	SS_INTERNALSSERROR	指定したシートでは操作を実行できません。
-20	SS_INVALID_SHEET	現行シートを判別できません。
-21	SS_NOACTIVESHEET	スプレッドシート名が指定されずアクティブなシートが選択されていません。
-22	SS_NOTCALCULATING	計算が実行されていないため計算を取り消せません。
-23	SS_INVALIDSELECTION	選択パラメータが無効です。
-24	SS_INVALIDTOKEN	使用しません。
-25	SS_CASCADENOTALLOWED	カスケード・リスト・ファイルを作成できない、またはスプレッドシートを他の文書に埋め込んだ状態でカスケードを試行しています。
-26	SS_NOMACROS	ライセンスによりスプレッドシート・マクロが実行できません。
-27	SS_NOREADONLYMACROS	ライセンスの制約により、データベースを更新するスプレッドシート・マクロを実行できません。
-28	SS_READONLYSS	読取り専用ライセンスのためデータベースを更新できません。

戻り値		説明
-29	SS_NOSQLACCESS	非推奨設定。
-30	SS_MENUALREADYREMOVED	メニューがすでに除去されています。
-31	SS_MENUALREADYADDED	メニューはすでに追加されています。
-32	SS_NOSPREADSHEETACCESS	使用しません。
-33	SS_NOHANDLES	使用しません。
-34	SS_NOPREVCONNECTION	使用しません。
-35	SS_LROERROR	使用しません。
-36	SS_LROWINAPPACCESSERR	使用しません。
-37	SS_DATANAVINITERR	使用しません。
-38	SS_PARAMSETNOTALLOWED	使用しません。
-39	SS_SHEET_PROTECTED	指定されたワークシートは保護されている。ワークシートの保護を解除して操作を再試行する必要がある。
-40	SS_CALCSCRIPT_NOTFOUND	計算スクリプトが見つからない。
-41	SS_NOSUPPORT_PROVIDER	プロバイダがサポートされていません。
-42	SS_INVALID_ALIAS	別名が無効です。
-43	SS_CONN_NOT_FOUND	接続が見つかりませんでした。
-44	SS_APS_CONN_NOT_FOUND	Provider Services 接続が見つかりませんでした。
-45	SS_APS_NOT_CONNECTED	Provider Services が接続されていません。
-46	SS_APS_CANT_CONNECT	Provider Services が接続できません。
-47	SS_CONN_ALREADY_EXISTS	接続がすでに存在しています。
-48	SS_APS_URL_NOT_SAVED	Provider Services URL が保存されていません。
-49	SS_MIGRATION_OF_CONN_NOT_ALLOWED	接続の移行が許可されません。
-50	SS_CONN_MGR_NOT_INITIALIZED	接続マネージャが初期化されていません。
-51	SS_FAILED_TO_GET_APS_OVERRIDE_PROPERTY	Provider Services のオーバーライド・プロパティの取得に失敗しました。
-52	SS_FAILED_TO_SET_APS_OVERRIDE_PROPERTY	Provider Services のオーバーライド・プロパティの設定に失敗しました。
-53	SS_FAILED_TO_GET_APS_URL	Provider Services URL の取得に失敗しました。
-54	SS_APS_DISCONNECT_FAILED	Provider Services の切断に失敗しました。
-55	SS_OPERATION_FAILED	操作が失敗しました。

戻り値		説明
-56	SS_CANNOT_ASSOCIATE_SHEET_WITH_CONNECTION	シートと接続を関連付けできません。
-57	SS_REFRESH_SHEET_NEEDED	ワークシートのリフレッシュが必要です。
-58	SS_NO_GRID_OBJECT_ON_SHEET	シートにグリッド・オブジェクトがありません。
-59	SS_NO_CONNECTION_ASSOCIATED	接続が関連付けられていません。
-60	SS_NON_DATA_CELL_PASSED	データ・セルが渡されていません。
-61	SS_DATA_CELL_IS_NOT_WRITABLE	データ・セルは書き込み可能ではありません。
-62	SS_NO_SVC_CONTENT_ON_SHEET	シートに Smart View コンテンツがありません。
-63	SS_FAILED_TO_GET_OFFICE_OBJECT	Office オブジェクトの取得に失敗しました。
-64	SS_OP_FAILED_AS_CHART_IS_SELECTED	チャートが選択されているため操作が失敗しました。
-65	SS_EXCEL_IN_EDIT_MODE	Excel が編集モードになっています。
-66	SS_SHEET_NON_SMARTVIEW_COMPATIBLE	シートに Smart View との互換性がありません
-67	SS_APP_NOT_STANDALONE	アプリケーションがスタンドアロンではありません。
-68	SS_SMART_VIEW_DISABLED	Smart View が使用不可です。
-69	SS_VBA_DEPRECATED	関数が非推奨になっています。
-70	SS_OPERATION_NOT_SUPPORTED_IN_MULTIGRID_MODE	演算子は複数グリッド・モードのワークシートではサポートされません。
-71	SS_INVALID_MEMBER	メンバー名が無効です。HypGetMemberInformation で使用されます。
-72	SS_NO_SV_NAME_RANGE	名前付き範囲を使用できません。HypGetNameRangeList で使用されます。
-73	SS_AMBIGUOUS_MENU	メニュー・アイテムが不明のために解決できませんでした。HypExecuteMenu、HypHideRibbonMenu および HypHideRibbonMenuReset で使用します。

Smart View での Spreadsheet Toolkit VBA アプリケーションの使用

Oracle Hyperion Essbase Spreadsheet Toolkit で作成された VBA アプリケーションは、次の変更を行うことで、Smart View に変換できます:

- Spreadsheet Toolkit 関数の EssV 接頭辞を、Hyp に置き換えます;たとえば、EssVRemoveOnly を HypRemoveOnly に変更します。

- Oracle Hyperion Essbase Spreadsheet Toolkit メニュー関数の EssMenuV 接頭辞を、HypMenuV に置き換えます;たとえば、EssMenuVZoomIn を HypMenuVZoomIn に変更します。
- essxlvba.txt の宣言を smartview.bas の宣言に置き換えます。

VBA 関数タイプ

- **メニュー関数**は、Smart View のメニューおよびリボンのコマンドに相当します。第 2 章「**メニュー関数**」を参照してください。
- **一般関数**は、通常は Smart View のリボンまたは「オプション」ダイアログ・ボックスから実行されるアクションの実行、オプションの設定または情報の取得を行います。第 3 章「**一般関数**」を参照してください
- **接続関数**は、データ・プロバイダへの接続に関連するアクションを実行します。第 4 章「**接続関数**」を参照してください
- **アド・ホック関数**は、ズーム、データの取得と送信、ピボットなどのアド・ホック操作を実行します。第 5 章「**アド・ホック関数**」を参照してください。
- **フォーム関数**は、データ・フォームを開きます。第 6 章「**フォーム関数**」を参照してください
- **セル関数**は、データ・セルとその内容に関する操作の実行と情報の取得を行います。第 7 章「**セル関数**」を参照してください
- **POV 関数**は、POV の設定を指定または取得します。第 8 章「**POV 関数**」を参照してください。
- **計算スクリプトおよびビジネス・ルール関数**は、計算スクリプトとビジネス・ルールのリストの取得または実行を行います。第 9 章「**計算スクリプトおよびビジネス・ルール関数**」を参照してください
- **計算、連結、および換算関数**は、Oracle Hyperion Financial Management および Oracle Hyperion Enterprise (R)アプリケーションのデータに対してこれらの操作を実行します。第 10 章「**計算、連結、および換算関数**」を参照してください
- **メンバー問合せ関数**は、メンバーに関する世代、レベル、属性およびその他の情報を取得します。第 11 章「**メンバー問合せ関数**」を参照してください
- **オプション関数**は、グローバル・オプションとシート・オプション、あるいはその両方に関する情報を設定および取得し、MRU アイテムの削除を可能にします。第 12 章「**オプション関数**」を参照してください
- **動的リンク関数**は、動的リンクを介して別のウィンドウに表示されるデータ・ポイント詳細を設定または取得します。第 13 章「**動的リンク関数**」を参照してください
- **MDX 問合せ関数**は、結果がワークシートに表示されない MDX 問合せを実行します。第 14 章「**MDX 問合せ関数**」を参照してください

注： VBA 関数のアルファベット順のリストについては、索引を参照してください。

この章の内容

メニュー関数について	22
HypMenuVAbout	22
HypMenuVAdjust	23
HypMenuVBusinessRules	23
HypMenuVCalculation	24
HypMenuVCascadeNewWorkbook	24
HypMenuVCascadeSameWorkbook	25
HypMenuVCellText	25
HypMenuVCollapse	26
HypMenuVConnect	26
HypMenuVCopyDataPoints	27
HypMenuVExpand	27
HypMenuVFunctionBuilder	28
HypMenuVInstruction	28
HypMenuVKeepOnly	29
HypMenuVLR0	29
HypMenuVMemberInformation	30
HypMenuVMemberSelection	30
HypMenuVMigrate	31
HypMenuVOptions	31
HypMenuVPasteDataPoints	32
HypMenuVPivot	33
HypMenuVPOVManager	33
HypMenuVQueryDesigner	34
HypMenuVRedo	34
HypMenuVRefresh	35
HypMenuVRefreshAll	35
HypMenuVRefreshOfflineDefinition	36
HypMenuVRemoveOnly	36
HypMenuVRulesOnForm	37
HypMenuVRunReport	37
HypMenuVSelectForm	38
HypMenuVShowHelpHtml	38
HypMenuVSubmitData	39

HypMenuVSupportingDetails.....	39
HypMenuVSyncBack.....	40
HypMenuVTakeOffline.....	40
HypMenuVUndo.....	41
HypMenuVVisualizeinExcel.....	41
HypMenuVZoomIn.....	42
HypMenuVZoomOut.....	42
HypExecuteMenu.....	43
HypHideRibbonMenu.....	44
HypHideRibbonMenuReset.....	45

メニュー関数について

VBA のメニューの関数は、Smart View のメニューおよびリボンのコマンドに相当します。これらのメニュー関数の必要条件は、メニュー・コマンドの必要条件と同じです。たとえば、あるメニュー・コマンドを使用するために Oracle Essbase サーバーへのログインが必要な場合は、同等の VBA コマンドを使用する際にも Essbase サーバーへのログインが必要です。

HypMenuVAbout

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Oracle Hyperion Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVAbout()は、ヘルプの「バージョン情報」画面を開きます。

構文

HypMenuVAbout()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVAbout Lib "HsAddin" () As Long
    Sub MAbout()
    X=HypMenuVAbout()
    End Sub
```

HypMenuVAdjust

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVAdjust()は、「データの調整」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVAdjust()

戻り値

正常に終了した場合は0を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVAdjust Lib "HsAddin" () As Long
Sub MAdjust()
    X=HypMenuVAdjust()
End Sub
```

HypMenuVBusinessRules

データ・プロバイダ・タイプ: Planning

説明

HypMenuVBusinessRules()は、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVBusinessRules()

戻り値

正常に終了した場合は0を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVBusinessRules Lib "HsAddin" () As Long
Sub MBusinessRules()
    X=HypMenuVBusinessRules()
End Sub
```

HypMenuVCalculation

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVCalculation()は、「計算スクリプト」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVCalculation()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVCalculation Lib "HsAddin" () As Long
Sub MCalc()
    X=HypMenuVCalculation()
End Sub
```

HypMenuVCascadeNewWorkbook

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVCascadeNewWorkbook()は、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開き、新たに開かれる Excel ワークブックのワークシートに対してカスケード・プロセスを開始します。

構文

HypMenuVCascadeNewWorkbook()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVCascadeNewWorkbook Lib "HsAddin" () As Long
Sub MCascadeNewWorkbook()
    X=HypMenuVCascadeNewWorkbook()
End Sub
```

HypMenuVCascadeSameWorkbook

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVCascadeSameWorkbook()は、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開き、同じワークブックに対してカスケード・プロセスを開始します。

構文

HypMenuVCascadeSameWorkbook()

戻り値

正常に終了した場合は0を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVCascadeSameWorkbook Lib "HsAddin" () As Long
Sub MCascadeSameWorkbook()
    X=HypMenuVCascadeSameWorkbook()
End Sub
```

HypMenuVCellText

データ・プロバイダ・タイプ: Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise
(フォームのみ)

説明

HypMenuVCellText()は、「セル・コメント」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVCellText()

戻り値

正常に終了した場合は0を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVCellText Lib "HsAddin" () As Long

Sub MCellText()
    X=HypMenuVCellText()
End Sub
```

HypMenuVCollapse

データ・プロバイダ・タイプ: Planning (フォームのみ)

説明

HypMenuVCollapse()は、選択したセルの全レベルの詳細を縮小します。

構文

HypMenuVCollapse()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVCollapse Lib "HsAddin" () As Long
Sub MHypMenuVCollapse()
    X=HypMenuVCollapse()
End Sub
```

HypMenuVConnect

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVConnect()は Smart View パネルを開き、ユーザーがデータ・プロバイダに接続できるようにします。

構文

HypMenuVConnect()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVConnect Lib "HsAddin" () As Long
Sub MConn()
    X=HypMenuVConnect()
End Sub
```

HypMenuVCopyDataPoints

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVCopyDataPoints()は、Word または PowerPoint に貼り付けるデータ・ポイントを Excel からコピーします。32 ページの「[HypMenuVPasteDataPoints](#)」も参照してください。

構文

HypMenuVCopyDataPoints()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVCopyDataPoints Lib "HsAddin" () As Long
Sub MCopyDataPoints()
    X=HypMenuVCopyDataPoints()
End Sub
```

HypMenuVExpand

データ・プロバイダ・タイプ: Planning (フォームのみ)

説明

HypMenuVExpand()は、選択したセルの全レベルの詳細を表示します。

構文

HypMenuVExpand()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVExpand Lib "HsAddin" () As Long
Sub MExpand()
    X=HypMenuVExpand()
End Sub
```

HypMenuVFunctionBuilder

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVFunctionBuilder()は、関数ビルダーを開きます。

構文

HypMenuVFunctionBuilder()

戻り値

正常に終了した場合は0を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVFunctionBuilder Lib "HsAddin" () As Long
Sub MFunctionBuilder()
    X=HypMenuVFunctionBuilder()
End Sub
```

HypMenuVInstruction

データ・プロバイダ・タイプ: Planning (フォームのみ)、Financial Management (フォームのみ)、Hyperion Enterprise (フォームのみ)

説明

HypMenuVInstruction()は、「指示」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

正常に終了した場合は0を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

戻り値

HypMenuVInstruction()

例

```
Public Declare Function HypMenuVInstruction Lib "HsAddin" () As Long
Sub MInstruction()
    X=HypMenuVInstruction()
End Sub
```

HypMenuVKeepOnly

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase (アド・ホックのみ)、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVKeepOnly()は、シート内で選択したメンバー(アクティブ・セル)またはメンバー範囲のみを保持します。

構文

HypMenuVKeepOnly()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVKeepOnly Lib "HsAddin" () As Long
Sub MKeepOnly()
    X=HypMenuVKeepOnly()
End Sub
```

HypMenuVLRO

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypMenuVLRO()は、「リンク・オブジェクト」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVLRO()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVLRO Lib "HsAddin" () As Long
Sub MLRO()
    X=HypMenuVLRO()
End Sub
```

HypMenuVMemberInformation

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypMenuVMemberInformation()は、「メンバー情報」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVMemberInformation()

戻り値

正常に終了した場合は0を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVMemberInformation Lib "HsAddin" () As Long
Sub MMemberInformation()
    X=HypMenuVMemberInformation()
End Sub
```

HypMenuVMemberSelection

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVMemberSelection()は、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVMemberSelection()

戻り値

正常に終了した場合は0を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVMemberSelection Lib "HsAddin" () As Long
Sub MMemberSelection()
    X=HypMenuVMemberSelection()
End Sub
```

HypMenuVMigrate

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVMigrate()を使用すると、Financial Management および Hyperion Enterprise の「アクティブ・ワークブックの移行」や「バッチの移行」を行うための移行ユーティリティを起動できます。

構文

HypMenuVMigrate (vtOption, vtOutput)

ByVal vtOption As Variant

ByRef vtOutput As Variant

パラメータ

vtOption: 起動される移行ユーティリティを示す数:

- 1 - Financial Management のアクティブ・ワークブックの移行
- 2 - Financial Management のバッチの移行
- 3 - Hyperion Enterprise のアクティブ・ワークブックの移行
- 4 - Hyperion Enterprise のバッチの移行

vtOutput: 出力パラメータ。移行結果を戻します。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVMigrate Lib "HsAddin" (ByVal vtOption As Variant,  
ByRef vtOutput As Variant) As Long
```

```
Sub MigrateHFM()  
sts = HypMenuVMigrate(1, out)  
MsgBox (out)  
MsgBox (sts)  
End Sub
```

HypMenuVOptions

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVOptions()は、「オプション」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVOptions()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVOptions Lib "HsAddin" () As Long
Sub MOptions()
    X=HypMenuVOptions()
End Sub
```

HypMenuVPasteDataPoints

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVPasteDataPoints()は、Excel から Word または PowerPoint にデータ・ポイントを貼り付けます。27 ページの「[HypMenuVCopyDataPoints](#)」も参照してください。

構文

HypMenuVPasteDataPoints()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVPasteDataPoints Lib "HsAddin" () As Long
Sub MVPasteDataPoints()
    X=HypMenuVPasteDataPoints()
End Sub
```

HypMenuVPivot

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVPivot()は、選択したセルに関連するメンバーをピボットします。

構文

HypMenuVPivot()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVPivot Lib "HsAddin" () As Long
Sub MPivot()
    X=HypMenuVPivot()
End Sub
```

HypMenuVPOVManager

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVPOVManager()は、POV マネージャを開きます。

構文

HypMenuVPOVManager()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVPOVManager Lib "HsAddin" () As Long
Sub MPOVManager()
    X=HypMenuVPOVManager()
End Sub
```

HypMenuVQueryDesigner

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVQueryDesigner()は、クエリー・デザイナーを開きます。

構文

HypMenuVQueryDesigner()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVQueryDesigner Lib "HsAddin" () As Long
Sub MDesigner()
    X=HypMenuVQueryDesigner ()
End Sub
```

HypMenuVRedo

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVRedo()は「元に戻す」の逆の操作です。

構文

HypMenuVRedo()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVRedo Lib "HsAddin" () As Long
Sub MRedo()
    X=HypMenuVRedo()
End Sub
```

HypMenuVRefresh

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVRefresh()は、アクティブなワークシートをリフレッシュします。

構文

HypMenuVRefresh()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVRefresh Lib "HsAddin" () As Long
Sub MRetrieve()
    X=HypMenuVRefresh()
End Sub
```

HypMenuVRefreshAll

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVRefreshAll()は、Excel ワークブック内の接続されているすべてのワークシートのデータをリフレッシュします。

構文

HypMenuVRefreshAll()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVRefreshAll Lib "HsAddin" () As Long
Sub MRefreshAll()
    X=HypMenuVRefreshAll()
End Sub
```

HypMenuVRefreshOfflineDefinition

データ・プロバイダ・タイプ: Planning

説明

HypMenuVRefreshOfflineDefinition()は、オフライン・データ・フォームの定義とデータをリフレッシュします。

構文

HypMenuVRefreshOfflineDefinition()

戻り値

正常に終了した場合は0を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVRefreshOfflineDefinition Lib "HsAddin" () As Long
Sub MRefreshOfflineDefinition()
    X=HypMenuVRefreshOfflineDefinition()
End Sub
```

HypMenuVRemoveOnly

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVRemoveOnly()は、シート内で選択したメンバーまたはメンバー範囲のみを除去します。

構文

HypMenuVRemoveOnly()

戻り値

正常に終了した場合は0を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypMenuVRemoveOnly Lib "HsAddin" () As Long
Sub MRemoveOnly()
    X=HypMenuVRemoveOnly()
End Sub
```

HypMenuVRulesOnForm

データ・プロバイダ・タイプ: Planning (フォームのみ)

説明

HypMenuVRulesOnForm()は、「フォームに関する規則」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVRulesOnForm()

戻り値

正常に終了した場合は0を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVRulesOnForm Lib "HsAddin" () As Long
Sub MRulesOnForm()
    X=HypMenuVRulesOnForm()
End Sub
```

HypMenuVRunReport

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVRunReport()は、クエリー・デザイナーで設計したレポートを実行します。

構文

HypMenuVRunReport()

戻り値

正常に終了した場合は0を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVRunReport Lib "HsAddin" () As Long
Sub MRunReport()
    X=HypMenuVRunReport()
End Sub
```

HypMenuVSelectForm

データ・プロバイダ・タイプ: Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVSelectForm()は、「フォームの選択」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

```
HypMenuVSelectForm()
```

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVSelectForm Lib "HsAddin" () As Long
Sub MSelectForm()
    X=HypMenuVSelectForm()
End Sub
```

HypMenuVShowHelpHtml

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVShowHelpHtml()は、オンライン・ヘルプを起動します。

構文

```
HypMenuVShowHelpHtml(vtHelpPage)
```

```
ByVal vtHelpPage As Variant
```

パラメータ

vtHelpPage: ヘルプを起動する HTML ファイルの名前。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVShowHelpHtml Lib "HsAddin" (ByVal vtHelpPage As Variant) As Long
```

```
Sub MShowHelpHtml()  
    X=HypMenuVShowHelpHtml("launch.htm")  
End Sub
```

HypMenuVSubmitData

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypMenuVSubmitData()は、変更されたデータすなわち HypSetCellsDirty でダーティとしてマークされたデータを、サーバー上のアクティブ・データベースに送信します。

構文

HypMenuVSubmitData()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVSubmitData Lib "HsAddin" () As Long  
Sub MSubmit()  
    X=HypMenuVSubmitData()  
End Sub
```

HypMenuVSupportingDetails

データ・プロバイダ・タイプ: Planning

説明

HypMenuVSupportingDetails()は、「サポート詳細」ダイアログ・ボックスを開きます。

構文

HypMenuVSupportingDetails()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVSupportingDetails Lib "HsAddin" () As Long
Sub MSupportingDetails()
    X=HypMenuVSupportingDetails()
End Sub
```

HypMenuVSyncBack

データ・プロバイダ・タイプ: Planning

説明

HypMenuVSyncBack()は、オフライン Planning データ・フォームからサーバーにデータを同期します。

構文

HypMenuVSyncBack()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVSyncBack Lib "HsAddin" () As Long
Sub MSyncBack()
    X=HypMenuVSyncBack()
End Sub
```

HypMenuVTakeOffline

データ・プロバイダ・タイプ: Planning

説明

HypMenuVTakeOffline()は、「オフライン化」ウィザードを起動します。

構文

HypMenuVTakeOffline()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVTakeOffline Lib "HsAddin" () As Long
Sub MTakeOffline()
    X=HypMenuVTakeOffline()
End Sub
```

HypMenuVUndo

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVUndo()は、直前のデータベース・ビューを復元します。

構文

HypMenuVUndo()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVUndo Lib "HsAddin" () As Long
Sub MUndo()
    X=HypMenuVUndo()
End Sub
```

HypMenuVVisualizeinExcel

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVVisualizeinExcel()は、データ・ポイントが Word または PowerPoint にコピーされた Excel スプレッドシートを取得します。

構文

HypMenuVVisualizeinExcel()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypMenuVVisualizeinExcel Lib "HsAddin" () As Long
Sub MVisualizeinExcel ()
    X=HypMenuVVisualizeinExcel ()
End Sub
```

HypMenuVZoomIn

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVZoomIn()は、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定されたオプションに従って、データを展開表示します。

構文

HypMenuVZoomIn()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVZoomIn Lib "HsAddin" () As Long
Sub MZoomIn ()
    X=HypMenuVZoomIn ()
End Sub
```

HypMenuVZoomOut

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypMenuVZoomOut()は、データのビューを縮小します。

構文

HypMenuVZoomOut()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypMenuVZoomOut Lib "HsAddin" () As Long
Sub MZoomOut ()
    X=HypMenuVZoomOut ()
End Sub
```

HypExecuteMenu

データ・プロバイダ・タイプ:すべて

説明

HypExecuteMenu()は、指定されたメニューまたはリボンのアイテムを実行します。

HypExecuteMenu を使用できるのは次のコントロールのみです: ボタン、分割ボタン、メニュー、動的メニュー、トグル・ボタン(拡張機能用のトグル・ボタンはサポートされません)。

構文

HypExecuteMenu (vtSheetName, vtMenuName) As Long

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMenuName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力パラメータ; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMenuName: 入力パラメータ; 実行するメニュー・アイテムの名前。

- 複数のリボンまたはメニューに表示されるアイテムの場合は、正確に指定するために、->という文字を使用してリボンのタイトル(Office 2007 以降)をアイテム名の前に付加する必要があります。たとえば、Smart View のリボンの「リフレッシュ」と Essbase のリボンの「リフレッシュ」を区別するには、Smart View->Refresh または Essbase->Refresh を使用します。同じデータ・プロバイダまたは拡張機能のリボン内で重複するアイテムは使用できません。
- アクションに関連付けられたアイテムのみがサポートされます。たとえば、Smart View パネルを開く「パネル」は使用できます。「接続」は、アクションに関連付けられていないため使用できません。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。この関数の一般的なエラー・コードには、-15 (無効なパラメータ) と -73 (あいまい: メニュー名を解決できない) があります。

例

```
Public Declare Function HypExecuteMenu Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMenuName As Variant) As Long
Sub Example_ExecuteMenu()
sts = HypExecuteMenu("Sheet1", "Panel") 'returns 0
sts = HypExecuteMenu(Empty, "Smartview->Refresh") 'returns 0
sts = HypExecuteMenu("Sheet1", "Refresh") 'returns -73 (ambiguity)
sts = HypExecuteMenu("Sheet1", "Connections") 'returns -15 (invalid parameter because "Connections" is not associated with an action)
End Sub
```

HypHideRibbonMenu

データ・プロバイダ・タイプ: すべて

説明

リボン・メニューおよびメニュー・アイテムを非表示にします。シートの入力に基づいて、コンテキスト・リボン・メニューおよびメニュー・アイテムも非表示にします。

Smart View のリボンのカスタマイズは、どのシートにも適用できます。コンテキスト・リボンのカスタマイズはシート・ベースです。

この関数は、Office 2007 以上でサポートされています。

構文

```
Public Declare Function HypHideRibbonMenu Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ParamArray vtMenus() As Variant) As Long
```

ByVal vtSheetName As Variant

ParamArray vtMenus() As Variant

パラメータ

vtSheetName: リボン・メニューおよびメニュー・アイテムを非表示にするシート名を含む入力変数。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMenus: 非表示にするリボン・メニュー名およびメニュー・アイテム名を含む入力変数。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。この関数の一般的なエラー・コードは-73 (あいまいさ)です。

例

```
Sub HideMenus ()

sts = HypHideRibbonMenu ("Sheet1", "Smart View->Submit Data", "Panel")

sts = HypHideRibbonMenu("Sheet1", "Smart View->Refresh->Refresh")
'Hides the submenu item Refresh under the Refresh split button

sts = HypHideRibbonMenu("Sheet1", "Essbase->POV", "Smart View->Copy", "Essbase->Same
Workbook")
'Hides menu items for different ribbons on the same sheet

End Sub
```

HypHideRibbonMenuReset

データ・プロバイダ・タイプ:すべて

説明

HypHideRibbonMenu を使用して、シートで非表示になっているリボン・メニューおよびメニュー・アイテムの可視性をリセットします。

この関数は、Office 2007 以上でサポートされています。

構文

```
Public Declare Function HypHideRibbonMenuReset Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName
As Variant) As Long
```

```
ByVal vtSheetName As Variant
```

パラメータ

vtSheetName: 非表示のメニューおよび非表示のメニュー・アイテムが表示される状態にリセットするシート名を含む入力変数。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Sub HideMenuReset ()
```

```
sts = HypHideRibbonMenuReset ("Sheet1")
'Resets the visibility of menus and menu items hidden on this sheet

End Sub
```

この章の内容

一般関数について	47
HypShowPanel	47
HypGetVersion.....	48
HypGetLastError.....	50
HypShowPov.....	51
HypSetMenu.....	51
HypCopyMetaData	52
HypDeleteMetaData	53
HypIsDataModified.....	54
HypIsSmartViewContentPresent	55
HypIsFreeForm	56
HypUndo	57
HypRedo	57
HypPreserveFormatting	58
HypRemovePreservedFormats	59
HypSetAliasTable.....	60
HypGetSubstitutionVariable.....	61
HypSetSubstitutionVariable.....	62
HypGetDatabaseNote.....	63

一般関数について

一般 VBA 関数は、通常は Smart View のリボンまたは「オプション」ダイアログ・ボックスから実行されるアクションの実行、オプションの設定または情報の取得を行います。

HypShowPanel

データ・プロバイダ・タイプ: すべて

説明

HypShowPanel()は、Smart View パネルの表示と非表示を切り替えます。非表示になっている Smart View パネルが表示されるのは、ユーザーが Smart View のリボンで「パネル」を選択するか、HypShowPanel を実行する場合のみです。

構文

HypShowPanel Lib (bShow)

ByVal bShow As Boolean

パラメータ

bShow: Smart View パネルを表示する場合は、True に設定します。Smart View パネルを非表示にするには、False に設定します

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

Smart View パネルを表示するには:

```
Public Declare Function HypShowPanel Lib "HsAddin" (ByVal bShow As Boolean) As Long
Sub Example_HypShowPanel()
sts = HypShowPanel(True)
End Sub
```

Smart View パネルを非表示にするには:

```
Public Declare Function HypShowPanel Lib "HsAddin" (ByVal bShow As Boolean) As Long
Sub Example_HypShowPanel()
sts = HypShowPanel(False)
End Sub
```

HypGetVersion

データ・プロバイダ・タイプ: すべて

説明

HypGetVersion()は、インストールされている Smart View のバージョンについて次の情報を取得し、バージョン情報ファイルを作成します:

- 製品のバージョン番号

- ビルド番号
- ビルド日付
- ビルド・バージョン

構文

HypGetVersion (vtID, vtValueList, vtVersionInfoFileCommand)

ByVal vtID As Variant

ByRef vtValueList As Variant

ByVal vtVersionInfoFileCommand As Variant

パラメータ

vtID: 入力パラメータ; 情報が必要な ID; 次の定数または文字列のいずれか、あるいは空にすることができます:

- BUILD_DATE または"BUILD DATE"
- BUILD_NUMBER または"BUILD NO"
- BUILD_VERSION または"VERSION"
- PRODUCT_ID または"PRODUCT" ID
- Empty: Empty にすると、バージョン情報ファイルのすべての情報がカンマ区切り値として出力リストに含まれます。

vtValueList: 出力パラメータ; 配列リストまたは必要な値

vtVersionInfoFileCommand: 入力パラメータ; vtID が空の場合に、バージョン情報ファイルを保存または起動するためのコマンド ID (数値)。可能な値:

- 0- 何も行いません
- 1- バージョン情報ファイルを保存します
- 2- バージョン情報ファイルを起動します

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します

例

ビルド・バージョンを表示するメッセージ・ボックスを作成するには:

```
Public Declare Function HypGetVersion Lib "HsAddin" (ByVal vtID As Variant, ByRef vtValueList As Variant, ByVal vtVersionInfoFileCommand As Variant) As Long
Sub Example_HypGetVersion()
sts = HypGetVersion(BUILD_VERSION, version, 0)
MsgBox version(0)
End Sub
```

バージョン情報ファイルでバージョン情報の取得と保存を行うには:

```
Public Declare Function HypGetVersion Lib "HsAddin" (ByVal vtID As Variant, ByRef vtValueList As Variant, ByVal vtVersionInfoFileCommand As Variant) As Long
Sub Example_HypGetVersion()
sts = HypGetVersion("", versioninfo, 1) 'saves version info file in user directory and gets array
inf = versioninfo(0) 'gets the information in 0th array element
End Sub
```

HypGetLastError

データ・プロバイダ・タイプ: すべて

説明

HypGetLastError()は、Smart View に格納された最後のエラー・メッセージを戻します。これは、サーバーに格納されているエラー・メッセージを取得します(VBA関数から戻されるエラー・メッセージは、サーバーから取得するメッセージと一致しないことがあります)。

構文

HypGetLastError (vtErrorCode, vtErrorMessage, vtErrorDescription)

ByRef vtErrorCode As Variant

ByRef vtErrorMessage As Variant

ByRef vtErrorDescription As Variant

パラメータ

vtErrorCode: エラー・コード番号

vtErrorMessage: エラー・メッセージ

vtErrorDescription: エラーの説明

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypGetLastError Lib "HsAddin" (ByRef vtErrorCode As Variant, ByRef vtErrorMessage As Variant, ByRef vtErrorDescription As Variant) As Long
Sub Example_HypGetLastError
ReturnValue = HypGetLastError(ErrorCodeValue, ErrorMessageValue, ErrorDescriptionValue)
```

End Sub

HypShowPov

データ・プロバイダ・タイプ: すべて

説明

HypShowPov()は、POV ツールバーの表示と非表示を切り替えます。

構文

HypShowPov(bShowPov)

ByVal bShowPov As Boolean

パラメータ

bShowPov: True に設定すると、POV ツールバーは表示されます。False に設定すると、POV ツールバーが非表示になります。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypShowPov Lib "HsAddin" (ByVal bShowPov As Boolean) As  
Long  
Sub Example_HypShowPov()  
X=HypShowPov(True)  
End Sub
```

HypSetMenu

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

Excel 2007 および 2010 で、HypSetMenu()は、Smart View とデータ・プロバイダのリボンの表示と非表示を切り替えます。

構文

HypSetMenu(bSetMenu)

ByVal bSetMenu As Boolean

パラメータ

bSetMenu: リボンまたはメニューを表示する場合は、True に設定します。メニューまたはリボンを非表示にするには、False に設定します。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します

例

```
Declare Function HypSetMenu Lib "HsAddin" (ByVal bSetMenu As Boolean) As Long
Sub Example_HypSetMenu()
X=HypSetMenu(True)
End Sub
```

HypCopyMetaData

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypCopyMetaData()は、ワークシートからワークシートにメタデータをコピーします。

構文

HypCopyMetaData (vtSourceSheetName, vtDestinationSheetName)

ByVal vtSourceSheetName As Variant

ByVal vtDestinationSheetName As Variant

パラメータ

vtSourceSheetName: コピーするデータを含むワークシートの名前

vtDestinationSheetName: 宛先のワークシートの名前

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypCopyMetaData Lib "HsAddin" (ByVal vtSourceSheetName As Variant, ByVal vtDestinationSheetName As Variant) As Long
Sub Example_HypCopyMetaData()
Dim LRet As Long
LRet = HypCopyMetaData ("Sheet1", "Sheet2")
```

HypDeleteMetaData

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise、Oracle Hyperion Reporting and Analysis

説明

HypDeleteMetaData()は、次の3つのいずれかのモードで、ワークブックから Smart View メタデータを削除します:

- モード 1 - 指定されたワークシート・ストレージからのみ、すべての Smart View メタデータを削除します
- モード 2 - 指定されたワークブック・ストレージからのみ、すべての Smart View メタデータを削除します
- モード 3 - 指定されたワークブック・ストレージとすべてのワークシート・ストレージから、すべての Smart View メタデータを削除します

構文

HypDeleteMetaData(vtDispObject, vtbWorkbook,
vtbClearMetadataOnAllSheetsWithinWorkbook)

vtDispObject As Variant

vtbWorkbook As Variant

vtbClearMetadataOnAllSheetsWithinWorkbook As Variant

パラメータ

vtDispObject: メタデータを削除するワークシートまたはワークブックを示す、ワークシートまたはワークブックのディスパッチ・オブジェクト。Null が渡された場合、**vtbWorkbook** によりアクティブなワークシートまたはアクティブなワークブックが決定され、削除されます。

vtbWorkbook: ブール値。ワークシート・ディスパッチまたはワークブック・ディスパッチを渡したことを示します。vtDispObject に Null が渡されている場合、このフラグは、ユーザーがアクティブなワークシートまたはアクティブなワークブックからメタデータを削除することを求めていると判断します。

vtbClearMetadataOnAllSheetsWithinWorkbook: ブール値。Smart View メタデータをワークブック内のすべてのシートから削除するように指定します。**vtbWorkbook** が True に設定されている場合にのみ使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypDeleteMetaData Lib "HsAddin" (ByVal vtDispObject As Variant, ByVal vtbWorkbook As Variant, ByVal vtbClearMetadataOnAllSheetsWithinWorkbook As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypDeleteMetaData()  
    Dim Ret As Long  
    Dim Workbook As Workbook  
    Dim Sheet As Worksheet  
  
    Set Workbook = ActiveWorkbook  
    Set Sheet = ActiveSheet  
  
    'Ret = HypDeleteMetaData(oSheet, False, True) 'Mode 1  
    Ret = HypDeleteMetaData(oWorkbook, True, False) 'Mode 2  
    'Ret = HypDeleteMetaData(oWorkbook, True, True) 'Mode 3  
  
    MsgBox (Ret)  
  
End Sub
```

HypIsDataModified

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypIsDataModified()は、変更されたものの送信されていないデータ・セルがないかどうかを判別します。

構文

HypIsDataModified (vtSheetName)

By Val vtSheetName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

戻り値

変更されたものの送信されていないデータ・セルがワークシートに含まれる場合は、True を戻します。それ以外の場合は、False を戻します。

例

```
Public Declare Function HypIsDataModified Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant) As Boolean
Sub Example_HypIsDataModified()
Dim oRet As Boolean
oRet = HypIsDataModified(Empty)
MsgBox (oRet)
End Sub
```

HypIsSmartViewContentPresent

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypIsSmartViewContentPresent()はシートに Smart View コンテンツが含まれているかどうかを判別します。

構文

```
HypIsSmartViewContentPresent(vtSheetName, vtTypeOfContentsInSheet])
```

ByVal vtSheetName As Variant

ByRef vtTypeOfContentsInSheet

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtTypeOfContentsInSheet: 出力パラメータ; ワークシート上のコンテンツのタイプを戻します。使用可能な値は次のような列挙型です。

```
Enum TYPE_OF_CONTENTS_IN_SHEET
EMPTY_SHEET
ADHOC_SHEET
FORM_SHEET
INTERACTIVE_REPORT_SHEET
End Enum
```

戻り値

ワークシートに Smart View コンテンツが含まれている場合は True を返し、それ以外の場合は False を戻します。

例

```
Public Declare Function HypIsSmartViewContentPresent Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByRef vtTypeOfContentsInSheet As TYPE_OF_CONTENTS_IN_SHEET) As Boolean
```

```

Sub Example_HypIsSmartViewContentPresent()
    Dim Ret As Boolean
    Dim vtTypeOfContentsInSheet As TYPE_OF_CONTENTS_IN_SHEET
    Dim SheetName As String
    Dim SheetDisp As Worksheet

    SheetName = Empty
    Set SheetDisp = Worksheets("Sheet1")
    Ret = HypIsSmartViewContentPresent (Empty, ContentType)
End Sub

```

HypIsFreeForm

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypIsFreeForm()は、ワークシートがフリー・フォーム・モードかどうかを判別します。

構文

HypIsFreeForm (vtSheetName)

By Val vtSheetName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

戻り値

ワークシートがフリー・フォーム状態の場合は True、それ以外の場合は False を返します。

例

```

Public Declare Function HypIsFreeForm Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant) As Boolean
Sub Example_HypIsFreeForm()
    Dim oRet As Boolean
    oRet = HypIsFreeForm(Empty)
    MsgBox (oRet)
End Sub

```

HypUndo

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypUndo()は、「ズーム・イン」、「ズーム・アウト」、「選択項目のみ保持」、「選択項目のみ除去」または「リフレッシュ」操作の前の状態にワークシートのデータベース・ビューを戻します。

構文

HypUndo (vtSheetName)

ByVal vtSheetName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypUndo Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant) As Long
Sub Example_HypUndo()
X=HypUndo(Sheet1)
End Sub
```

HypRedo

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypRedo()は、「元に戻す」操作の前の状態にデータベース・ビューを戻します。

構文

HypRedo (vtSheetName)

ByVal vtSheetName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypRedo Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant) As Long
Sub Example_HypRedo()
X=HypRedo(Sheet1)
End Sub
```

HypPreserveFormatting

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypPreserveFormatting()はズーム・インによって作成されたセルにグリッドのフォーマットを適用します。

構文

HypPreserveFormatting (vtSheetName, vtSelectionRange)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: フォーマットを保持するセル(複数可)の範囲。複数の範囲がサポートされます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypPreserveFormatting Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelectionRange As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypPreserveFormatting()
```

```
Dim oRet As Long
```

```

Dim oSheetName As String
Dim oSheetDisp As Worksheet

oSheetName = Empty
Set oSheetDisp = Sheet1
oRet = HypPreserveFormatting ("", oSheetDisp.Range("B2"))

MsgBox (oRet)

End Sub

```

HypRemovePreservedFormats

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypRemovePreservedFormats()は設定されているフォーマットを除去します。

注: 元のフォーマットが適用される前にリフレッシュする必要があります。

構文

HypRemovePreservedFormats (vtSheetName,
vtbRemoveAllCapturedFormats,vtSelectionRange)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtbRemoveAllCapturedFormats As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtbRemoveAllCapturedFormats: 選択した範囲に保持されているすべてのフォーマットを除去する場合は、True に設定します。それ以外の場合は、False に設定します。True に設定すると、次に続くパラメータの値は使用されないため、ユーザーは vtSelectionRange に Null を渡すことができます。

vtSelectionRange: フォーマットを保持するセル(複数可)の範囲。複数の範囲がサポートされます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypRemovePreservedFormats Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtbRemoveAllCapturedFormats As Variant, ByVal vtSelectionRange As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypRemovePreservedFormats()
```

```
    Dim Ret As Long  
    Dim SheetName As String  
    Dim SheetDisp As Worksheet
```

```
    SheetName = "Sheet1"
```

```
    Set oSheetDisp = Worksheets(SheetName)  
    'Ret = HypRemovePreservedFormats(Empty, False, SheetDisp.Range("B2"))  
    Ret = HypRemovePreservedFormats(Empty, True, Null)  
    MsgBox (oRet)
```

```
End Sub
```

HypSetAliasTable

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning

説明

HypSetAliasTable()は、選択したワークシートの別名表を設定します。

構文

HypSetAliasTable (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtAliasTableName As Variant)

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtAliasTableName: 別名表の、テキストによる名前。vtAliasTableName の形式には、"Default"、"Long Names"などがあります。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypSetAliasTable Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtAliasTableName As Variant) As Long  
Sub Example_SetAliasTable
```

```
sts = HypSetAliasTable(Empty, "Long Names")  
End sub
```

HypGetSubstitutionVariable

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypGetSubstitutionVariable()は、Essbase から代替変数およびその現在の値を取得します。

構文

HypGetSubstitutionVariable (vtSheetName, vtApplicationName, vtDatabaseName, vtVariableName, vtVariableNames, vtVariableValues)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtApplicationName As Variant

ByVal vtDatabaseName As Variant

ByVal vtVariableName As Variant

ByRef vtVariableNames As Variant

ByRef vtVariableValues As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtApplicationName: 代替変数を戻すアプリケーションの名前。Null または Empty に設定されると、すべてのアプリケーションが考慮されます。

vtDatabaseName: 代替変数を戻すデータベースの名前。Null または Empty に設定されると、すべてのデータベースが考慮されます。

vtVariableName: 取得される代替変数の名前。Null または Empty に設定されると、変数のリスト全体が戻されます。

vtVariableNames: 代替変数名のリストを格納する出力結果ベクトル。マクロが正常に終了しなかった場合、コンテンツは不明になります。

vtVariableValues: 戻される各変数に対応する代替変数値のリストを格納する出力結果ベクトル。マクロが正常に終了しなかった場合、コンテンツは不明になります。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetSubstitutionVariable Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtApplicationName As Variant, ByVal vtDatabaseName As Variant, ByVal vtVariableName As Variant, ByRef vtVariableNames As Variant, ByRef vtVariableValues As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypGetSubstitutionVariable()  
    Dim sts As Long  
    sts = HypGetSubstitutionVariable(Empty, "Sample", "Basic", Empty, vtVarNameList, vtVarValueList)  
End If  
End Sub
```

HypSetSubstitutionVariable

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypSetSubstitutionVariable()は、Essbaseに代替変数を作成します。変数がすでに存在する場合は、その値が、新しく指定された値に設定されます。

構文

HypSetSubstitutionVariable (vtSheetName, vtApplicationName, vtDatabaseName, vtVariableName, vtVariableValue)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtApplicationName As Variant

ByVal vtDatabaseName As Variant

ByVal vtVariableName As Variant

ByVal vtVariableValue As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。Null または Empty に設定されると、アクティブなワークシートが使用されます。

vtApplicationName: 新しい代替変数を作成するアプリケーションの名前。Null または Empty に設定されると、変数のスコープはグローバルになります。

vtDatabaseName: 新しい変数を作成するデータベースの名前。Null または Empty に設定されると、作成される変数のスコープは、指定されたアプリケーション内でグローバルになります。

vtVariableName: 作成する変数の名前。必須。

vtVariableValue: 変数に割り当てる値。必須。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetSubstitutionVariable Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtApplicationName As Variant, ByVal vtDatabaseName As Variant, ByVal vtVariableName As Variant, ByVal vtVariableValue As Variant) As Long

Sub Example_HypSetSubstitutionVariable
    Dim X as Long
    X = HypSetSubstitutionVariable(Empty, "Sample", "Basic", "Account", "100")
End Sub
```

HypGetDatabaseNote

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypGetDatabaseNote()は、Essbase データベース・ノートを取得します。

構文

HypGetDatabaseNote (vtSheetName, vtDBNote)

ByVal vtSheetName As Variant

ByRef vtDBNote As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力パラメータ; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDBNote: 出力パラメータ; 取得するデータベース・ノート。

例

```
Public Declare Function HypGetDatabaseNote Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByRef vtDBNote As Variant) As Long
Sub Example_HypGetDatabaseNote()
    sts = HypGetDatabaseNote(Empty, DBNote)
    MsgBox DBNote
End Sub
```


4

接続関数

この章の内容

接続関数について	65
HypConnect.....	65
HypUIConnect	66
HypConnected.....	67
HypConnectionExists.....	68
HypCreateConnection.....	69
HypCreateConnectionEx	71
HypDisconnect	73
HypDisconnectAll	73
HypDisconnectEx.....	74
HypGetSharedConnectionsURL.....	75
HypSetSharedConnectionsURL	75
HypIsConnectedToSharedConnections.....	76
HypRemoveConnection.....	77
HypInvalidateSSO.....	77
HypResetFriendlyName	78
HypSetActiveConnection	79
HypSetAsDefault	79
HypSetConnAliasTable.....	80

接続関数について

接続関数は、データ・プロバイダへの接続に関連するアクションを実行します。

HypConnect

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypConnect()は、データ・プロバイダにログインし、ワークシートをその接続に関連付けます。接続をシートに関連付けるためには、シートごとに HypConnect() を呼び出す必要があります。

構文

HypConnect (vtSheetName, vtUserName, vtPassword, vtFriendlyName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtUserName As Variant

ByVal vtPassword As Variant

ByVal vtFriendlyName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtUserName: 有効なユーザー名

vtPassword: このユーザーのパスワード

vtFriendlyName: データ・プロバイダのわかりやすい接続名これは、[HypCreateConnection](#) によって作成された接続名です。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypConnect Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtUserName As Variant, ByVal vtPassword As Variant, ByVal vtFriendlyName As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypConnect()  
    X=HypConnect (Empty,  
        UserName  
        ,  
        Password  
        , "My Sample Basic")  
End Sub
```

HypUIConnect

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition

説明

ユーザー名とパスワードを指定しないと、HypUIConnect()によって「データ・ソースに接続」ダイアログ・ボックスが表示されます。すでに接続されている場合、ダイアログは表示されません。

構文

HypUIConnect Lib (vtSheetName, vtUserName, vtPassword, vtFriendlyName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtUserName As Variant

ByVal vtPassword As Variant

ByVal vtFriendlyName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtUserName: 有効なユーザー名

vtPassword: このユーザーのパスワード

vtFriendlyName: データ・プロバイダの接続名

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare PtrSafe Function HypUIConnect Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtUserName As Variant, ByVal vtPassword As Variant, ByVal vtFriendlyName As Variant) As Long
HypUIConnect(Empty, UserName, Password, "My Connection")
```

HypConnected

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypConnected()は、シートの接続ステータスを返します。

構文

HypConnected (vtSheetName)

ByVal vtSheetName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

戻り値

シートがプロバイダに接続されている場合は True、それ以外の場合は False を返します。

例

```
Declare Function HypConnected Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypConnected  
    Dim X As Variant  
    X = HypConnected(Empty)  
End sub
```

シートに接続している場合、値が-1の変数が戻され、VBA では True として解釈されます。戻り値として-1を取得するには、変数(戻り値を取るもの)をメンバー・タイプ(Long、Integer、Double など)として宣言する必要があります。次に示すスクリプトでこれを説明します:

```
Declare Function HypConnected Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant) As Variant  
Sub Example_HypConnected()  
Dim X As Integer 'Can also be Long or Double  
X = HypConnected(Empty) 'Value of X will become -1 if Sheet1 is connected  
End Sub
```

変数 X が定義されていない場合、VBA では(定義されていないその他の変数も) Variant として解釈されます。その後、Sheet1 が接続すると、X は True と同等のものになります。

変数 X がブール値として定義されている場合、戻り値は正確に True と表示されず。

HypConnectionExists

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypConnectionExists()は、Smart View パネルで表示されるすべての接続のリストに特定の接続名が存在するかどうかをチェック使用します。特定の接続は、アクティブ(接続済)であってもなくても関係ありません。

構文

HypConnectionExists(vtFriendlyName)

ByVal vtFriendlyName As Variant

パラメータ

vtFriendlyName: すべての接続のリストで検索する接続の名前。大文字と小文字は区別されません。

戻り値

ブール値。正常に終了した場合は TRUE を返し、それ以外の場合は FALSE を返します。

例

```
Declare Function HypConnectionExists Lib "HsAddin" (ByVal vtFriendlyName As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypConnectionExists  
    Dim bIsConnection as Boolean  
    bIsConnection = HypConnectionExists ("Demo_Basic")  
End sub
```

HypCreateConnection

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypCreateConnection()は、指定された情報からデータ・プロバイダへの接続を作成します。71 ページの「[HypCreateConnectionEx](#)」も参照してください。

注： Smart View パネルでデータ・プロバイダを追加する Planning ユーザーは、HypCreateConnectionEx を使用する必要があります。

注： 接続を確立するには、[HypConnect](#) を使用します。

構文

HypCreateConnection(vtSheetName, vtUserName, vtPassword, vtProvider, vtProviderURL, vtServerName, vtApplicationName, vtDatabaseName, vtFriendlyName, vtDescription)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtUserName As Variant

ByVal vtPassword As Variant

ByVal vtProvider As Variant

ByVal vtProviderURL As Variant

ByVal vtServerName As Variant

ByVal vtApplicationName As Variant

ByVal vtDatabaseName As Variant

ByVal vtFriendlyName As Variant

ByVal vtDescription As Variant

パラメータ

vtSheetName: 未使用

vtUserName: 有効なユーザー名

vtPassword: このユーザーのパスワード

vtProvider: データ・プロバイダ。サポートされる vtProvider のタイプ:

- Global Const HYP_ESSBASE = "Essbase"
- Global Const HYP_ENTERPRISE = "Hyperion Enterprise"
- Global Const HYP_FINANCIAL_MANAGEMENT = "Hyperion Financial Management"

注: グローバル定数 HYP_ANALYTIC_SERVICES = "Analytic Provider Services"は非推奨になりました。

vtProviderURL: データ・プロバイダの URL

vtServerName: アプリケーションがインストールされているサーバーの名前

vtApplicationName: アプリケーション名

vtDatabaseName: データベース名

vtFriendlyName: データ・プロバイダの接続名

vtDescription: データ・プロバイダの説明

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypCreateConnection Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtUserName As Variant, ByVal vtPassword As Variant, ByVal vtProvider As  
Variant, ByVal vtProviderURL As Variant, ByVal vtServerName As Variant, ByVal  
vtApplicationName As Variant, ByVal vtDatabaseName As Variant, ByVal vtFriendlyName  
As Variant, ByVal vtDescription As Variant) As Long  
Sub Example_HypCreateConnection()  
X = HypCreateConnection(Empty,  
    UserName  
    ,  
    Password  
    , HYP_ESSBASE, "http://localhost:13080/smartview/SmartView", "localhost",  
"Sample", "Basic", "My Connection", "Essbase_1")
```

End Sub

HypCreateConnectionEx

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise、Reporting and Analysis

説明

HypCreateConnectionEx は、HypCreateConnection の上位集合です; Smart View パネルを使用可能にする追加パラメータがあります。Smart View パネルでデータ・プロバイダを追加する Planning ユーザーは、HypCreateConnectionEx を使用する必要があります。

Essbase、Planning および Financial Management の場合、HypCreateConnectionEx を使用して、ワークスペース URL を使用したプライベート接続を作成できます。

構文

HypCreateConnectionEx (vtProviderType, vtServerName, vtApplicationName, vtDatabaseName, vtFormName, vtProviderURL, vtFriendlyName, vtUserName, vtPassword, vtDescription, vtReserved1, ByVal vtReserved2)

ByVal vtProviderType As Variant

ByVal vtServerName As Variant

ByVal vtApplicationName As Variant

ByVal vtDatabaseName As Variant

ByVal vtFormName As Variant

ByVal vtProviderURL As Variant

ByVal vtFriendlyName As Variant

ByVal vtUserName As Variant

ByVal vtPassword As Variant

ByVal vtDescription As Variant

ByVal vtReserved1 As Variant (将来の使用のために予約済)

ByVal vtReserved2 As Variant (将来の使用のために予約済)

パラメータ

vtProvider: データ・プロバイダ。サポートされる vtProviderType のタイプ:

- Global Const HYP_ESSBASE = "Essbase"
- Global Const HYP_PLANNING = "Planning"
- Global Const HYP_FINANCIAL_MANAGEMENT = "Financial Management"

- Global Const HYP_RA = "Hyperion Smart View Provider for Hyperion Reporting and Analysis"
- Global Const HYP_ENTERPRISE = "Hyperion Enterprise"

vtServerName: アプリケーションがインストールされているサーバーの名前

vtApplicationName: アプリケーション名

vtDatabaseName: データベース名

vtFormName: データ・フォームの名前。Smart View パネルの「お気に入り」に Planning の接続を作成する際に必要です。

vtProviderURL: データ・プロバイダの URL。Smart View パネルで Planning の接続を作成する際に必要です。

vtFriendlyName: データ・プロバイダの接続名

vtUserName: 有効なユーザー名

vtPassword: このユーザーのパスワード

vtDescription: データ・プロバイダの説明

注： Oracle Hyperion Reporting and Analysis の場合は、プロバイダ URL、プロバイダ・タイプおよび接続名のみが必要です。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypCreateConnectionEx Lib "HsAddin" (ByVal vtProviderType As Variant, ByVal vtServerName As Variant, ByVal vtApplicationName As Variant, ByVal vtDatabaseName As Variant, ByVal vtFormName As Variant, ByVal vtProviderURL As Variant, ByVal vtFriendlyName As Variant, ByVal vtUserName As Variant, ByVal vtPassword As Variant, ByVal vtDescription As Variant, ByVal vtReserved1 As Variant, ByVal vtReserved2 As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypCreateConnectionEx()
```

```
Dim lRet As Long
```

```
lRet = HypCreateConnectionEx("Essbase", "server12", "Demo", "Basic", "", "", "My Demo", "
```

```
    Username
```

```
    , "
```

```
    Password
```

```
    , "", "", "")
```

```
lRet = HypCreateConnectionEx("Planning", "plange14", "TotPlan", "", "/Forms/Smart View Forms/01 Product Revenue", "http://plange14:8300/HyperionPlanning/SmartView", "My Planning VBA Conn", "
```

```
    UserName
```

```
    ", "  
    Password  
    ", "", "", "")
```

```
End Sub
```

HypDisconnect

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypDisconnect()は、データ・プロバイダからログアウトします。

構文

```
HypDisconnect(vtSheetName, bLogoutUser)
```

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal bLogoutUser As Boolean

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

bLogoutUser: プロバイダ・セッションを切断してログアウトする場合は、True に設定します。デフォルト値は False です。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypDisconnect Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal  
bLogoutUser As Boolean) As Long
```

```
Sub Example_HypDisconnect()  
    X=HypDisconnect(Empty, True)  
End Sub
```

HypDisconnectAll

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypDisconnectAll は、接続されているすべてのユーザーを切断し、ユーザー認証を無効化する安全対策です。「すべて切断」メニュー・アイテムに相当します。

構文

```
HypDisconnectAll()
```

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypDisconnectAll Lib "HsAddin" () As Long
Sub Example_HypDisconnectAll()
sts = HypDisconnectAll()
End Sub
```

HypDisconnectEx

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypDisconnectEx は、指定された接続を切断します。HypDisconnect の場合とは異なり、接続が関連付けられている必要はありません。

構文

```
HypDisconnectEx (vtFriendlyName )
```

```
ByVal vtFriendlyName As Variant
```

パラメータ

vtFriendlyName: 切断する接続のわかりやすい名前

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypDisconnectEx Lib "HsAddin" (ByVal vtFriendlyName As Variant)
As Long

Sub Example_HypDisconnectEx()
```

```
Dim lRet As Long
lRet = HypDisconnectEx("My Sample")
End Sub
```

HypGetSharedConnectionsURL

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetSharedConnectionsURL()は、使用される共有接続 URL を戻します(「オプション」ダイアログ・ボックスにも表示されます)。

構文

HypGetSharedConnectionsURL (vtSharedConnURL)

ByRef vtSharedConnURL As Variant

パラメータ

vtSharedConnURL: 出力パラメータ; 共有接続 URL

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetSharedConnectionsURL Lib "HsAddin" (ByRef vtSharedConnURL
As Variant) As Long
Sub Example_HypGetSharedConnectionsURL()
Dim lRet As Long
Dim conn As Variant
lRet = HypGetSharedConnectionsURL(conn)
MsgBox (lRet)
MsgBox (conn)
End Sub
```

HypSetSharedConnectionsURL

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSetSharedConnectionsURL()は、構成ファイルおよび「オプション」ダイアログ・ボックスに共有接続 URL を設定します。

構文

HypSetSharedConnectionsURL (vtSharedConnURL)

ByVal vtSharedConnURL As Variant

パラメータ

vtSharedConnURL: 設定する共有接続 URL。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypSetSharedConnectionsURL Lib "HsAddin" (ByVal  
vtSharedConnURL As Variant) As Long  
Sub Example_HypSetSharedConnectionsURL()  
Dim lRet As Long  
lRet = HypSetSharedConnectionsURL("http://<server>:19000/workspace/  
SmartViewProviders")  
End Sub
```

HypIsConnectedToSharedConnections

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypIsConnectedToSharedConnections()は、SmartView が共有接続に接続されているかどうかを判別します。

構文

HypIsConnectedToSharedConnections ()

戻り値

戻り値: Smart View が共有接続に接続されている場合は True、それ以外の場合は False。

例

```
Declare Function HypIsConnectedToSharedConnections Lib "HsAddin" () As Variant  
Sub Example_HypIsConnectedToSharedConnections()
```

```
Dim vtRet As Variant
vtRet = HypIsConnectedToSharedConnections ()
MsgBox(vtRet)
End Sub
```

HypRemoveConnection

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypRemoveConnection()は、Smart View パネルでの利用可能な Smart View 接続の一覧から、指定した接続を除去します。

構文

```
HypRemoveConnection(vtFriendlyName)
```

```
ByVal vtFriendlyName As Variant
```

パラメータ

vtFriendlyName: データ・プロバイダのわかりやすい接続名

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypRemoveConnection Lib "HsAddin" (ByVal vtFriendlyName As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypRemoveConnection()
    X=HypRemoveConnection("My Connection")
End Sub
```

HypInvalidateSSO

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypInvalidateSSO()は既存の SSO トークンを破棄します。

例

```
Declare Function HypInvalidateSSO Lib "HsAddin" () As Long
Sub Example_HypInvalidateSSO()
    X = HypInvalidateSSO()
End Sub
```

HypResetFriendlyName

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypResetFriendlyName は、わかりやすい名前を新しいものに変更します。Smart View パネルでわかりやすい接続名を変更するためには、Smart View が Oracle Hyperion Provider Services に接続されている必要があります。

構文

HypResetFriendlyName (vtOldFriendlyName, vtNewFriendlyName)

By Val vtOldFriendlyName As Variant

By Val vtNewFriendlyName As Variant

パラメータ

vtOldFriendlyName: 元のわかりやすい接続名

vtNewFriendlyName: 新しいわかりやすい接続名

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypResetFriendlyName Lib "HsAddin" (ByVal vtOldFriendlyName As Variant, ByVal vtNewFriendlyName As Variant) As Long

Sub Example_HypResetFriendlyName()
    Dim lRet As Long
    lRet = HypResetFriendlyName("server2_Sample_Basic", "My Sample Basic")
End Sub
```

HypSetActiveConnection

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSetActiveConnection()は、現在のアクティブなワークシートを、アクティブ接続のうちのいずれかに関連付けます。

注： HypSetActiveConnection は、レポート・デザイナーのオブジェクトを含むワークシートでは使用できません。

構文

HypSetActiveConnection (vtFriendlyName)

ByVal vtFriendlyName As Variant

パラメータ

vtFriendlyName: 現在のアクティブなワークシートに関連付けるアクティブな接続のわかりやすい名前。大文字と小文字は区別されません。

戻り値

長整数。正常に終了した場合は 0 を返します。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetActiveConnection Lib "HsAddin" (ByVal vtFriendlyName As Variant) As Long

Sub Example_SetActiveConnection()
    sts = HypSetActiveConnection ("Demo_Basic")
End sub
```

HypSetAsDefault

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSetAsDefault()は、接続デフォルトを設定します。

構文

HypSetAsDefault (vtFriendlyName)

ByVal vtFriendlyName As Variant

パラメータ

vtFriendlyName: デフォルトとして設定するアクティブなプライベート接続の名前。これは、レジストリの次の場所に値があるプライベート接続名である必要があります:HKCU\Software\Hyperion Solutions\HyperionSmartView\Connections

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返します。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypSetAsDefault Lib "HsAddin" (ByVal vtFriendlyName As Variant) As Long

Sub Example_SetAsDefault()
    sts = HypSetAsDefault("buildtie7_w32Simple_w32Simple")
    MsgBox (sts)
End Sub
```

HypSetConnAliasTable

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning

説明

HypSetConnAliasTable()は、接続の別名表を設定します。この関数ではアクティブな接続が必要です。

構文

HypSetConnAliasTable (ByVal vtFriendlyName As Variant, ByVal vtAliasTableName As Variant)

パラメータ

vtFriendlyName: データ・プロバイダの接続名;たとえば、"MyConnection1"または"SampleBasic"。VtFriendlyName が Null または Empty の場合、エラーが戻されません。

vtAliasTableName: 別名表の名前。形式は、"Default"、"Long Names"、"None"などです。このパラメータを Null または Empty にすることはできません。別名を適用する必要がない場合は、パラメータ"None"を使用できます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypSetConnAliasTable Lib "HsAddin" (ByVal vtFriendlyName  
As Variant, ByVal vtAliasTableName As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypSetConnAliasTable  
sts = HypSetConnAliasTable("SampleBasic", "Long Names")  
End sub
```


5

アド・ホック関数

この章の内容

アド・ホック関数について.....	83
HypPerformAdhocOnForm.....	83
HypRetrieve.....	84
HypRetrieveRange.....	85
HypRetrieveNameRange.....	86
HypGetNameRangeList.....	87
HypRetrieveAllWorkbooks.....	88
HypExecuteQuery.....	89
HypSubmitData.....	90
HypPivot.....	91
HypPivotToGrid.....	91
HypPivotToPOV.....	92
HypKeepOnly.....	93
HypRemoveOnly.....	94
HypZoomIn.....	96
HypZoomOut.....	97

アド・ホック関数について

アド・ホック関数は、ズーム、データの取得と送信、ピボットなどのアド・ホック操作を実行します。

HypPerformAdhocOnForm

データ・プロバイダ・タイプ: Planning

説明

HypPerformAdhocOnForm()を使用すると、Planning Web フォームについて Excel ワークシートでアド・ホック分析を行うことができます。

構文

HypPerformAdhocOnForm(vtSheetName, vtFormName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtFormName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力変数; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtFormName: 入力変数; フル・パスを含む Planning Web フォームの名前; たとえば、/Forms/Financials/Financials Summary です。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypPerformAdhocOnForm Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtFormName As Variant) As Long
Sub Example_PerformAdhocOnForm
sts = HypPerformAdhocOnForm(Empty, "/Forms/Financials/Financials Summary")
End Sub
```

HypRetrieve

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypRetrieve()は、データベースからデータを取得します。

構文

HypRetrieve(vtSheetName)

ByVal vtSheetName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypRetrieve Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant)
```

```
As Long
Sub Example_HypRetrieve()
X=HypRetrieve(Empty)
End Sub
```

```
Public Declare Function HypRetrieve Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant)
As Long
Sub Example_HypRetrieve()
X=HypRetrieve(Empty)
If X = 0 Then
    MsgBox("Retrieve successful.")
Else
    MsgBox("Retrieve failed.")
End If
End Sub
```

HypRetrieveRange

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypRetrieveRange()を使用すると、グリッド内またはワークシート内の選択したセル範囲または名前付きセル範囲をリフレッシュできます。この関数に指定された範囲が、実際のグリッドにある行または列の数を超過している場合は、超過した行および列にはコメントとして扱われ、グリッドの一部となります。

HypRetrieveRangeにより、「元に戻す」操作のバッファがクリアされるため、それ以降は「元に戻す」操作を使用できません。

構文

HypRetrieveRange(vtSheetName,vtRange,vtFriendlyName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtRange As Variant

ByVal vtFriendlyName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: リフレッシュする対象の連続的な範囲。この範囲は、1つ以上のメンバー・セルとデータ・セルを含む必要があります。vtRange が NULL 値である場合は、ワークシート全体がリフレッシュされ、リフレッシュする範囲を取得するために、指定されたワークシートで GetUsedRange が使用されます。

vtFriendlyName: 範囲のリフレッシュに使用される接続の、わかりやすい名前。Nullに設定されると、ワークシート上の範囲をリフレッシュするために、そのワークシートに関連付けられたアクティブな接続が使用されます。接続が関連付けられていない場合は、エラーが戻されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypRetrieveRange Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtRange As Variant, ByVal vtFriendlyName As Variant) As Long
Worksheets("Sheet2").Names.Add name:="MyRange", RefersTo:="=$E$11:$F$28"
Sub Example_RetrieveRange
    Worksheets("Sheet1").Names.Add name:="MyRange", RefersTo:="=$E$11:$F$28"
    sts = HypRetrieveRange(Empty, range("E11:F28"), "Sample")
        'retrieve by regular range
    sts = HypRetrieveRange(Empty, range("MyRange"), "Sample")
        'retrieve by named range
End sub
```

HypRetrieveNameRange

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypRetrieveNameRange は、HypRetrieveRange で作成されたグリッドをリフレッシュします。この関数は、Smart View のマルチグリッドが定義された範囲名でのみ機能します。

構文

HypRetrieveNameRange (vtSheetName, vtGridName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtGridName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtGridName: 入力パラメータ; リフレッシュする名前付き範囲またはグリッドの名前。名前付き範囲の形式は次のとおりです: "<Sheetname>!<range name>"

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

例 1

```
Public Declare Function HypRetrieveNameRange Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtGridName As Variant) As Long

Sub RetrieveAllRange()
'connect all required connections
sts = HypConnect("Sheet1", "
    UserName
    ", "
    Password
    ", "stm10026_Sample_Basic")
'get list of named grids available
sts = HypGetNameRangeList("Sheet1", "", vtList)
'refresh each range one by one
For i = 0 To 2
sts = HypRetrieveNameRange("Sheet1", vtList(i))
Next i
End Sub
```

例 2

グリッドの名前がわかっている場合:

```
Public Declare Function HypRetrieveNameRange Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtGridName As Variant) As Long
Sub Example_HypRetrieveNameRange()
sts = HypRetrieveNameRange("Sheet1", "'Sheet1'!DMDemo_Basic_2")
End Sub
```

HypGetNameRangeList

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypGetNameRangeList は、指定された接続の名前付きグリッドのリストを返します。

構文

HypGetNameRangeList (vtSheetName, vtFriendlyName, vtNameList)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtFriendlyName As Variant

ByRef vtNameList As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtFriendlyName: 入力パラメータ; 取得する名前範囲リストの接続名。Empty に設定されると、シート内のすべての名前範囲リストを取得します。

vtNameList: 出力パラメータ; リスト出力

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypGetNameRangeList Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtFriendlyName As Variant, ByRef vtNameList As Variant) As Long
Sub Example_HypGetNameRangeList()
    sts = HypGetNameRangeList("Sheet1", "stm10026_Sample_Basic", vtList)
End Sub
```

HypRetrieveAllWorkbooks

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypRetrieveAllWorkbooks() は、Excel の同じインスタンスから開いているすべてのワークブックをリフレッシュします。

構文

HypRetrieveAllWorkbooks()

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypRetrieveAllWorkbooks Lib "HsAddin" () As Long
```

```
Sub Example_HypRetrieveAllWorkbooks ()
    X=HypRetrieveAllWorkbooks ()
End Sub
```

HypExecuteQuery

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypExecuteQuery()は、MDX 問合せを実行し、結果をワークシート上に表示します。(問合せ結果をワークシート上に表示したくない場合は、かわりにHypExecuteMDXExを使用します。)

構文

HypExecuteQuery (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMDXQuery As Variant) As Long

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMDXQuery

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMDXQuery: ワークシート上で実行する MDX 問合せ文

戻り値

長整数。正常に終了した場合は 0 を返します。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypExecuteQuery Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMDXQuery As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypExecuteQuery ()
    Dim vtQuery As Variant
    vtQuery = "SELECT {[Jan]} on COLUMNS, {[East]} on ROWS"
    sts = HypConnect (Empty, "
        Username
        ", "
        Password
        ", "Sample_Basic")
    sts = HypExecuteQuery (Empty, vtQuery)
    sts = HypDisconnect (Empty, True)
End sub
```

HypSubmitData

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSubmitData()は、指定したスプレッドシートの変更されたデータでデータベースを更新します。

注: HypSubmitData()は、集約ストレージ・データベースおよびクラスタ環境ではサポートされません。

注: データベースを更新できるかどうかは、送信者のアクセス権によって異なります。データを更新するためには、データベースに対して、少なくとも書き込みアクセス権を持っている必要があります。

構文

HypSubmitData(vtSheetName)

ByVal vtSheetName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

戻り値

フォームの場合: フォームが正常に送信された場合は 0 を返します; それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

アド・ホックの場合: アド・ホック・グリッドが正常に送信され、HsSetVal 関数(存在する場合)が実行されていた場合は 0 を返します。シートは接続されていないが HsSetVal 関数(存在する場合)が実行されていた場合は 1 を返します。シートにアド・ホック・グリッドが存在せず、HsSetVal 関数(存在する場合)が実行されていた場合は 2 を返します。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSubmitData Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant) As
Long
Sub Example_HypSubmitData()
Worksheets(Empty).range("B2").value = 8023
Worksheets(Empty).range("B2").Select
sts = HypSubmitData(Empty)
End Sub
```

HypPivot

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypPivot()は、選択したディメンションに基づいて、スプレッドシートの行と列を入れ替えます。

構文

```
HypPivot(vtSheetName, vtStart, vtEnd)
```

```
ByVal vtSheetName As Variant
```

```
ByVal vtStart As Variant
```

```
ByVal vtEnd As Variant
```

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtStart: ピボットの開始点となる単一セルを参照する範囲オブジェクト

vtEnd: ピボットの終点となる単一セルを参照する範囲オブジェクト

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypPivot Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtStart As Variant, ByVal vtEnd As Variant) As Long  
  
Sub Example_HypPivot()  
X=HypPivot(Empty, RANGE("B2"), RANGE("D1"))  
If X = 0 Then  
    MsgBox("Pivot successful.")  
Else  
    MsgBox("Pivot failed.")  
End If  
End Sub
```

HypPivotToGrid

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypPivotToGrid()は、選択したディメンションおよびメンバーを、POV からスプレッドシートのグリッドに移動します。

構文

HypPivotToGrid (vtSheetName, vtDimensionName, vtSelection)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ByVal vtSelection As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimensionName: ツールバーで現在選択されているディメンション。

vtSelection: ピボットの開始点となる単一セルを参照する範囲オブジェクト。向きは、選択に基づいて計算されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypPivotToGrid Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtDimensionName As Variant, ByVal vtSelection As Variant) As Long

Sub Example_PivotGrid()
X = HypPivotToGrid(Empty, "Product", Range("E6"))
If X = 0 Then
    MsgBox ("Pivot to grid successful.")
Else
    MsgBox ("Pivot to grid failed.")
End If
End Sub
```

HypPivotToPOV

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypPivotToPOV()は、グリッドから POV にピボットします。

構文

HypPivotToPOV (vtSheetName, vtSelection)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelection As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelection: ピボットの開始点となる単一セルを参照する範囲オブジェクト。向きは、選択に基づいて計算されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypPivotToPOV Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelection As Variant) As Long
Sub Example_HypPivotToPOV()
X=HypPivotToPOV(Empty, RANGE("E6"))
If X = 0 Then
    MsgBox("Pivot to POV successful.")
Else
    MsgBox("Pivot to POV failed.")
End If
End Sub
```

HypKeepOnly

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypKeepOnly()は、シートで選択されたメンバーのみを保持し、選択されていないメンバーを除去します。

選択にはメンバー・セルのみを含める必要があります。データ・セルは選択できません。

構文

HypKeepOnly(vtSheetName, vtSelection)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelection As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelection: 保持するメンバーを参照する範囲オブジェクト。選択が Null または Empty の場合、アクティブなセルが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

1つのメンバー名のみを保持するには:

```
Public Declare Function HypKeepOnly Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtSelection As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypKeepOnly()
  X=HypKeepOnly(Empty, RANGE("D2"))
  If X = 0 Then
    MsgBox("Keep Only successful.")
  Else
    MsgBox("Keep Only failed." + X)
  End If
End Sub
```

複数のメンバー名を保持するには:

```
Public Declare Function HypKeepOnly Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtSelection As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypKeepOnly
  X=HypKeepOnly(Empty, RANGE("D2:A5"))
  If X = 0 Then
    MsgBox("Keep Only successful.")
  Else
    MsgBox("Keep Only failed." + X)
  End If
End Sub
```

HypRemoveOnly

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypRemoveOnly()は、ワークシートで選択されたメンバーのみを除去します。

選択にはメンバー・セルのみを含める必要があります。データ・セルは選択できません。

構文

```
HypRemoveOnly(vtSheetName, vtSelection)
```

```
ByVal vtSheetName As Variant
```

```
ByVal vtSelection As Variant
```

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelection: 除去するメンバーを参照する範囲オブジェクト。選択が Null または Empty の場合、アクティブなセルが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

1つのメンバー名のみを除去するには:

```
Public Declare Function HypRemoveOnly Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtSelection As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypRemoveOnly()  
X=HypRemoveOnly(Empty, RANGE("D2"))  
If X = 0 Then  
    MsgBox("Remove Only successful.")  
Else  
    MsgBox("Remove Only failed." + X)  
End If  
End Sub
```

複数のメンバー名を除去するには:

```
Public Declare Function HypRemoveOnly Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtSelection As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypRemoveOnly()  
X=HypRemoveOnly(Empty, RANGE("D2, A5"))  
If X = 0 Then  
    MsgBox("Remove Only successful.")  
Else  
    MsgBox("Remove Only failed." + X)  
End If  
End Sub
```

HypZoomIn

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypZoomIn()は、選択したメンバーに基づいて、Smart View からデータを取得して展開表示します。

構文

HypZoomIn(vtSheetName, vtSelection, vtLevel, vtAcross)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelection As Variant

ByVal vtLevel As Variant

ByVal vtAcross As Variant(未使用)

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelection: ズーム・インするメンバーを参照する範囲オブジェクト。選択が Null または Empty の場合、アクティブなセルが使用されます。

vtLevel: ズームのレベルを示す数値。指定できるレベル:

- 0 = 次のレベル
- 1 = すべてのレベル
- 2 = 最下位レベル
- 3 = 兄弟(Provider Services を使用する Essbase 11.1.2.1.102 以上の接続のみ)
- 4 = 同一レベル(Provider Services を使用する Essbase 11.1.2.1.102 以上の接続のみ)
- 5 = 同一世代(Provider Services を使用する Essbase 11.1.2.1.102 以上の接続のみ)
- 6 = 式(Oracle Hyperion Provider Services を使用する Essbase 11.1.2.1.102 以上の接続のみ)

Null の場合、Empty または正しくない値が渡され、現在選択されているオプションが使用されます。

vtAcross: 未使用。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypZoomIn Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelection As Variant, ByVal vtLevel As Variant, ByVal vtAcross As Variant) As Long

Sub Example_HypZoomIn()
X=HypZoomIn(Empty, RANGE("B3"), 1, FALSE)
If X = 0 Then
    MsgBox("Zoom successful.")
Else
    MsgBox("Zoom failed.")
End If
End Sub
```

HypZoomOut

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypZoomOut()は、選択したメンバーに基づいて、データを縮小表示します。

構文

HypZoomOut(vtSheetName, vtSelection)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelection As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelection: ズーム・アウトするメンバーを参照する範囲オブジェクト。選択が Null または Empty の場合、アクティブなセルが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypZoomOut Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelection As Variant) As Long

Sub Example_HypZoomOut()
X=HypZoomOut(Empty, RANGE("B3"))
If X = 0 Then
    MsgBox("Zoom out successful.")
End Sub
```

```
Else  
    MsgBox("Zoom out failed.")  
End If  
End Sub
```

6

フォーム関数

この章の内容

フォームについて	99
HypOpenForm	99

フォームについて

フォームは、データベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。Financial Management および Hyperion Enterprise では、フォームはデータ・フォームと呼ばれます。

[99 ページの「HypOpenForm」](#)

HypOpenForm

データ・プロバイダ・タイプ: Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypOpenForm()は、指定されたフォームを開きます。

構文

```
HypOpenForm (vtSheetName, vtFolderPath, vtFormName, vtDimensionList(),  
vtMemberList())
```

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtFolderPath As Variant

ByVal vtFormName As Variant

ByRef vtDimensionList() As Variant

ByRef vtMemberList() As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtFolderPath: フォルダ・パス名

vtFormName: データ・フォームの名前

vtDimensionList(): 未使用

vtMemberList(): 未使用

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypOpenForm Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtFolderPath As Variant, ByVal vtFormName As Variant, ByRef vtDimensionList()  
As Variant, ByRef vtMemberList() As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypOpenForm()  
    Dim DimList() As Variant  
    Dim MemList() As Variant  
    sts = HypOpenForm(Empty, "/Forms/data1", "data1", DimList, MemList)  
    MsgBox (sts)  
End Sub
```

この章の内容

セル関数について	101
HypGetDimMbrsForDataCell	101
HypCell.....	103
HypFreeDataPoint.....	104
HypGetCellRangeForMbrCombination.....	105
HypGetDataPoint.....	106
HypIsCellWritable	107
HypSetCellsDirty	108
HypDeleteAllLROs.....	109
HypDeleteLROs.....	110
HypAddLRO.....	111
HypUpdateLRO	112
HypListLROs	113
HypRetrieveLRO	114
HypExecuteDrillThroughReport.....	115
HypGetDrillThroughReports.....	116

セル関数について

セル関数は、データ・セルとその内容に関する操作の実行と情報の取得を行います。

HypGetDimMbrsForDataCell

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetDimMbrsForDataCell()はデータ・セルに対するディメンション・メンバーのセット全体を取得します。これらのメンバーはグリッドに存在する必要があります。

構文

HypGetDimMbrsForDataCell (vtSheetName, vtCellRange, vtServerName, vtAppName, vtCubeName, vtFormName, vtDimensionNames, vtMemberNames)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtCellRange As Variant

ByRef vtServerName As Variant

ByRef vtAppName As Variant

ByRef vtCubeName As Variant

ByRef vtFormName As Variant

ByRef vtDimensionNames As Variant

ByRef vtMemberNames As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力変数; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtCellRange: 入力変数; セルの範囲(1 セルのみ)

vtServerName: 出力変数; シート上の関連する接続が接続しているサーバーの名前

vtAppName: 出力変数; シート上の関連する接続が接続しているアプリケーションの名前

vtCubeName: 出力変数; シート上の関連する接続が接続しているキューブ/データベース(Planning の場合はプラン・タイプ)の名前

vtFormName: 出力変数; シート上の関連する接続が接続しているフォームの名前(アド・ホック・グリッドの場合、これは空の文字列として戻されます)

vtDimensionNames: 出力変数; ディメンション名の配列

vtMemberNames: 出力変数; メンバー名の配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

次の例を実行するには、oSheetName に定義されたシートに有効なグリッドが含まれ、oSheetDisp.Range に定義されたセルまたはセル範囲が、グリッド内で有効なデータ・セルであることが必要です。

```
Public Declare Function HypGetDimMbrsForDataCell Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtCellRange As Variant, ByRef vtServerName As Variant, ByRef vtAppName As Variant, ByRef vtCubeName As Variant, ByRef vtFormName As Variant, ByRef vtDimensionNames As Variant, ByRef vtMemberNames As Variant) As Long
```

```

Sub Example_HypGetDimMbrsForDataCell()

Dim oRet As Long
Dim oSheetName As String
Dim oSheetDisp As Worksheet
Dim vtDimNames As Variant
Dim vtMbrNames As Variant
Dim vtServerName As Variant
Dim vtAppName As Variant
Dim vtCubeName As Variant
Dim vtFormName As Variant
Dim lNumDims As Long
Dim lNumMbrs As Long
Dim sPrintMsg As String

oSheetName = "Sheet1"
Set oSheetDisp = Worksheets("Sheet1")
oRet = HypGetDimMbrsForDataCell("", oSheetDisp.Range("
    valid data cell
    "), vtServerName, vtAppName, vtCubeName, vtFormName, vtDimNames, vtMbrNames)

If (oRet = SS_OK) Then
    If IsArray(vtDimNames) Then
        lNumDims = UBound(vtDimNames) - LBound(vtDimNames) + 1
    End If

    If IsArray(vtMbrNames) Then
        lNumMbrs = UBound(vtMbrNames) - LBound(vtMbrNames) + 1
    End If

    sPrintMsg = "Number of Dimensions = " & lNumDims & " Number of Members = " &
lNumMbrs & " Cube Name - " & vtCubeName
    MsgBox (sPrintMsg)
End If

End Sub

```

HypCell

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypCell()は、単一のメンバーの組合せについてセル値を取得します。

構文

HypCell(vtSheetName, ParamArray MemberList())

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal ParamArray MemberList() As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

MemberList: データ値を取得するメンバーの組合せを説明する文字列のリスト。MemberList が Null または Empty の場合、最上位レベルの値が使用されます。メンバーは "Dimension#Member" の形式で表されます。たとえば、"Year#Jan" や "Market#East" のようになります。

戻り値

正常に終了した場合は、データ・ポイントの値を返します。シートを判別できない場合、またはシートがデータ・プロバイダに接続されていない場合は、#No Connection を返します。メンバーが正しくない場合は、「無効なメンバーメンバー名」または「ディメンションディメンション名」という文字列を返します。

例

```
Declare Function HypCell Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ParamArray MemberList() As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypCell()  
Dim X As String  
X=HypCell(Empty, "Year#Qtr1", "Scenario#Actual", "Market#Oregon")  
If X = "#No Connection" Then  
    MsgBox("Not logged in, or sheet not active.")  
Else  
    If Left(X, 15) = "#Invalid member" then  
        MsgBox("Member name incorrect.")  
    Else  
        MsgBox(X + " Value retrieved successfully.")  
    End If  
End If  
End Sub
```

注: 戻されたデータ・ポイントの値が、自動的にスプレッドシート内のセルに配置されることはありません。この値をセルに配置するには、Visual Basic の選択メソッドおよび ActiveCell プロパティを使用します。詳細は、Visual Basic のドキュメントを参照してください。

HypFreeDataPoint

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypFreeDataPoint()は、HypGetDataPoint で割り当てられたメモリーを解放します。

構文

構文

HypFreeDataPoint(vtInfo)

ByRef vtInfo As Variant

パラメータ

vtInfo: HypGetDataPoint から戻される Variant 型の配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻します; 正常に終了しなかった場合は -15 ("無効なパラメータ") を戻します。

例

HypFreeDataPoint の例は、[106 ページの「HypGetDataPoint」](#) を参照してください。

HypGetCellRangeForMbrCombination

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetCellRangeForMbrCombination() は選択したメンバーの組合せのセル範囲を取得します。

構文

HypGetCellRangeForMbrCombination (vtSheetName, vtDimNames, vtMbrNames, vtCellIntersectionRange)

By Val vtSheetName As Variant

ByRef vtDimNames As Variant

ByRef vtMbrNames As Variant

ByRef vtCellIntersectionRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimNames: 入力変数; デイメンション名の配列

vtMbrNames: 入力変数; デイメンションに対応するメンバー名の配列(同じ順序)

vtCellIntersectionRange: 出力変数; グリッドのセルの範囲

戻り値

正常に終了した場合は SS_OK を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypGetCellRangeForMbrCombination Lib "HsAddin" (ByVal
vtSheetName As Variant, ByRef vtDimNames() As Variant, ByRef vtMbrNames() As Variant,
ByRef vtCellIntersectionRange As Variant) As Long
Sub Example_HypGetCellRangeForMbrCombination()

    Dim oRet As Long
    Dim oSheetName As String
    Dim oSheetDisp As Worksheet
    Dim vtDimNames(3) As Variant
    Dim vtMbrNames(3) As Variant
    Dim vtReturnCellRange As Variant
    Dim oRange As Range

    'oSheetName = Empty
    'Set oSheetDisp = Worksheets(oSheetName$)

    vtDimNames(0) = "Measures"
    vtDimNames(1) = "Market"
    vtDimNames(2) = "Year"
    vtDimNames(3) = "Product"
    'vtDimNames(4) = ""

    vtMbrNames(0) = "Sales"
    vtMbrNames(1) = "New York"
    vtMbrNames(2) = "Year"
    vtMbrNames(3) = "Product"
    'vtMbrNames(4) = ""

    oRet = HypGetCellRangeForMbrCombination ("", vtDimNames, vtMbrNames,
vtReturnCellRange)

    If (oRet = 0) Then
        Set oRange = vtReturnCellRange
    End If
End Sub
```

HypGetDataPoint

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetDataPoint()は、単一データ・セルのメンバー情報を取得します。たとえば、セル B6 におけるデータの交差を構成するメンバーを見つける場合、HypGetDataPoint は、メンバーである January、California、Actual、Root Beer、Profit を戻します。

構文

HypGetDataPoint (vtSheetName, vtCell)

By Val vtSheetName As Variant

By Val vtCell As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtCell: メンバーの組合せ情報を取得する参照セル

戻り値

メンバー名の配列を戻します。

例

```
Declare Function HypGetDataPoint Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtCell As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypGetDataPoint()  
Dim vt As Variant  
Dim cbItems As Variant  
Dim i As Integer  
Dim pMember As String  
vt = HypGetDataPoint(Empty, range ("B3"))  
If IsArray(vt) Then  
    cbItems = UBound(vt) - LBound(vt) + 1  
    MsgBox ("Number of elements = " + Str(cbItems))  
  
    For i = LBound(vt) To UBound(vt)  
        MsgBox ("Member = " + vt(i))  
    Next  
    X = HypFreeDataPoint(vt)  
Else  
    MsgBox ("Return Value = " + Str(vt))  
End If  
End Sub
```

HypIsCellWritable

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypIsCellWritable()はセルが書込み可能かどうかをチェックします。

構文

HypIsCellWritable (vtSheetName, vtCellRange)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtCellRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力パラメータ; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetNameがNullまたはEmptyの場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtCellRange: 出力パラメータ; 書込み可能かどうかをチェックする必要のあるセルの範囲(1セルのみ)

戻り値

セルが書込み可能な場合は VARIANT_TRUE を返し、それ以外の場合は VARIANT_FALSE を返します。

例

```
Public Declare Function HypIsCellWritable Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtCellRange As Variant) As Boolean
```

```
Sub Example_HypIsCellWritable()
```

```
    Dim oRet As Boolean
```

```
    Dim oSheetName As String
```

```
    Dim oSheetDisp As Worksheet
```

```
    oSheetName = "Sheet1"
```

```
    Set oSheetDisp = Worksheets(oSheetName$)
```

```
    oRet = HypIsCellWritable (Empty, oSheetDisp.Range("G2"))
```

```
End Sub
```

HypSetCellsDirty

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSetCellsDirty()は、データを送信するために選択したデータ範囲にダーティというマークを付けます。

構文

HypSetCellsDirty (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: ダーティというマークを付ける Variant 型のデータ範囲

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetCellsDirty Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtRange As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypSetCellsDirty()  
  X=HypSetCellsDirty (Empty, Range ("A3:B3"))  
End Sub
```

HypDeleteAllLROs

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypDeleteAllLROs()は、すべてのリンク・レポート・オブジェクトを vtSelectionRange パラメータで指定されたセルから削除します。

構文

HypDeleteAllLROs (vtSheetName, vtSelectionRange)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: このセル範囲からすべてのリンク・レポート・オブジェクトを削除します

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypDeleteAllLROs Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelectionRange As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypDeleteAllLROs  
sts = HypDeleteAllLROs("Sheet1", Range("B3"))  
End Sub
```

HypDeleteLROs

説明

HypDeleteLROs() は、1 つ以上のリンク・レポート・オブジェクトを vtSelectionRange パラメータで指定されたセルから削除します。

構文

構文

HypDeleteLROs (vtSheetName, vtSelectionRange, vtLROIDs())

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

ByRef vtLROIDs() As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: 入力パラメータ; このセル範囲からすべてのリンク・レポート・オブジェクトを削除します

vtLROIDs(): 入力パラメータ; 削除する LRO ID の配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypDeleteLROs Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelectionRange As Variant, ByRef vtLROIDs() As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypDeleteLROs()  
Dim LROIDs(1)  
LROIDs(0) = 1  
LROIDs(1) = 2  
sts = HypDeleteLROs("Sheet1", Range("B3"), LROIDs)  
End Sub
```

HypAddLRO

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypAddLRO()は、リンク・レポート・オブジェクトを vtSelectionRange パラメータで指定されたセルに追加します。追加されたリンク・レポート・オブジェクトを表示するには、「リンク・レポート・オブジェクト」ダイアログ・ボックスを開くか、HypListLRO を使用する必要があります。

構文

HypAddLRO(vtSheetName, vtSelectionRange, vtType, vtName, vtDescription)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

ByVal vtType As Variant

ByVal vtName As Variant

ByVal vtDescription As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: 入力パラメータ; リンク・レポート・オブジェクトに関連付けるセルの範囲

vtType: 入力パラメータ; 定数として表されるリンク・レポート・オブジェクトのタイプ

- 1 - セル・ノート
- 2 - ファイル
- 3 - URL

vtName: 入力変数; ファイルの場所とファイル名と URL 情報。セル・ノートには使用されません。

vtDescription: 入力変数; セル・ノート、ファイルまたは URL の説明

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypAddLRO Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtSelectionRange As Variant, ByVal vtType As Variant, ByVal vtName As Variant,
ByVal vtDescription As Variant, ByRef vtLROIDs() As Variant) As Long
Sub Example_HypAddLRO()
    sts = HypAddLRO("Sheet1", Range("B3"), 1, "", "Hello World")
End Sub
```

HypUpdateLRO

説明

HypUpdateLRO()は、vtSelectionRange パラメータで指定されたセルに関連付けられているリンク・レポート・オブジェクトを更新します。更新を表示するには、「リンク・レポート・オブジェクト」ダイアログ・ボックスを開くか、HypListLRO を使用する必要があります。

構文

HypUpdateLRO(vtSheetName, vtSelectionRange, vtID,vtType, vtName, vtDescription)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

ByVal vtID As Variant

ByVal vtType As Variant

ByVal vtName As Variant

ByVal vtDescription As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: 入力変数; リンク・レポート・オブジェクトに関連付けるセルの範囲

vtID: 入力変数; 更新するリンク・レポート・オブジェクトの ID

vtType: 入力変数; 定数として表されるリンク・レポート・オブジェクトのタイプ

- 1 - セル・ノート
- 2 - ファイル
- 3 - URL

vtName: 入力変数; ファイルの場所とファイル名と URL 情報。セル・ノートには使用されません。

vtDescription: 入力変数; セル・ノート、ファイルまたは URL の説明

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypUpdateLRO Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtSelectionRange As Variant, ByVal vtID As Variant, ByVal vtIType As Variant,  
ByVal vtName As Variant, ByVal vtDescription As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypUpdateLRO  
sts = HypUpdateLRO("Sheet1", Range("B3"), "2", 2, "d:\test2.txt", "linked object")  
End Sub
```

HypListLROs

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypListLROs()は、vtSelectionRange パラメータで指定されたセルに関連付けられているすべてのリンク・レポート・オブジェクトを表示します。

構文

HypListLROs (vtSheetName, vtSelectionRange, vtLRO)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

ByRef vtLRO As LRO_Info

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: 入力パラメータ; このセル範囲のすべてのリンク・レポート・オブジェクトをリスト表示します

vtLRO: 出力変数; リンク・レポート・オブジェクトの二次元配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypListLROs Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelectionRange As Variant, ByRef vtLRO) As Long

Dim ObjectList As LRO_Info
Sub Example_HypListLROs()
    sts = HypListLROs("Sheet1", Range("B3"), ObjectList)
End Sub
```

HypRetrieveLRO

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypRetrieveLRO()は、vtSelectionRange パラメータで指定されたセルに関連付けられているリンク・レポート・オブジェクトを取得します。リンク・レポート・オブジェクトを表示するには、「リンク・レポート・オブジェクト」ダイアログ・ボックスを開くか、HypListLRO を使用する必要があります。

構文

HypRetrieveLRO(vtSheetName, vtSelectionRange, vtID, vtType, vtName, vtDescription)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

ByVal vtID As Variant

ByVal vtName As Variant

ByVal vtDescription As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: 入力変数; リンク・レポート・オブジェクトに関連付けるセルの範囲

vtID: 入力変数; 取得するリンク・レポート・オブジェクトの ID。これは HypListLROs の実行時に指定されます。

vtName: 出力パラメータ; リンク・レポート・オブジェクトの名前

vtDescription: 出力パラメータ; 取得したリンク・レポート・オブジェクトの説明

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypRetrieveLRO Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelectionRange As Variant, ByVal vtID, ByVal vtName, ByVal vtDescription) As Long
```

```
Sub Example_HypRetrieveLRO  
sts = HypRetrieveLRO("Sheet1", Range("B3"), "1", vtName, vtDescription)  
End Sub
```

HypExecuteDrillThroughReport

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypExecuteDrillThroughReport()は、指定されたドリルダウン・レポートを実行します。116 ページの「[HypGetDrillThroughReports](#)」も参照してください。

構文

HypExecuteDrillThroughReport(vtSheetName, vtSelectionRange, vtID, vtName, vtURL, vtURLTemplate, vtType)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

ByVal vtID As Variant

ByVal vtName As Variant

ByVal vtURL As Variant

ByVal vtURLTemplate As Variant

ByVal vtType As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: 入力変数; ドリルダウン・レポートを実行するセルの範囲

vtID: 入力変数; ドリルダウン・レポートの実行 ID。これは HypGetDrillThroughReports の実行時にサーバーから戻されます。

vtName: 入力変数; ドリルダウン・レポートの名前。これは HypGetDrillThroughReports の実行時にサーバーから戻されます。

vtURL: 入力変数; ドリルダウン・レポートの URL。これは HypGetDrillThroughReports の実行時にサーバーから戻されます。

vtURLTemplate: 入力変数; ドリルダウン・レポートの URL テンプレート。これは HypGetDrillThroughReports の実行時にサーバーから戻されます。

vtType: 入力変数; ドリルダウン・レポートのタイプ。これは `HypGetDrillThroughReports` の実行時にサーバーから戻されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypExecuteDrillThroughReport Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelectionRange As Variant, ByVal vtID As Variant, ByVal vtName As Variant, ByVal vtURL As Variant, ByVal vtURLTemplate As Variant, ByVal vtType As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypExecuteDrillThroughReport()  
sts = HypExecuteDrillThroughReport("Sheet3", Range("B3"), ids(0), names(0), "", "", "")  
End Sub
```

HypGetDrillThroughReports

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

`HypGetDrillThroughReports()` は、ドリルスルー・レポートのリストを取得します。[115 ページの「HypExecuteDrillThroughReport」](#) も参照してください。

構文

`HypGetDrillThroughReports(vtSheetName, vtSelectionRange, vtIDs, vtNames, vtURLs, vtURLTemplates, vtTypes)`

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtSelectionRange As Variant

ByVal vtIDs As Variant

ByVal vtNames As Variant

ByVal vtURLs As Variant

ByVal vtURLTemplates As Variant

ByVal vtTypes As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtSelectionRange: 取得するドリルスルー・レポートを含むセルの範囲

vtIDs: 出力変数; サーバーから戻された ID の配列

vtNames: 出力変数; サーバーから戻された名前の配列

vtURLs: 出力パラメータ; サーバーから戻された URL の配列

vtURLTemplates: 出力パラメータ; サーバーから戻された URL テンプレートの配列

vtTypes: 出力パラメータ; サーバーから戻されたタイプの配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypGetDrillThroughReports Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtSelectionRange As Variant, ByRef vtIDs As Variant, ByRef vtNames As Variant, ByRef vtURLs As Variant, ByRef vtURLTemplates As Variant, ByRef vtTypes As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypGetDrillThroughReports()  
sts = HypGetDrillThroughReports("Sheet3", Range("B3"), ids, names, urls, urltemplates, types)  
End Sub
```


この章の内容

POV 関数について	119
HypSetPOV.....	119
HypGetBackgroundPOV.....	120
HypSetBackgroundPOV.....	121
HypGetPagePOVChoices.....	122
HypSetPages	123
HypGetMembers	123
HypSetMembers.....	124
HypGetActiveMember.....	125
HypSetActiveMember.....	126
HypGetDimensions.....	127
HypSetDimensions.....	128

POV 関数について

POV 関数は、POV の設定を指定または取得します。

HypSetPOV

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypSetPOV()は、選択したアド・ホック・ワークシートの POV を設定します。この関数はデータ・フォームをサポートしません; フォームとしてかわりに HypSetPages を使用します(123 ページの「HypSetPages」を参照)。

構文

```
HypSetPOV(vtSheetName, ParamArray MemberList())
```

```
ByVal vtSheetName As Variant
```

```
ParamArray MemberList() As Variant
```

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

ParamArray MemberList(): データ値を取得するメンバーの組合せを説明する文字列のリスト。MemberList が Null または Empty の場合、最上位レベルの値が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。アド・ホック・ワークシートではなくフォームに対してこの関数を使用すると、エラー-69 (非推奨 VBA) が返されます。

例

```
Declare Function HypSetPOV Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ParamArray  
MemberList() As Variant) As Long  
Sub Example_HypSetPOV()  
    X=HypSetPOV (Empty, "Year#Qtr1", "Market#East")  
End Sub
```

HypGetBackgroundPOV

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetBackgroundPOV() は、バックグラウンド POV メンバーのリストを 2 つの文字列配列として返します。一方の文字列配列には POV ディメンション名が含まれます; もう一方にはメンバー名が含まれます。

構文

HypGetBackgroundPOV (vtFriendlyName, vtDimensionNames, vtMemberNames)

ByVal vtFriendlyName As Variant

ByRef vtDimensionNames As Variant

ByRef vtMemberNames As Variant

パラメータ

vtFriendlyName: 入力変数; データ・プロバイダの接続名。

vtDimensionNames: 出力変数; ディメンション名配列

vtMemberNames: 出力変数; メンバー名配列 (POV ディメンションあたり 1 メンバー)

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

この例では、ワークシートが接続されていることと、グリッドがあることを想定しています。

```
Public Declare Function HypGetBackgroundPOV Lib "HsAddin" (ByVal vtFriendlyName As Variant, ByRef vtDimensionNames As Variant, ByRef vtMemberNames As Variant) As Long
Sub Example_GetBackgroundPOV()
sts = con = HypGetBackgroundPOV("stm10026_Sample_Basic", vtDim, vtMem)
End Sub
```

HypSetBackgroundPOV

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSetBackgroundPOV() は、POV マネージャの接続オブジェクト用の POV を設定します。

構文

HypSetBackgroundPOV(vtFriendlyName, ParamArray MemberList())

ByVal vtFriendlyName As Variant

ParamArray MemberList() As Variant

パラメータ

vtFriendlyName: データ・プロバイダの接続名。

MemberList: データ値を取得するメンバーの組合せを説明する文字列のリスト。
MemberList が Null または Empty の場合、最上位レベルの HypSetDimensions 値が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetBackgroundPOV Lib "HsAddin" (ByVal vtFriendlyName, ParamArray MemberList() As Variant) As Long
Sub Example_ypSetBackgroundPOV()
```

```
X=HypSetBackgroundPOV ("My Connection", "Year#Qtr1", "Market#East")
End Sub
```

HypGetPagePOVChoices

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetPagePOVChoices()は、特定のディメンションで使用可能なメンバー名およびメンバーの説明を戻します。

構文

```
HypGetPagePOVChoices(vtSheetName, vtDimensionName, vtMbrNameChoices, vtMbrDescChoices)
```

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ByRef vtMbrNameChoices As Variant

ByRef vtMbrDescChoices As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimensionName: POV のディメンション名

vtMbrNameChoices: 出力パラメータ; メンバー名の配列

vtMbrDescChoices: 出力パラメータ; メンバーの説明の配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypGetPagePOVChoices Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtDimensionName As Variant, ByRef vtMbrNameChoices As Variant, ByRef vtMbrDescChoices As Variant) As Long
Sub Example_HypGetPagePOVChoices()
    Dim mbrName As Variant
    Dim mbrDesc As Variant
    sts = HypGetPagePOVChoices(Empty, "Product", vtMbrNameChoices, vtMbrDescChoices)
    MsgBox (sts)
End Sub
```

HypSetPages

データ・プロバイダ・タイプ: Planning (フォームのみ)、Financial Management (フォームのみ)、Hyperion Enterprise (フォームのみ)

説明

HypSetPages()は、選択したシートのページ・メンバーを設定します。

構文

```
HypSetPages (ByVal vtSheetName, ParamArray MemberList())
```

```
ByVal vtSheetName As Variant
```

```
ParamArray MemberList() As Variant
```

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

ParamArray MemberList(): 必要なページ・メンバー・アイテムのリストを Dimension#Current Member のフォーマットで表したもの。MemberList が Null または Empty の場合、最上位レベルの値が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypSetPages Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ParamArray MemberList() As Variant) As Long  
  
Sub Example_HypSetPages()  
X=HypSetPages (Empty,"Entity#Operations","Scenario#Current")  
End Sub
```

HypGetMembers

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetMembers()は、グリッドに存在する特定のディメンションに対して選択または使用したメンバーのリストを取得します。

Essbase および Planning の場合、メンバー名は選択した別名表に基づきます。

Financial Management の場合、2 番目の配列は説明を返します。

POV (フォーム)、ページ(アド・ホック)およびユーザー変数の場合は、単一メンバーが戻されます。

ユーザー変数を一意に識別するには、ディメンション名ではなくユーザー変数名を指定します。

構文

HypGetMembers (vtSheetName, vtDimensionName, vtMbrNameChoices, vtMbrDescChoices)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ByRef vtMbrNameChoices As Variant

ByRef vtMbrDescChoices As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimensionName: 入力変数; 選択したメンバー・リストを戻すディメンションの名前

vtMbrNameChoices: 出力変数; 使用するメンバー名の配列

vtMbrDescChoices: 出力変数; メンバー名の説明の配列。Essbase および Planning の場合、これはメンバー名と同じです。このリストは、ディメンションが行または列ディメンションの場合に空になります。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

この例では、ワークシートが接続されていることと、グリッドがあることを想定しています。

```
Public Declare Function HypGetMembers Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtDimensionName As Variant, ByRef vtMbrNameChoices As Variant, ByRef
vtMbrDescChoices As Variant) As Long
Sub Example_HypGetMembers()
sts = HypGetMembers("Sheet1", "Year", vtMbr, vtDes)
End Sub
```

HypSetMembers

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSetMembers()は、アド・ホック・グリッドの POV ディメンションの選択リスト、および Financial Management フォームの「ページ」リストを設定します。

この関数は、Planning フォームの「ページ」リストの設定には使用できず、行または列メンバーの設定にも使用できません。

ユーザーが送信したメンバー・リストは、設定前に検証されます。

構文

HypSetMembers (vtSheetName, vtDimensionName, ParamArray MemberList())

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ParamArray MemberList() As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimensionName: 入力変数; 選択したメンバー・リストを設定するディメンションの名前

MemberList: 入力変数; 選択肢として設定するメンバー名の配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

この例では、ワークシートが接続されていることと、グリッドがあることを想定しています。注意: InvalidMember はエンティティディメンションに属さないため、ディメンション選択のリストには含まれません。

```
Public Declare Function HypSetMembers Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtDimensionName As Variant, ParamArray MemberList() As Variant) As Long
Sub Example_HypSetMembers()
sts = HypSetMembers("Sheet1", "Entity", "Regional", "InvalidMember", "None")
End Sub
```

HypGetActiveMember

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetActiveMember()は、特定のディメンションのアクティブ・メンバー名を戻します。ページ・ディメンション、POV ディメンションおよびユーザー変数のアクティブ・メンバーは、アド・ホックまたはフォーム・ワークシートで取得できません。行ディメンションと列ディメンションは戻されません。

構文

HypGetActiveMember (vtDimName, vtMember)

ByVal vtDimName As Variant

ByRef vtMember As Variant

パラメータ

vtDimName: 入力変数; アクティブ・メンバーを取得するディメンション名

vtMember: 出力変数; 戻されるアクティブ・メンバー名

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

この例では、ワークシートが接続されていることと、グリッドがあることを想定しています。

```
Public Declare Function HypGetActiveMember Lib "HsAddin" (ByVal vtDimName As Variant, ByRef vtMember As Variant) As Long
Sub Example_GetActiveMember()
sts = HypGetActiveMember("Market", vtMem)
End Sub
```

HypSetActiveMember

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSetActiveMember()は、次に示す特定ディメンションのアクティブ・メンバーを設定します: ページ、POV およびユーザー変数。行ディメンションと列ディメンションには適用されません。

構文

HypSetActiveMember (vtDimName, vtMember)

ByVal vtDimName As Variant

ByVal vtMember As Variant

パラメータ

vtDimName: 入力変数; アクティブ・メンバーを変更または設定するディメンション名

vtMember: 入力変数; 設定するアクティブ・メンバー

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

この例では、ワークシートが接続されていることと、グリッドがあることを想定しています。

```
Public Declare Function HypSetActiveMember Lib "HsAddin" (ByVal vtDimName As Variant, ByVal vtMember As Variant) As Long
Sub Example_HypSetActiveMember()
sts = HypSetActiveMember("Market", "Washington")
End Sub
```

HypGetDimensions

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetDimensions()は、グリッド内のディメンション名を含む配列と、対応するそれらのタイプを含む配列を返します。

タイプ配列には、次の列挙を使用して識別できる 5 つの可能なタイプ(行、列、ページ、POV、ユーザー変数)があります:

```
Enum DIMENSION_TYPE
ROW_DIM = 0
COL = 1
POV = 2
PAGE = 3
USERVAR = 5
End Enum
```

ユーザー変数を一意に識別するには、ディメンション名ではなくユーザー変数名を使用します。

構文

HypGetDimensions (vtSheetName, vtMemberNames, vtType)

ByVal vtSheetName As Variant

ByRef vtMemberNames As Variant

ByRef vtType As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力パラメータ; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberNames: 出力変数; グリッドに存在するディメンション名の配列

vtType: 出力変数; それぞれのディメンションのタイプ情報

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

この例では、ワークシートが接続されていることと、グリッドがあることを想定しています。

```
Public Declare Function HypGetDimensions Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByRef vtMemberNames As Variant, ByRef vtType As Variant) As Long
Sub Example_GetDimensions()
sts = HypGetDimensions("Sheet1", vtDim, vtType)
End Sub
```

HypSetDimensions

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypSetDimensions()は、グリッドのメタデータを再配置して、デフォルト・グリッド以外のアド・ホック・グリッド・レイアウトを指定します。この関数には、グリッド内のディメンション名を含む配列や、対応するタイプを含む配列を指定します。

HypSetDimensions()が既存のアド・ホック・レポートで使用されている場合、グリッド全体のレイアウトが再配置され、コメント、式およびフォーマットは失われます。

構文

```
HypSetDimensions(vtSheetName, vtDimNames(), vtType())
```

ByVal vtSheetName() As Variant

ByRef vtDimNames() As Variant

ByRef vtType() As Variant)

パラメータ

vtSheetName: 入力パラメータ; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetNameが Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimNames(): 入力パラメータ; グリッドに存在するディメンション名の配列

vtType(): 入力パラメータ; それぞれのディメンションのタイプ情報。可能な値:

- 行ディメンション(ROW_DIM) = 0
- 列(COL) = 1
- POV (POV) = 2
- ページ・ディメンション(PAGE) = 3
- ユーザー変数(USERVAR) = 5

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

この例では、ワークシートが接続されていることを想定しています。

```
Public Declare Function HypSetDimensions Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName() As Variant, ByRef vtDimNames() As Variant, ByRef vtType() As Variant) As Long
Sub Example_HypSetDimensions()
Dim dims(3) As Variant
Dim types(3) As Variant
dims(0) = "Product"
dims(1) = "Market"
dims(2) = "Scenario"
dims(3) = "Measures"
types(0) = ROW_DIM
types(1) = COL
types(2) = POV
types(3) = POV
sts = HypSetDimensions("Sheet2", dims, types)
End Sub
```


9

計算スクリプトおよびビジネス・ルール関数

この章の内容

計算スクリプトおよびビジネス・ルール関数について.....	131
HypListCalcScripts	131
HypExecuteCalcScript	132
HypListCalcScriptsEx.....	133
HypExecuteCalcScriptEx.....	134
HypDeleteCalc.....	139

計算スクリプトおよびビジネス・ルール関数について

計算スクリプトおよびビジネス・ルール関数は、計算スクリプトおよびビジネス・ルールを取得または実行します。

HypListCalcScripts

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypListCalcScripts()は、Essbase サーバーに存在するすべての計算スクリプトをリストします。

構文

HypListCalcScripts (vtSheetName, vtScriptArray)

ByVal vtSheetName As Variant

ByRef vtScriptArray As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力パラメータ; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtScriptArray: 出力パラメータ; ビジネス・ルール・スクリプトの配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypListCalcScripts Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByRef vtScriptArray As Variant) As Long
Sub Example_HypListCalcScripts()
Dim sts As Long
Dim paramList As Variant
sts = HypListCalcScripts(Empty, paramList)
If IsArray(paramList) Then
    cbItems = UBound(paramList) - LBound(paramList) + 1
    MsgBox ("Number of elements = " + Str(cbItems))
    For i = LBound(paramList) To UBound(paramList)
        MsgBox ("Member = " + paramList(i))
    Next
Else
    MsgBox ("Return Value = " + sts)
End If
End Sub
```

HypExecuteCalcScript

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypExecuteCalcScript()は、計算スクリプト(ビジネス・ルール・スクリプト)を使用して、サーバー側での計算を開始します。

構文

HypExecuteCalcScript (vtSheetName, vtCalcScript, vtSynchronous)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtCalcScript As Variant

ByVal vtSynchronous As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtCalcScript: サーバー上のデータベース・ディレクトリ内にある、実行する計算スクリプトの名前。デフォルトの計算スクリプトを実行するには、Default を使用します。

vtSynchronous: 未使用

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypExecuteCalcScript Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByVal vtCalcScript As Variant, ByVal vtSynchronous As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypExecuteCalcScript()  
X = HypExecuteCalcScript (Empty, "Default", False)  
If X = 0 Then  
    MsgBox("Calculation complete.")  
Else  
    MsgBox("Calculation failed.")  
End If  
End Sub
```

HypListCalcScriptsEx

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning

説明

HypListCalcScriptsEx()はすべてのビジネス・ルールをリストします。

注： 詳細は、HypExecuteCalcScriptsEx の「使用方法」を参照してください。

構文

HypListCalcScriptsEx (vtSheetName, vtbRuleOnForm, vtCubeNames, vtBRNames,
vtBRTypes, vtBRHasPrompts, vtBRNeedsPageInfo, vtBRHidePrompts)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtbRuleOnForm As Variant

ByRef vtCubeNames As Variant

ByRef vtBRNames As Variant

ByRef vtBRTypes As Variant

ByRef vtBRHasPrompts As Variant

ByRef vtBRNeedsPageInfo As Variant

ByRef vtBRHidePrompts As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力パラメータ; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtbRuleOnForm: 入力パラメータ; シート上の開いているフォームにのみ関連付けられているビジネス・ルールをリストするかどうかを示すブール値。False に設定されると、アプリケーションに関連付けられているすべてのビジネス・ルールを戻します。

vtCubeNames: 出力パラメータ; ビジネス・ルールに関連付けられているキューブ名の配列(Planning の場合はプラン・タイプの配列)

vtBRNames: 出力パラメータ; ビジネス・ルール名の配列

vtBRTypes: 出力パラメータ; ビジネス・ルール・タイプの配列

vtBRHasPrompts: 出力パラメータ; ビジネス・ルールに実行時プロンプト(RTP)があるかどうかを示すブール値の配列

vtBRNeedsPageInfo: 出力パラメータ; シートでのページ情報の実行がビジネス・ルールで必要かどうかを示すブール値の配列

vtBRHidePrompts: 出力パラメータ; ビジネス・ルールの RTP が非表示かどうかを示すブール値の配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Public Declare Function HypListCalcScriptsEx Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtbRuleOnForm As Variant, ByRef vtCubeNames As Variant, ByRef vtBRNames As Variant, ByRef vtBRTypes As Variant, ByRef vtBRHasPrompts As Variant, ByRef vtBRNeedsPageInfo As Variant, ByRef vtBRHidePrompts As Variant) As Long
Sub RunListCalcScriptsEx()
sts = HypListCalcScriptsEx(Empty, True, CubeName, BRNames, BRTypes, BRHasPrompts, BRNeedsPageInfo, BRHidePrompts)
End Sub
```

HypExecuteCalcScriptEx

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning

説明

HypExecuteCalcScriptEx()は選択されたビジネス・ルールを起動します。

構文

HypExecuteCalcScriptEx(vtSheetName, vtCubeName, vtBRName, vtBRType, vtBRHasPrompts, vtBRNeedPageInfo, vtRTPNames(), vtRTPValues(), vtbShowRTPDlg, vtbRuleOnForm, vtbBRRanSuccessfully, vtCubeName, vtBRName, vtBRType, vtBRHasPrompts, vtBRNeedPageInfo, vtbBRHidePrompts, vtRTPNamesUsed, vtRTPValuesUsed)

ByVal vtSheetName As Variant
ByVal vtCubeName As Variant
ByVal vtBRName As Variant
ByVal vtBRType As Variant
ByVal vtbBRHasPrompts As Variant
ByVal vtbBRNeedPageInfo As Variant
ByRef vtRTPNames() As Variant
ByRef vtRTPValues() As Variant
ByVal vtbShowRTPDlg As Variant
ByVal vtbRuleOnForm As Variant
ByRef vtbBRRanSuccessfully As Variant
ByRef vtCubeName As Variant
ByRef vtBRName As Variant
ByRef vtBRType As Variant
ByRef vtbBRHasPrompts As Variant
ByRef vtbBRNeedPageInfo As Variant
ByRef vtbBRHidePrompts As Variant
ByRef vtRTPNamesUsed As Variant
ByRef vtRTPValuesUsed As Variant

パラメータ

vtSheetName: 入力パラメータ; 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtCubeName: 入力パラメータ; ビジネス・ルールに関連付けられているキューブ名 (Planning の場合はプラン・タイプ)

vtBRName: 入力パラメータ; 実行するビジネス・ルールの名前

vtBRType: 入力パラメータ; 実行するビジネス・ルールのタイプ

vtbBRHasPrompts: 入力パラメータ; ビジネス・ルールに RTP があるかどうかを示すブール値

vtbNeedPageInfo: 入力パラメータ; ページ情報の実行がビジネス・ルールで必要かどうかを示すブール値(この情報は、HypListCalcScriptsEx か、HypExecuteCalcScriptEx の以前の実行に基づきます)

vtRTPNames: 入力パラメータ; ビジネス・ルールに関連付けられている RTP 名の配列

vtRTPValues: 入力パラメータ; RTP 名に対応する RTP 値の配列

vtbShowBRDlg: 入力パラメータ; 「ビジネス・ルール」ダイアログを表示してユーザーにビジネス・ルールを選択させるか(True)、ビジネス・ルールを自動的に実行するか(False)を示すブール値。True に設定されると、ビジネス・ルールに関連するすべての入力パラメータは無視されます。推奨: 最初にビジネス・ルールを実行するときは True に設定し、その後は False に設定して同じビジネス・ルールの実行を自動化します。

vtbRuleOnForm: 入力パラメータ; アクティブ・シート上で開いているフォームにビジネス・ルールに関連付けるかどうかを示すブール値

vtbBRRanSuccessfully: 出力パラメータ; 最後のビジネス・ルールが正常に実行されたかどうかを示すブール値

vtCubeName: 出力パラメータ; 最後に実行されたビジネス・ルールに関連付けられているキューブ名(Planning の場合はプラン・タイプ)

vtBRName: 出力パラメータ; 最後に実行されたビジネス・ルールの名前

vtBRType: 出力パラメータ; 最後に実行されたビジネス・ルールのタイプ

vtbBRHasPrompts: 出力パラメータ; 最後に実行されたビジネス・ルールに RTP があるかどうかを示すブール値

vtbBRNeedPageInfo: 出力パラメータ; 最後に実行されたビジネス・ルールでページ情報の実行が必要かどうかを示すブール値

vtbBRHidePrompts: 出力パラメータ; 最後に実行されたビジネス・ルールに非表示の RTP があるかどうかを示すブール値

vtRTPNames: 出力パラメータ; 最後に実行されたビジネス・ルールの実行に使用された RTP 名の配列

vtRTPValues: 出力パラメータ; 最後に実行されたビジネス・ルールに関連付けられている RTP 値の配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypExecuteCalcScriptEx Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtCubeName As Variant, ByVal vtBRName As Variant, ByVal vtBRType As Variant, ByVal vtbBRHasPrompts As Variant, ByVal vtbBRNeedPageInfo As Variant, ByRef vtRTPNames() As Variant, ByRef vtRTPValues() As Variant, ByVal vtbShowRTPDlg As Variant, ByVal vtbRuleOnForm As Variant, ByRef vtBRRanSuccessfully As Variant, ByRef vtCubeName As Variant, ByRef vtBRName As Variant, ByRef vtBRType As Variant, ByRef vtbBRHasPrompts As Variant, ByRef vtbBRNeedPageInfo As Variant, ByRef vtbBRHidePrompts As Variant, ByRef vtRTPNamesUsed As Variant, ByRef vtRTPValuesUsed As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypExecuteCalcScriptEx()
```

```
Dim oRet As Long
```

```
Dim oSheetName As StringDim oSheet As Worksheet
```

```

Dim vtCubeNames As Variant
Dim vtBRNames As Variant
Dim vtBRTypes As Variant
Dim vtBRHasPrompts As Variant
Dim vtBRNeedsPageInfo As Variant
Dim vtBRHidePrompts As Variant
Dim sAllCalcs As String
Dim sCalcName As String
Dim bNeedPageInfo As Variant
Dim vtInRTPNames() As Variant
Dim vtInRTPValues() As Variant
Dim vtOutRTPNames As Variant
Dim vtOutRTPValues As Variant
Dim vtbBRRanSuccessfully As Variant
Dim vtbBRRanSuccessfully2 As Variant
Dim vtOutCubeName As Variant
Dim vtOutBRName As Variant
Dim vtOutBRType As Variant
Dim bBRHasPrompts As Variant
Dim bBRNeedPageInfo As Variant
Dim bBRHidePrompts As Variant
Dim bShowDlg As Variant
Dim bRuleOnForm As Variant

'Set oSheet = ActiveSheet
'oSheetName = oSheet.Name
oSheetName = "Sheet3"

oRet = HypListCalcScriptsEx (oSheetName, False, vtCubeNames, vtBRNames, vtBRTypes,
vtBRHasPrompts, vtBRNeedsPageInfo, vtBRHidePrompts)
If (oRet = 0) Then
    If IsArray(vtBRNames) Then
        lNumMbrs = (UBound(vtBRNames) - LBound(vtBRNames) + 1)
    End If

    sPrintMsg = "Number of Calc Scripts = " & lNumMbrs
    MsgBox (sPrintMsg)

    'Start Executing the Calc Script

    bShowDlg = True
    bRuleOnForm = False
    iScript = 1

    oRet = HypExecuteCalcScriptEx (oSheetName, vtCubeNames(iScript),
vtBRNames(iScript), vtBRTypes(iScript), vtBRHasPrompts(iScript),
vtBRNeedsPageInfo(iScript), vtInRTPNames, vtInRTPValues, bShowDlg, bRuleOnForm,
vtbBRRanSuccessfully, vtOutCubeName, vtOutBRName, vtOutBRType, bBRHasPrompts,
bBRNeedPageInfo, bBRHidePrompts, vtOutRTPNames, vtOutRTPValues)
    If (oRet = 0) Then
        MsgBox ("Last BR ran successfully - " & vtbBRRanSuccessfully)

        If (vtbBRRanSuccessfully = True) Then
            bShowDlg = False
            bRuleOnForm = False

            If IsArray(vtOutRTPNames) And IsArray(vtOutRTPValues) Then

```

```

        lNumRTPNames = (UBound(vtOutRTPNames) - LBound(vtOutRTPNames) + 1)
        lNumRTPVals = (UBound(vtOutRTPValues) - LBound(vtOutRTPValues) + 1)
    End If

    If (lNumRTPNames > 0) Then
        ReDim vtInRTPNames(lNumRTPNames - 1) As Variant
        ReDim vtInRTPValues(lNumRTPNames - 1) As Variant

        For iRTPs = 0 To lNumRTPNames - 1
            sBRName = vtOutRTPNames(iRTPs)
            sBRVal = vtOutRTPValues(iRTPs)

            vtInRTPNames(iRTPs) = sBRName
            vtInRTPValues(iRTPs) = sBRVal
        Next iRTPs
    End If

    oRet = HypExecuteCalcScriptEx (oSheetName, vtOutCubeName, vtOutBRName,
vtOutBRType, bBRHasPrompts, bBRNeedPageInfo, vtInRTPNames, vtInRTPValues, bShowDlg,
bRuleOnForm, vtbBRRanSuccessfully2, vtOutCubeName, vtOutBRName, vtOutBRType,
bBRHasPrompts, bBRNeedPageInfo, bBRHidePrompts, vtOutRTPNames, vtOutRTPValues)
    MsgBox ("Automated BR ran successfully - " & vtbBRRanSuccessfully2)
End If
Else
    sPrintMsg = "Error - " & oRet
    MsgBox (sPrintMsg)
End If
Else
    sPrintMsg = "Error - " & oRet
    MsgBox (sPrintMsg)
End If

End Sub

```

使用方法

HypExecuteCalcScriptEx の前に HypListCalcScriptsEx が呼び出されたかどうかに応じて、HypExecuteCalcScriptEx は 4 つのモードで使用できます。

HypExecuteCalcScriptEx の前に HypListCalcScriptsEx を呼び出してない場合は、HypListCalcScriptsEx を初めて呼び出す際に、初回の使用のために vtbShowBRDlg を True に設定し、その後で False に設定する必要があります。

- vtbShowBRDlg が True の場合(モード 1):
 - **入力引数:** vtSheetName、vtCubeName、vtbRuleOnForm が使用されます。vtBRName、vtBRType、vtbBRHasPrompts、vtbNeedPageInfo、ppRTPNames、ppRTPValues は無視されます。
 - **動作:** vtbRuleOnForm の値に応じて「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスに使用可能なすべてのルールが表示されます。ユーザーが選択したビジネス・ルールを実行して「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスを終了すると、そのビジネス・ルールの詳細が出力引数に設定され呼出し側に戻されます。

- **出力引数:** すべての出力引数に値が設定されて呼出し側に戻され、呼出し側はそれらを後続の呼出しで使用できるようになります。
- **vtbShowBRDlg が False の場合(モード 2):**
 - **入力引数:** すべての入力引数が使用されます。
 - **動作:** 「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスが表示されません。ビジネス・ルールが自動的に実行され、適切なステータスが呼出し側に戻されます。
 - **出力引数:** すべての出力引数は変更されません。呼出し側にはその特定のビジネス・ルールの実行に必要なすべての情報があり、情報を渡す必要がないためです。

HypExecuteCalcScriptEx の前に HypListCalcScriptsEx を呼び出す場合、HypListCalcScriptsEx が呼び出された時点で、ユーザーはすべてのビジネス・ルールと実行時プロンプトに関する情報を取得します(該当する場合)。

ユーザーが RTP のないビジネス・ルールを実行する場合、vtbShowBRDlg 引数に False を設定して HypExecuteCalcScriptEx を呼び出し、他のすべての情報を入力引数として提供できます。

ユーザーが RTP のあるビジネス・ルールを実行する場合は、ビジネス・ルールとその RTP を表示してユーザーがそのビジネス・ルールを実行するための RTP 値を選択できるように、vtbShowBRDlg に True を設定して HypExecuteCalcScriptEx を呼び出す必要があります。(Planning では、表示される RTP がない場合はビジネス・ルールの RTP フラグを True に設定しても差し支えありません。)

- キューブ名、ビジネス・ルール名、およびビジネス・ルール・タイプが空として HypExecuteCalcScriptEx で渡された場合(モード 3)、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスが表示され、vtbRuleOnForm 引数に応じてすべてのビジネス・ルールが表示されます。それ以外はすべてモード 1 と同じ動作になります。
- キューブ名、ビジネス・ルール名、およびビジネス・ルール・タイプの値が指定されて HypExecuteCalcScriptEx で渡された場合(モード 4)、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスが表示され、渡されたビジネス・ルール(指定されたキューブ名に対するビジネス・ルール名)のみがその RTP とともに表示されます。それ以外はすべてモード 1 と同じ動作になります。

HypDeleteCalc

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypDeleteCalc()は、Essbase サーバーから計算スクリプトを削除します。

構文

HypDeleteCalc (vtSheetName, vtApplicationName, vtDatabaseName, vtCalcScript)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtApplicationName As Variant

ByVal vtDatabaseName As Variant

ByVal vtCalcScript As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtApplicationName: 計算スクリプトを含むアプリケーション名の名前

vtDatabaseName: 計算スクリプトを含むデータベースの名前

vtCalcScript: 削除する計算スクリプトの名前

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypDeleteCalc Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtApplicationName As Variant, ByVal vtDatabaseName As Variant, ByVal vtCalcScript As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypDeleteCalc  
Dim X as Long  
X = HypDeleteCalc (Empty, "Sample", "Basic", "CalcYear")  
End Sub
```

この章の内容

計算、連結、および換算関数について.....	141
HypCalculate	141
HypCalculateContribution	142
HypConsolidate	143
HypConsolidateAll.....	143
HypConsolidateAllWithData.....	144
HypForceCalculate	145
HypForceCalculateContribution.....	145
HypForceTranslate	146
HypTranslate.....	147

計算、連結、および換算関数について

これらの関数は、Financial Management および Hyperion Enterprise アプリケーションのデータに対して、計算、連結および換算操作を実行します。

HypCalculate

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypCalculate()は、計算メソッドを呼び出します。

構文

HypCalculate (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用されるデータを含む範囲。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypCalculate Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypCalculate()
sts = HypCalculate (Empty, Empty)
End Sub
```

HypCalculateContribution

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management (アド・ホックのみ)

説明

HypCalculateContribution()は、コントリビューションの計算を呼び出します。

構文

HypCalculateContribution (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用されるデータを含む範囲。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypCalculateContribution Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypCalculateContribution()
sts = HypCalculateContribution (Empty, Empty)
End Sub
```

HypConsolidate

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypConsolidate は、連結メソッドを呼び出します。

構文

HypConsolidate (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用するデータを参照する範囲オブジェクト。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypConsolidate Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypConsolidate()
sts = HypConsolidate (Empty, Empty)
End Sub
```

HypConsolidateAll

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypConsolidateAll()は、「すべてを連結」メソッドを呼び出します。

構文

HypConsolidateAll (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用されるデータを含む範囲。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypConsolidateAll Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypConsolidateAll
sts = HypConsolidateAll(Empty, Empty)
End Sub
```

HypConsolidateAllWithData

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypConsolidateAllWithData は、「データのあるものすべてを連結」メソッドを呼び出します。

構文

HypConsolidateAllWithData (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用されるデータを含む範囲。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypConsolidateAllWithData Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypConsolidateAllWithData()
sts = HypConsolidateAllWithData (Empty, Empty)
End Sub
```

HypForceCalculate

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management

説明

HypForceCalculate()は、計算の強制メソッドを呼び出します。

構文

HypForceCalculate(vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用されるデータを含む範囲。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypForceCalculate Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypForceCalculate()
sts = HypForceCalculate (Empty, Empty)
End Sub
```

HypForceCalculateContribution

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management (アド・ホックのみ)

説明

HypForceCalculateContribution は、コントリビューションの強制計算メソッドを呼び出します。

構文

HypForceCalculateContribution (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用されるデータを含む範囲。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypForceCalculateContribution Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypForceCalculateContribution()
sts = HypForceCalculateContribution (Empty, Empty)
End Sub
```

HypForceTranslate

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management (アド・ホックのみ)

説明

HypForceTranslate は、換算の強制メソッドを呼び出します。

構文

HypForceTranslate (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用されるデータを含む範囲。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypForceTranslate Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypForceTranslate()
sts = HypForceTranslate (Empty, Empty)
End Sub
```

HypTranslate

データ・プロバイダ・タイプ: Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypTranslate()は、換算メソッドを呼び出します。

構文

HypTranslate (vtSheetName, vtRange)

ByVal vtSheetName As Variant

By Val vtRange As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtRange: 使用されるデータを含む範囲。Empty または Null の場合、ワークシートの選択された範囲が使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypTranslate Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal
vtRange As Variant) As Long
Sub Example_HypTranslate()
sts = HypTranslate (Empty, Empty)
```

End Sub

この章の内容

メンバー問合せ関数について	149
HypFindMember.....	149
HypFindMemberEx	151
HypGetAncestor	152
HypGetChildren.....	153
HypGetParent.....	154
HypIsAttribute	155
HypIsDescendant	156
HypIsAncestor	156
HypIsExpense.....	157
HypIsParent.....	158
HypIsChild	159
HypIsUDA	160
HypOtlGetMemberInfo	161
HypQueryMembers.....	162
HypGetMemberInformation	165
HypGetMemberInformationEx.....	167

メンバー問合せ関数について

メンバー問合せ関数は、メンバーに関する世代、レベル、属性およびその他の情報を取得します。

HypFindMember

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypFindMember()は、指定したメンバーのディメンション、別名、世代およびレベルの情報を取得します。

構文

HypFindMember (vtSheetName, vtMemberName, vtAliasTable, vtDimensionName, vtAliasName, vtGenerationName, vtLevelName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtAliasTable As Variant

ByRef vtDimensionName As Variant

ByRef vtAliasName As Variant

ByRef vtGenerationName As Variant

ByRef vtLevelName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 入力パラメータ; 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtAliasTable: 入力パラメータ; 別名の検索に使用する別名表の名前。Null の場合は、デフォルトの別名表が使用されます。

vtDimensionName: 出力パラメータ; メンバーのディメンション

vtAliasName: 出力パラメータ; メンバーの別名

vtGenerationName: 出力パラメータ; メンバーの世代

vtLevelName: 出力パラメータ; メンバーのレベル

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypFindMember Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtAliasTable As Variant, ByRef vtDimensionName As Variant, ByRef vtAliasName As Variant, ByRef vtGenerationName As Variant, ByRef vtLevelName As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypFindMember()  
    X = HypFindMember(Empty, "100", "Default", dimName, aliasName, genName, levelName)  
    MsgBox (dimName)  
    MsgBox (aliasName)  
    MsgBox (genName)  
    MsgBox (levelName)  
End Sub
```

HypFindMemberEx

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypFindMemberEx()は、指定したメンバーのディメンション、別名、世代およびレベルの情報を取得します。

構文

HypFindMember (vtSheetName, vtMemberName, vtAliasTable, vtDimensionName, vtAliasName, vtGenerationName, vtLevelName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtAliasTable As Variant

ByRef vtDimensionName As Variant

ByRef vtAliasName As Variant

ByRef vtGenerationName As Variant

ByRef vtLevelName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtAliasTable: 別名の検索に使用する別名表の名前。NULL 値の場合は、デフォルトの別名表が検索されます。

vtDimensionName: 出力パラメータ; メンバーのディメンション

vtAliasName: 出力パラメータ; メンバーの別名

vtGenerationName: 出力パラメータ; メンバーの世代

vtLevelName: 出力パラメータ; メンバーのレベル

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypFindMemberEx Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtAliasTable As Variant, ByRef vtDimensionName
As Variant, ByRef vtAliasName As Variant, ByRef vtGenerationName As Variant, ByRef
vtLevelName As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypFindMemberEx()
```

```
X = HypFindMemberEx(Empty, "100", "Default", dimName, aliasName, genName,
levelName)
  MsgBox (dimName)
  MsgBox (aliasName)
  MsgBox (genName)
  MsgBox (levelName)
End Sub
```

HypGetAncestor

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypGetAncestor()は、指定したメンバーの、任意の特定世代またはレベルの祖先を返します。

構文

HypGetAncestor (vtSheetName, vtMemberName, vtLayerType, intLayerNum, vtAncestor)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtLayerType As Variant

ByVal intLayerNum As Integer

ByRef vtAncestor As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtLayerType: 入力パラメータ: Gen または Level。Null または Empty に設定されると、Gen がデフォルトになります。

intLayerNum: 入力パラメータ: レベルまたは世代番号。必須。

vtAncestor: 出力パラメータ; 祖先の名前

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetAncestor Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal
vtMemberName As Variant, ByVal vtLayerType As Variant, ByVal intLayerNumber As
Integer, ByRef vtAncestor As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypGetAncestor
    Dim X as Long
    Dim vtAncestor As Variant
    X = HypGetAncestor (Empty, "100-20", "Level", 1, vtAncestor)
End Sub
```

HypGetChildren

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypGetChildren()は、指定したメンバーの子を戻します。

構文

HypGetChildren (vtSheetName, vtMemberName, intChildCount, vtChildArray)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal intChildCount As Integer

ByRef vtChildArray As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 入力パラメータ; メンバー名。必須。

intChildCount: 入力パラメータ; 戻される子の数の制限。

- ChildCount <=0。すべての子が戻されます。
- ChildCount >0。結果セットは、引数として指定された数に制限されます。指定された引数よりも結果セットが少ない場合は、すべての結果が戻されます。

vtChildArray: 子のリストを格納する出力結果ベクトル。マクロが正常に終了しなかった場合、コンテンツは不明になります。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypGetChildren Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByVal intChildCount As Integer, ByRef vtChildArray As Variant) As Long
```

```

Sub Example_HypGetChildren
  Dim vtChildren As Variant
  Dim vtChild As Variant
  Dim X as Long
  X = HypGetChildren (Empty, "Market", 0, vtChildren)
  If IsArray (vtChildren) Then
    For i = LBound (vtChildren) To UBound (vtChildren)
      VtChild = vtChildren (i)
    Next
  End If
End Sub

```

HypGetParent

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypGetParent()は、指定したメンバーの親の名前を返します。

構文

HypGetParent(vtSheetName, vtMemberName, vtParentName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByRef vtParentName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 入力パラメータ; メンバー名。必須。

vtParentName: 出力パラメータ; 親の名前

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```

Declare Function HypGetParent Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal
vtMemberName As Variant, ByRef vtParentName As Variant) As Long

```

```

Sub Example_HypGetParent
  Dim vtParent As Variant
  X = HypGetParent (Empty, "East", vtParent)
End sub

```

HypIsAttribute

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypIsAttribute()は、指定したメンバーが特定の属性を持つかどうかを確認します。

構文

HypIsAttribute(vtSheetName, vtDimensionName, vtMemberName, vtUDAString)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtUDAString As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimensionName: メンバーが属するディメンションの名前

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtUDAString: メンバーの属性と比較する文字列を入力します。

戻り値

Variant を戻します。-1 は TRUE、0 は FALSE です。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypIsAttribute Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtDimensionName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtUDAString As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypIsAttribute()  
vtret = HypIsAttribute(Empty, "Market", "Connecticut", "MyAttribute")  
If vtret = -1 Then  
    MsgBox ("Found MyAttribute")  
ElseIf vtret = 0 Then  
    MsgBox ("MyAttribute not available for Connecticut")  
Else  
    MsgBox ("Error value returned is" & vtret)  
End If  
End Sub
```

HypIsDescendant

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypIsDescendant()は、指定したメンバーが、指定したもう 1 つのメンバーの子孫かどうかを確認します。

構文

HypIsDescendant(vtSheetName, vtMemberName, vtAncestorName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtAncestorName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtAncestorName: 祖先の名前。必須。

戻り値

Variant を返します。-1 は TRUE、0 は FALSE です。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypIsDescendant Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtDescendantName As Variant) As Boolean

Sub Example_HypIsDescendant
    Dim b as Boolean
    b = HypIsDescendant (Empty, "Year", "Jan")
End sub
```

HypIsAncestor

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypIsAncestor()は、指定したメンバーが、指定したもう 1 つのメンバーの祖先かどうかを確認します。

構文

HypIsAncestor(vtSheetName, vtMemberName, vtAncestorName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtAncestorName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtAncestorName: 祖先の名前。必須。

戻り値

Variant を返します。-1 は TRUE、0 は FALSE です。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypIsAncestor Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtAncestorName As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypIsAncestor
    Dim b As Variant
    b = HypIsAncestor (Empty, "Year", "Jan")
End sub
```

HypIsExpense

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypIsExpense()は、指定したメンバーが「支出」タグを持っているかどうかを確認します。

構文

HypIsExpense(vtSheetName, vtDimensionName, vtMemberName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimensionName: メンバーのディメンション。Null または Empty に設定されると、アクティブなディメンションが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

戻り値

Variant を戻します。-1 は TRUE、0 は FALSE です。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypIsExpense Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtDimensionName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant) As Variant
```

```
Sub CheckExpense()  
vtret = HypIsExpense(Empty, "Measures", "Opening Inventory")  
If vtret = -1 Then  
    MsgBox ("Opening Inventory has expense flag set")  
ElseIf vtret = 0 Then  
    MsgBox ("Expense flag has not been set")  
Else  
    MsgBox ("Error value returned is" & vtret)  
End If  
End Sub
```

HypIsParent

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypIsParent()は、指定したメンバーが、指定したもう1つのメンバーの親かどうかを確認します。

構文

HypIsParent(vtSheetName, vtMemberName, vtParentName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtParentName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtParentName: 親の名前。必須。

戻り値

Variant を返します。-1 は TRUE、0 は FALSE です。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypIsParent Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByVal ParentName As Variant) As Boolean
```

```
Sub Example_HypIsParent
    Dim b as Boolean
    b = HypIsParent (Empty, "East", "Market")
End Sub
```

HypIsChild

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypIsChild()は、メンバーが、指定した親メンバーの子かどうかを決定します。HypIsChild による確認の対象は子のみであり、すべての子孫が確認されるわけではありません。

構文

HypIsChild(vtSheetName, vtParentName, vtChildName)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtParentName As Variant

ByVal vtChildName As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtParentName: 親の名前。必須

vtChildName: 子の名前。必須

戻り値

Variant を返します。-1 は TRUE、0 は FALSE です。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypIsChild Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtParentName As Variant, ByVal vtChildName As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypIsChild
    Dim b as Boolean
    b = HypIsChild ("Sheet1", "Year", "Qtr1")
End Sub
```

HypIsUDA

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypIsUDA()は、メンバーに特定の UDA があるかどうかを判別します。

構文

HypIsUDA (vtSheetName, vtDimensionName, vtMemberName, vtUDAString)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtUDAString As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimensionName: メンバーのディメンション

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtUDAString: メンバーの属性と比較する文字列を入力します。

戻り値

Variant を戻します。-1 は TRUE、0 は FALSE です。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypIsUDA Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtDimensionName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtUDAString As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypIsUDA()
    vtret = HypIsUDA (Empty, "Market", "Connecticut", "MyUDA")
End Sub
```

```
If vtret = -1 Then
    MsgBox ("Found MyUDA")
ElseIf vtret = 0 Then
    MsgBox ("Did not find MyUDA")
Else
    MsgBox ("Error value returned is" & vtret)
End If
End Sub
```

HypOtlGetMemberInfo

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypOtlGetMemberInfo()は、選択したメンバーに関連付けられているコメント、式、UDA および属性を返します。

構文

HypOtlGetMemberInfo (vtSheetName, vtDimensionName, vtMemberName, vtPredicate, vtMemberArray)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtPredicate As Variant

ByRef vtMemberArray As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtDimensionName: メンバーのディメンション。Null に設定すると、アウトライン全体で述部が検索されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtPredicate: メンバー選択条件:

- 1 = HYP_COMMENT
- 2 = HYP_FORMULA
- 3 = HYP_UDA
- 4 = HYP_ATTRIBUTE

vtMemberArray: 出力パラメータ: 問合せの結果。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypOtlGetMemberInfo Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtDimensionName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtPredicate
As Variant, ByRef vtMemberArray As Variant) As Long
Sub Example_HypOtlGetMemberInfo()
    vtRet = HypOtlGetMemberInfo(Empty, "Year", "Jan", HYP_COMMENT, vt)
If IsArray(vt) Then cbItems = UBound(vt) + 1
    MsgBox ("Number of elements = " + Str(cbItems))
For i = 0 To UBound(vt)
    MsgBox ("Member = " + vt(i))
Next
MsgBox ("Return Value = " + vtRet)
End Sub
```

HypQueryMembers

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypQueryMembers()は、メンバー選択問合せを実行します。

構文

HypQueryMembers (vtSheetName, vtMemberName, vtPredicate, vtOption, vtDimensionName, vtInput1, vtInput2, vtMemberArray)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtPredicate As Variant

ByVal vtOption As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ByVal vtInput1 As Variant

ByVal vtInput2 As Variant

ByRef vtMemberArray As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtPredicate: メンバー選択条件(整数):

- 1 = HYP_CHILDREN
- 2 = HYP_DESCENDANTS
- 3 = HYP_BOTTOMLEVEL
- 4 = HYP_SIBLINGS
- 5 = HYP_SAMELEVEL
- 6 = HYP_SAMEGENERATION
- 7 = HYP_PARENT
- 8 = HYP_DIMENSION
- 9 = HYP_NAMEDGENERATION
- 10 HYP_NAMEDLEVEL
- 11 HYP_SEARCH
- 12 HYP_WILDSEARCH
- 13 HYP_USERATTRIBUTE
- 14 HYP_ANCESTORS
- 15 HYP_DTSMEMBER
- 16 HYP_DIMUSERATTRIBUTES

vtOption: predicate に依存するオプション(整数):predicate の値が HYP_SEARCH および HYP_WILDSEARCH の場合は、次の問合せオプションを指定します:

- HYP_MEMBERONLY
- HYP_ALIASESONLY
- HYP_MEMBERSANDALIASES

vtDimensionName: 問合せの範囲を制限するディメンション(文字列)。このフィールドは、次の問合せオプションで使用され、それ以外では無視されます:

HYP_NAMEDGENERATION、HYP_NAMEDLEVEL、HYP_USERATTRIBUTE、
HYP_SEARCH(Null に設定するとすべてのディメンションが検索されます)、
HYP_WILDSEARCH(Null に設定するとすべてのディメンションが検索されます)。

vtInput1: オプションによって決まる入力文字列(文字列)。このフィールドは、次の問合せオプションで使用され、それ以外では無視されます:

- HYP_NAMEDGENERATION (世代の名前)
- HYP_NAMEDLEVEL (レベルの名前)
- HYP_SEARCH (検索する文字列。この文字列は完全一致として定義されています)
- HYP_WILDSEARCH (検索する文字列。この文字列は、末尾にオプションの'*'が付いた完全一致検索文字列として定義されており、'*'部分は任意の文字の組合せが可能です)

- HYP_USERATTRIBUTE (ユーザー定義属性)

vtInput2: オプションによって決まる入力文字列(文字列)。このフィールドは、次の問合せオプションで使用され、それ以外では無視されます:

- HYP_USERATTRIBUTE (ユーザー定義属性)
- HYP_SEARCH、HYP_WILDSEARCH (オプションの設定で別名表を検索するようになっている場合、この文字列では検索する別名表を指定します。文字列が Null の場合、すべての別名表が検索されます)

vtMemberArray: 問合せの結果を格納する出力。正常に終了しなかった場合は、コンテンツは不明になります。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypQueryMembers Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtPredicate As Variant, ByVal vtOption As
Variant, ByVal vtDimensionName As Variant, ByVal vtInput1 As Variant, ByVal vtInput2
As Variant, ByRef vtMemberArray As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypQueryMembers()
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Profit", HYP_CHILDREN, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Profit", HYP_DESCENDANTS, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Profit", HYP_BOTTOMLEVEL, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Sales", HYP_SIBLINGS, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Sales", HYP_SAMELEVEL, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Sales", HYP_SAMEGENERATION, Empty, Empty, Empty,
Empty, vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Sales", HYP_PARENT, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Sales", HYP_DIMENSION, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Year", HYP_NAMEDGENERATION, Empty, "Year", "Quarter",
Empty, vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Product", HYP_NAMEDLEVEL, Empty, "Product", "SKU",
Empty, vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Product", HYP_SEARCH, HYP_ALIASESONLY, "Product",
"Cola", Empty, vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Year", HYP_WILDSEARCH, HYP_MEMBERSONLY, "Year", "J*",
Empty, vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Market", HYP_USERATTRIBUTE, Empty, "Market", "Major
Market", Empty, vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Sales", HYP_ANCESTORS, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
```

```

' sts = HypQueryMembers(Empty, "Jan", HYP_DTSMEMBER, Empty, Empty, Empty, Empty,
vArray)
' sts = HypQueryMembers(Empty, "Product", Empty, Empty, Empty, Empty, vArray)

If IsArray(vt) Then
    cbItems = UBound(vt) + 1
    MsgBox ("Number of elements = " + Str(cbItems))
    For i = 0 To UBound(vt)
        MsgBox ("Member = " + vt(i))
    Next
Else
    MsgBox ("Return Value = " + Str(vt))
End If
End Sub

```

HypGetMemberInformation

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypGetMemberInformation は、選択したメンバーのプロパティを戻します。

構文

HypGetMemberInformation (vtSheetName, vtMemberName, vtPropertyName, vtPropertyValue, vtPropertyValueStrings)

ByVal vtMemberName As Variant

ByVal vtPropertyName As Variant

ByVal vtPropertyValue As Variant

ByRef vtPropertyValueStrings As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。必須; デフォルト値はありません。

vtPropertyName: 入力パラメータ; 情報が必要なプロパティの名前。表 3 を参照してください。

vtPropertyValue: 出力パラメータ; サーバーから数値として戻されるメンバーのプロパティ配列。

vtPropertyValueStrings: 出力パラメータ; 数値が意味をなさないプロパティについて、数値に対応する文字列として戻されるメンバーのプロパティ配列。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypGetMemberInformation Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByVal vtPropertyName As Variant, ByRef vtPropertyValue As Variant, ByRef vtPropertyValueStrings As Variant) As Long
Sub Example_HypGetMemberInformation
sts = HypGetMemberInformation("Sheet1", "Jan", HYP_MI_NAME, vtValues, vtPropertyValueString)
End Sub
```

表 3 メンバー情報の定数

メンバー情報の定数
Global Const HYP_MI_NAME = "Name"
Global Const HYP_MI_DIM = "Dim"
Global Const HYP_MI_LEVEL = "Level"
Global Const HYP_MI_GENERATION = "Generation"
Global Const HYP_MI_PARENT_MEMBER_NAME = "ParentMbrName"
Global Const HYP_MI_CHILD_MEMBER_NAME = "ChildMbrName"
Global Const HYP_MI_PREVIOUS_MEMBER_NAME = "PrevMbrName"
Global Const HYP_MI_NEXT_MEMBER_NAME = "NextMbrName"
Global Const HYP_MI_CONSOLIDATION = "Consolidation"
Global Const HYP_MI_IS_TWO_PASS_CALC_MEMBER = "IsTwoPassCalcMbr"
Global Const HYP_MI_IS_EXPENSE_MEMBER = "IsExpenseMbr"
Global Const HYP_MI_CURRENCY_CONVERSION_TYPE = "CurrencyConversionType"
Global Const HYP_MI_CURRENCY_CATEGORY = "CurrencyCategory"
Global Const HYP_MI_TIME_BALANCE_OPTION = "TimeBalanceOption"
Global Const HYP_MI_TIME_BALANCE_SKIP_OPTION = "TimeBalanceSkipOption"
Global Const HYP_MI_SHARE_OPTION = "ShareOption"
Global Const HYP_MI_STORAGE_CATEGORY = "StorageCategory"
Global Const HYP_MI_CHILD_COUNT = "ChildCount"
Global Const HYP_MI_ATTRIBUTED = "Attributed"
Global Const HYP_MI_RELATIONAL_DESCENDANT_PRESENT = "RelDescendantPresent"
Global Const HYP_MI_RELATIONAL_PARTITION_ENABLED = "RelPartitionEnabled"
Global Const HYP_MI_DEFAULT_ALIAS = "DefaultAlias"

メンバー情報の定数

Global Const HYP_MI_HIERARCHY_TYPE = "HierarchyType"

Global Const HYP_MI_DIM_SOLVE_ORDER = "DimSolveOrder"

Global Const HYP_MI_IS_DUPLICATE_NAME = "IsDuplicateName"

Global Const HYP_MI_UNIQUE_NAME = "UniqueName"

Global Const HYP_MI_ORIGINAL_MEMBER = "OrigMember"

Global Const HYP_MI_IS_FLOW_TYPE = "IsFlowType"

Global Const HYP_MI_AGGREGATE_LEVEL = "AggLevel"

Global Const HYP_MI_FORMAT_STRING = "FormatString"

Global Const HYP_MI_ATTRIBUTE_DIMENSIONS = "AttributeDims"

Global Const HYP_MI_ATTRIBUTE_MEMBERS = "AttributeMbrs"

Global Const HYP_MI_ATTRIBUTE_TYPES = "AttributeTypes"

Global Const HYP_MI_ALIAS_NAMES = "AliasNames"

Global Const HYP_MI_ALIAS_TABLES = "AliasTables"

Global Const HYP_MI_FORMULA = "Formula"

Global Const HYP_MI_COMMENT = "Comment"

Global Const HYP_MI_LAST_FORMULA = "LastFormula"

Global Const HYP_MI_UDAS = "Udas"

HypGetMemberInformationEx

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase

説明

HypGetMemberInformationEx は、配列内のメンバーに関するすべての情報を戻します。

構文

HypGetMemberInformationEx (vtSheetName, vtMemberName, vtPropertyNames, vtPropertyValues, vtPropertyValueStrings)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtMemberName As Variant

ByRef vtPropertyNames As Variant

ByRef vtPropertyValues As Variant

vtPropertyValueStrings As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtMemberName: 情報を取得するメンバー。このパラメータにはデフォルト値がないため、指定は必須です。

vtPropertyNames: プロパティ名の配列

vtPropertyValues: プロパティ値の配列

vtPropertyValueStrings: プロパティ文字列値の配列

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypGetMemberInformationEx Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtMemberName As Variant, ByRef vtPropertyNames As Variant, ByRef vtPropertyValues As Variant, ByRef vtPropertyValueStrings As Variant) As Long
```

```
sub Example_HypGetMemberInformationEx()  
    sts = HypGetMemberInformationEx(Empty, "100-10", propertynames, propertyvalues, propertyvaluestrings)  
End Sub
```

この章の内容

オプション関数について.....	169
HypGetGlobalOption.....	169
HypSetGlobalOption.....	171
HypGetSheetOption.....	172
HypSetSheetOption.....	174
HypGetOption.....	175
HypSetOption.....	180
HypDeleteAllMRUItems.....	181

オプション関数について

オプション関数は、グローバル・オプションとシート・オプション、あるいはその両方に関する情報を設定および取得し、MRU アイテムの削除を可能にします。

HypGetGlobalOption

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetGlobalOption()は、Smart View グローバル・オプションに関する情報を戻します。グローバル・オプションは、現在のワークブック全体および今後作成されるすべてのワークブックおよびワークシートに適用されるオプションです。

175 ページの「[HypGetOption](#)」も参照してください。

構文

HypGetGlobalOption(vtItem)

ByVal vtItem As Long

パラメータ

vtItem: 取得するオプションを示す番号

表 4 に、オプション番号とそれぞれの戻りデータ型の一覧を示します。

表 4 HypGetGlobalOption のパラメータ番号およびオプション

vtItem	オプション	戻りデータ型
1	Excel フォーマットの使用	ブール
2	アド・ホック操作でのダブルクリックの使用	ブール
3	「元に戻す」の使用可能化	ブール
4	未使用	--
5	メッセージ・レベルの設定: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = 情報 ● 1 = 警告 ● 2 = エラー ● 3 = なし ● 4 = 拡張情報 	整数
6	3 桁ごとのセパレータの使用	ブール
7	メッセージをログ・ファイルに送る	ブール
8	次回起動時にログ・ファイルをクリア	ブール
9	データなし操作	ブール
10	未使用	--
11	未使用	--
12	無意味ラベルの指定	テキスト
13	Excel ファイル・サイズの縮小	ブール
14	フォーマット済文字列の使用可能化	ブール
15	数値のフォーマットを保持	ブール
16	拡張コメント処理の使用可能化	ブール
17	「リボンのコンテキストを保持」の使用可能化	ブール
18	起動時に Smart View パネルを表示	ブール
19	リフレッシュ時に常に表示(「コメントの編集」ダイアログ・ボックス; 「拡張コメント処理」が有効で、グリッドにコメントが含まれる場合のみ使用可能)	ブール
20	プロファイルを使用可能にします。拡張情報ログ・エントリおよび関数呼出しの大部分が含まれます。アクティブな Smart View で各 Office アプリケーションの XML ファイルを作成します。デバッグを目的としています。パフォーマンスに大きく影響します。	ブール

戻り値

該当する戻りデータ型(表 4)を戻します。それ以外の場合は、該当するエラー・コードを戻します。

例

次の例では、メッセージ・レベル・オプションを指定して、値の設定が有効かどうかを確認します。

```
Declare Function HypGetGlobalOption Lib "HsAddin" (ByVal vtItem As Long) As Variant

Sub Example_HypGetGlobalOption()
    sts = HypGetGlobalOption(5)
    If sts = -15 then
        MsgBox ("Invalid Parameter")
    Else
        MsgBox ("Message level is set to" & sts)
    End If
End Sub
```

HypSetGlobalOption

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Financial Management、Planning、Hyperion Enterprise

説明

HypSetGlobalOption()は、Smart View のグローバル・オプションを設定します。グローバル・オプションは、現在のワークブック全体および今後作成されるすべてのワークブックおよびワークシートに適用されるオプションです。

注： 一度に設定できるオプションは1つのみです。

[180 ページの「HypSetOption」](#) も参照してください。

構文

HypSetGlobalOption(vtItem, vtGlobalOption)

ByVal vtItem As Long

ByVal vtGlobalOption As Variant

パラメータ

vtItem: 設定するオプションを示す番号。値については、[表 4](#) を参照してください。

vtGlobalOption: vtItem に設定されるオプションを示すブール値、数値またはテキストを指定できる変数。Null または Empty の場合は、何も実行されません。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

次の例では、メッセージを表示しないオプションを設定します。

```
Declare Function HypSetGlobalOption Lib "HsAddin" (ByVal vtItem As Long, ByVal vtGlobalOption As Variant) As Long

Sub Example_HypSetGlobalOption()
    X=HypSetGlobalOption(5, 3)
    If X=0 Then
        MsgBox("Message level is set to 3 - No messages")
    Else
        MsgBox("Error. Message level not set.")
    End If
End Sub
```

HypGetSheetOption

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypGetSheetOption()は、シート・レベル・オプションに関する情報を戻します。

構文

HypGetSheetOption(vtSheetName, vtItem)

ByVal vtSheetName As Variant

ByVal vtItem As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtItem: 取得するオプションを示す番号。値のリストは、[表 5](#) を参照してください。

表 5 vItem のオプション

vItem	オプション	データ型と値
1	ズーム・イン・レベルの設定: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = 次のレベル ● 1 = すべてのレベル ● 2 = 最下位レベル ● 3 = 兄弟レベル ● 4 = 同一レベル ● 5 = 同一世代 ● 6 = 式 	数値
2	「選択を組み込む」の設定の使用可能化	ブール
3	選択したグループ内の設定を使用可能にします	ブール
4	「選択されていないグループの除去」の設定の使用可能化	ブール
5	インデント設定の指定: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = インデントなし ● 1 = サブ・アイテムのインデント ● 2 = 合計のインデント 	数値
6	欠落の抑制の設定の使用可能化	ブール
7	ゼロの抑制の設定の使用可能化	ブール
8	アンダースコアの抑制の設定の使用可能化	ブール
9	「アクセス権なし」の設定の使用可能化	ブール
10	重複したメンバーの設定の使用可能化	ブール
11	無効な設定の使用可能化	ブール
12	祖先の位置: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = 最上位 ● 1 = 最下位 	数値
13	「不足しているテキスト」のラベルの指定	テキスト
14	「アクセス権なし」のラベルの指定	テキスト
15	セル・ステータス: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = データ ● 1 = 計算ステータス ● 2 = プロセス管理 	数値

vtItem	オプション	データ型と値
16	メンバー名の表示オプション: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = 名前のみ ● 1 = 名前と説明 ● 2 = 説明のみ 	数値

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetSheetOption Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtItem As Variant) As Variant
```

```
Sub Example_HypGetSheetOption()
sts = HypGetSheetOption("Sheet", 5)
If sts = -15 then
Msgbox ("Invalid Parameter")
Else
Msgbox ("Indentation is set to" & sts)
End If
End Sub
```

HypSetSheetOption

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypSetSheetOption()は、シート・レベル・オプションを設定します。

注： 一度に設定できるオプションは1つのみです。

構文

```
HypSetSheetOption(vtSheetName, vtItem, vtOption)
```

```
ByVal vtSheetName As Variant
```

```
ByVal vtItem As Variant
```

```
ByVal vtOption As Variant
```

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtItem: 設定するオプションを示す番号。値のリストは、[表 5](#) を参照してください。

vtOption: アイテムの新しい値。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetSheetOption Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,
ByVal vtItem As Variant, ByVal vtOption As Variant) As Long

Sub Example_HypSetSheetOption()
X=HypSetSheetOption(Empty, 6, FALSE)
If X=0 Then
MsgBox("#Missing values will appear. ")
Else
MsgBox("Error. #Missing option not set.")
End If
End Sub
```

HypGetOption

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Financial Management、Planning、Hyperion Enterprise

説明

HypGetOption()は、デフォルトおよびシート固有の両方の Smart View オプションを取得します。2つのオプション・タイプで VBA コマンドを区別する必要はありません。

[169 ページの「HypGetGlobalOption」](#) も参照してください。

構文

HypGetOption (vtItem,vtRet,vtSheetName)

ByVal vtItem As Variant

ByRef vtRet As Variant

ByVal vtSheetName As Variant

パラメータ

vtItem: 特定のオプションを参照するインデックスまたは定数。オプションの詳細は、[表 6](#) を参照してください。また、使用可能なオプションのリストが smartview.bas の「Enumeration of options index to be used for HypGetOption/HypSetOption」の下に示されます。

vtRet: 出力変数

vtSheetName: シート・レベル・オプションのシート名。有効なシート名が指定されていない場合、デフォルトのオプションが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は **0** を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypGetOption Lib "HsAddin" (ByVal vtItem As Variant, ByRef vtRet As Variant, ByVal vtSheetName As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypGetOption()
```

```
sts = HypGetOption(HSV_ZOOMIN, Var, "Sheet2") 'get zoom in option for sheet2  
sts = HypGetOption(1, Var, "") 'get default zoom in option
```

```
End Sub
```

表 6 HypGetOption と HypSetOption のオプション定数

	定数	データ型	コメント
HSV_ZOOMIN	1	数値	ズーム・イン・レベルを設定します: <ul style="list-style-type: none">● 0 = 次のレベル● 1 = すべてのレベル● 2 = 最下位レベル● 3 = 兄弟レベル● 4 = 同一レベル● 5 = 同一世代● 6 = 式
HSV_INCLUDE_SELECTION	2	ブール	「選択を含める」チェック・ボックスを選択します
HSV_WITHIN_SELECTEDGROUP	3	ブール	「選択したグループ内」チェック・ボックスを選択します
HSV_REMOVE_UNSELECTEDGROUP	4	ブール	「選択されていないグループの除去」チェック・ボックスを選択します
HSV_INDENTATION	5	数値	「インデント」オプションを選択します <ul style="list-style-type: none">● 0 = インデントなし● 1 = サブ・アイテムのインデント● 2 = 合計のインデント
HSV_SUPPRESSROWS_MISSING	6	ブール	データなしまたは欠落データが含まれる行が抑制されます

	定数	データ型	コメント
HSV_SUPPRESSROWS_ZEROS	7	ブール	ゼロのみを含む行が抑制されます
HSV_SUPPRESSROWS_UNDERScore	8	ブール	メンバー名にアンダースコア文字を含む行が抑制されます
HSV_SUPPRESSROWS_NOACCESS	9	ブール	ユーザーに表示するためのセキュリティ・アクセス権がないデータが含まれている行が抑制されます
HSV_SUPPRESSROWS_REPEATEDMEMBERS	10	ブール	グリッドの方向にかかわらず繰り返されるメンバー名を含む行が抑制されます。
HSV_SUPPRESSROWS_INVALID	11	ブール	無効な値のみを含む行が抑制されます
HSV_ANCESTOR_POSITION	12	数値	階層での祖先の位置を指定します: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = 最上位 ● 1 = 最下位
HSV_MISSING_LABEL	13	テキスト	欠落データが含まれるデータ・セルに、#Missing、#Numeric Zero、または選択したテキストを表示します。
HSV_NOACCESS_LABEL	14	テキスト	ユーザーが表示する権限がないデータ・セルに、#NoAccess、#Numeric Zero、または選択したテキストを表示します。
HSV_CELL_STATUS	15	数値	実際のデータを表示するかわりに、セルの計算またはプロセス・ステータスを表示できます: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = データ ● 1 = 計算ステータス ● 2 = プロセス管理
HSV_MEMBER_DISPLAY	16	数値	セルにメンバー名を表示する方法を指定します: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = 名前のみ ● 1 = 名前と説明 ● 2 = 説明のみ
HSV_INVALID_LABEL	17	テキスト	無効なデータを含むデータ・セルに、#Invalid、#Numeric Zero、または選択したテキストを表示します。
HSV_SUBMITZERO	18	ブール	HSV_MISSING_LABEL、HSV_NOACCESS_LABEL または SV_INVALID_LABEL オプションで#NumericZero を指定した場合、データベースに 0 を送信できます。
HSV_19	19		今後の使用に予約
HSV_20	20		今後の使用に予約
HSV_PRESERVE_FORMULA_COMMENT	21	ブール	問合せ中に、グリッドに式とコメントが保存されます。
HSV_22	22		今後の使用に予約

	定数	データ型	コメント
HSV_FORMULA_FILL	23	ブール	メンバー・セルに関連付けられている式を、ズーム・インの結果として取得されたメンバーに伝播します。 HSV_PRESERVE_FORMULA_COMMENT と HSV_EXCEL_FORMATTING の両方が有効である場合、ズーム・インの結果として取得されたメンバーにセルのフォーマットを伝播します。 メンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。
HSV_EXCEL_FORMATTING	30	ブール	Excel フォーマット・チェック・ボックスを選択します
HSV_RETAIN_NUMERIC_FORMATTING	31	ブール	ユーザーがディメンションにドリルダウンするとき、HSV_SCALE に指定したスケールまたは HSV_DECIMALPLACES の小数点以下の桁数(あるいは両方)をデータに使用します。
HSV_THOUSAND_SEPARATOR	32	ブール	数値データでカンマまたは他の 3 桁ごとのセパレータを使用します。Excel の「オプション」の「インターナショナル」タブで、3 桁ごとのセパレータとして#または\$を使用しないでください。
HSV_NAVIGATE_WITHOUTDATA	33	ブール	ナビゲート中にソース・データを計算しないようにしてピボット、ズーム、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去などの操作を高速化できます。データを取得する準備ができたなら、「データなし操作」を無効にします。
HSV_ENABLE_FORMATSTRING	34	ブール	Essbase 固有。 Essbase では、様々なデータ型に関連付けられるフォーマット文字列が提供されます。 有効にすると、数値のかわりにユーザー固有のテキストを表示します。
HSV_ENHANCED_COMMENT_HANDLING	35	ブール	コメントが含まれているアド・ホック・グリッドでコメントとメンバー名をレビューし、修正できます。
HSV_ADJUSTCOLUMNWIDTH	36	ブール	セルの内容に合わせて列の幅を自動的に調整します。
HSV_DECIMALPLACES	37	数値	表示する小数点以下の桁数を指定します。
HSV_SCALE	38	数値	選択されたスケールに基づいて表示される数値データのスケールを指定します。
HSV_MOVEFORMATS_ON_ADHOC	39	ブール	親セル・フォーマットをコピーしてセルにズーム・インし、操作後にセルの場所が変更された場合でもこのフォーマットを保持します。
HSV_DISPLAY_INVALIDDATA	40	ブール	無効なデータを表示します。
HSV_SUPPRESSCOLUMNS_MISSING	41	ブール	データベース内にデータが存在しないセルを含む列が抑制されます(データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です)。
HSV_SUPPRESSCOLUMNS_ZEROS	42	ブール	ゼロのみを含む列が抑制されます。
HSV_SUPPRESSCOLUMNS_NOACCESS	43	ブール	ユーザーに表示するためのセキュリティ・アクセス権がないデータが含まれている列が抑制されます。
HSV_SUPPRESS_MISSINGBLOCKS	44	ブール	データベースにデータが存在しないセルのブロックが抑制されます。

	定数	データ型	コメント
HSV_DOUBLECLICK_FOR_ADHOC	101	ブール	ダブルクリックによって空のワークシートにデフォルトのグリッドが取得され、セル・コンテンツがズーム・インまたはズーム・アウトされるように指定します。
HSV_UNDO_ENABLE	102	ブール	「元に戻す」を有効または無効にします。 元に戻すことができる操作の数を HSV_NUMBER_OF_UNDO_ACTION パラメータに指定します。
HSV_103	103		今後使用するために予約されています。
HSV_LOGMESSAGE_DISPLAY	104	数値	メッセージ表示レベル設定を指定します: <ul style="list-style-type: none"> ● 0 = 情報 ● 1 = 警告 ● 2 = エラー ● 3 = なし ● 4 = 拡張情報
HSV_ROUTE_LOGMESSAGE_TO_FILE	105	ブール	「メッセージをファイルに送る」チェック・ボックスを有効または無効にします。
HSV_CLEAR_LOG_ON_NEXTLAUNCH	106	ブール	Excel が閉じた後に表示される次のログ・メッセージの生成が開始されると、ログ・ファイルがクリアされます。
HSV_REDUCE_EXCEL_FILESIZE	107	ブール	使用すべきではない次の場合を除き、常に有効にする必要があります: <ul style="list-style-type: none"> ● 9.3.1.6 以前の Smart View リリースのユーザー、または Smart View リリースに関係なく Microsoft Office のユーザーに Excel ワークブックを送信する場合。これらのワークブックでは: <ul style="list-style-type: none"> ○ 関数を含むグリッドは、データを表示する前にリフレッシュする必要があります。 ○ アド・ホック・モードで、POV 設定が失われます。この動作は、新規のアド・ホック・グリッドの動作と同じです。 ● 9.3.1.6 以前の Smart View リリースのユーザー、または Smart View リリースに関係なく Microsoft Office のユーザーから送信されたワークブックを開きます
HSV_ENABLE_RIBBON_CONTEXT	108	ブール	Smart View のリボンのボタンを使用した後に、アクティブなデータ・プロバイダのリボンを自動的に表示します。
HSV_DISPLAY_HOMEPANEL_ONSTARTUP	109	ブール	「Smart View ホーム」パネルの「起動時に表示」チェック・ボックスを有効または無効にします。 有効にすると、Smart View のリボンで「パネル」アイコンを選択したときに、「Smart View ホーム」パネルが表示されます。 無効にすると、最後に開いていたパネルが表示されます。
HSV_SHOW_COMMENTIALOG_ON_REFRESH	110	ブール	有効にすると、グリッドにコメントがある場合、リフレッシュ時にコメント・エディタがユーザーに表示されます。 無効にすると、Smart View のリボンからユーザーがコメント・エディタを起動できます。

	定数	データ型	コメント
HSV_NUMBER_OF_UNDO_ACTION	111	数値	1回の操作で許可される元に戻す処理とやり直し処理の数(0から100)。 HSV_UNDO_ENABLE パラメータと一緒に機能します。
HSV_NUMBER_OF_MRU_ITEMS	112	数値	「Smart View ホーム」、および Smart View のリボンの「開く」メニューに表示される、最後に使用した接続の数(15以下)。
HSV_ROUTE_LOGMESSAGE_FILE_LOCATION	113	テキスト	ログ・メッセージをファイルに保存します。
HSV_DISABLE_SMARTVIEW_IN_OUTLOOK	114	ブール	Outlook で Smart View タスク・リストを使用しない場合に、Outlook で Smart View を使用不可にします。
HSV_DISPLAY_SMARTVIEW_SHORTCUT_MENU_ONLY	115	ブール	ショートカット・メニューに Smart View のメニュー・アイテムのみを表示します。このオプションを設定しない場合、ショートカット・メニューには Excel と Smart View の両方のアイテムが表示されます。
HSV_DISPLAY_DRILL_THROUGH_REPORT_TOOLTIP	116	ブール	セル上にマウスを移動したときに使用可能なドリルスルー・レポートのリストをデフォルトで表示します。
HSV_SHOW_PROGRESSINFORMATION	117	ブール	HSV_PROGRESSINFO_TIMEDELAY に定義した秒数が経過してから操作が開始すると、「Smart View 進捗」ステータス・バーが表示されるように指定します。
HSV_PROGRESSINFO_TIMEDELAY	118	数値	操作が始まってから「Smart View 進捗」ステータス・バーが表示されるまでの時間(秒)。
HSV_ENABLE_PROFILING	119	ブール	拡張情報ログ・エントリおよび関数呼出しの大部分を作成します。アクティブな Smart View で各 Office アプリケーションの XML ファイルを作成します。デバッグを目的としています。パフォーマンスに大きく影響します。

HypSetOption

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Financial Management、Planning、Hyperion Enterprise

説明

HypSetOption()では、Smart View オプションをデフォルトとしておよびシート固有として設定できるため、2つのオプション・タイプでVBA コマンドを区別する必要はありません。

See also [171 ページの「HypSetGlobalOption」](#) .

構文

HypSetOption (vtItem,vtOption,vtSheetName)

ByVal vtItem As Variant

ByVal vtOption As Variant

ByVal vtSheetName As Variant

パラメータ

vtItem: 特定のオプションを参照するインデックスまたは定数。オプションの詳細は、表 6 を参照してください。また、使用可能なオプションのリストが smartview.bas の「Enumeration of options index to be used for HypGetOption/HypSetOption」の下に示されます。

vtOption: オプションに設定する入力値。

vtSheetName: シート・レベル・オプションを設定するシート名。有効なシート名が指定されていない場合、デフォルトのオプションが使用されます。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypSetOption Lib "HsAddin" ( ByVal vtItem As Variant,ByVal vtOption As Variant, ByVal vtSheetName As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypSetOption()
```

```
sts = HypSetOption(HSV_ZOOMIN, 2, "Sheet2") 'set zoom in option for sheet2  
sts = HypSetOption(HSV_ZOOMIN, 1, "") 'set default zoom in
```

```
sts = HypSetOption(HSV_INVALID_LABEL, "#InvalidTest", "Sheet2") 'set invalid label  
for sheet2  
sts = HypSetOption(17, "#globalinvalid", "") 'set default invalid label, numbers can  
be used instead of declared constants  
End Sub
```

HypDeleteAllMRUIItems

データ・プロバイダ・タイプ:すべて

説明

HypDeleteAllMRUIItems ()は、最後に使用したアイテム・リストの全アイテム(リストに固定されたアイテムを含む)を削除します。

構文

```
HypDeleteAllMRUIItems Lib "HsAddin" () As Long
```

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Public Declare Function HypDeleteAllMRUItems Lib "HsAddin" () As Long

Sub Example_HypDeleteAllMRUItems ()
    sts = HypDeleteAllMRUItems()
End Sub
```

この章の内容

動的リンク・ビューについて	183
動的リンク・ビューの設定	184
マクロの自動実行	184
HypUseLinkMacro	184
HypSetLinkMacro	185
HypGetLinkMacro	186
HypGetSourceGrid	187
HypDisplayToLinkView	187
HypGetConnectionInfo	189
HypSetConnectionInfo	190
HypGetRowCount	192
HypGetColCount	192
HypGetPOVCount	193
HypGetRowItems	194
HypSetRowItems	195
HypGetCollItems	196
HypSetCollItems	197
HypGetPOVItems	198
HypSetPOVItems	199

動的リンク・ビューについて

静的または動的リンク・ビューを使用して、メイン・ウィンドウのコンテンツに影響を与えずに、隣接するウィンドウにデータ・ポイントに関する詳細を表示できます。静的リンク・ビューは事前定義済で、Smart View に組み込まれています。動的リンク・ビューでは、この項の VBA 関数を使用して、行、列、POV および接続情報を変更できます。

動的リンク問合せが初期化されると、後続のすべての `setinfo`、`getinfo`、`displaytolinkview` 呼出しは、保存された動的リンク問合せに対して実行されます。ワークシート上のグリッドを変更し、新しいグリッドで動的リンクのアクションを実行する場合は、利用可能な `setinfo` 呼出しを使用して問合せを再び初期化する必要があります。

動的リンク・ビューの設定

動的リンク・ビューを使用してリンクの動作をカスタマイズします。動的リンク・ビューを使用すると、接続、行、列、POV および列の情報を変更できます。

▶ 動的リンク・ビューを設定するには:

- 1 **HypUseLinkMacro** フラグを True に設定します。(HypUseLinkMacro を False に設定している場合は、事前定義されたリンク問合せが実行されます。)
- 2 実行するマクロ名を設定します。

設定するマクロ名には、グリッドを初期化するため、および接続、行、POV、列のアイテムを必要に応じて設定するための、すべての関数呼出しを含める必要があります。

- 3 シートを接続し、適切なグリッドをシート上に取得します。
- 4 シート上でデータ・ポイントを選択します。
- 5 Essbase のリボンから、「視覚化」、「Excel で視覚化」の順に選択します。

手順 2 で設定したマクロが実行され、リンク・アクションが実行されます。

マクロの自動実行

Smart View メニューからのマクロの実行を自動化できます。

▶ Smart View メニューから手動で実行するマクロを設定するには:

- 1 **HypUseLinkMacro** フラグを FALSE に設定します。
- 2 シートに接続してグリッドを取得します。
- 3 シート上でデータ・ポイントを選択します。
- 4 グリッドを初期化するため、および接続、行、列、POV のアイテムを設定するためのすべての関数呼出しを含むマクロを実行します。

HypUseLinkMacro

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypUseLinkMacro() は、リンク・ビューのタイプを指定します: 静的または動的。

注: 静的リンク・ビューおよび動的リンク・ビューは、同じメニュー項目を共有します。したがって、動的リンク問合せを実行する前にこのフラグをオンにする必要があります。動的リンク・ビューの作業が済んだら、フラグをオフにします。

構文

HypUseLinkMacro (bUse)

ByVal bUse as Boolean

パラメータ

bUse: 動的リンクを実行する場合は True に設定します。静的リンクを実行する場合は False に設定します。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypUseLinkMacro Lib "HsAddin" (ByVal bUse As Boolean) As Long

Sub Example_HypUseLinkMacro()
    Sts = HypUseLinkMacro(True)
End sub
```

HypSetLinkMacro

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypSetLinkMacro()は、動的リンク問合せのアクションを実行するために使用されるマクロ名を設定します。

注: 「Excel での視覚化」メニュー・アイテムからリンク・アクションが開始されると、この関数によって設定されたマクロが実行されます。

構文

HypSetLinkMacro (vtMacroName)

ByVal vtMacroName As Variant

パラメータ

vtMacroName: 実行するマクロの名前

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetLinkMacro Lib "HsAddin" (ByVal vtMacroName As Variant) As Long

Sub Example_HypSetLinkMacro()
    Sts = HypUseLinkMacro(True)
    Sts = HypSetLinkMacro("Sheet1.Macro8")
End Sub
```

HypGetLinkMacro

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetLinkMacro()は、動的リンク問合せを実行するため使用される、現在設定されているマクロ名を戻します。

構文

HypGetLinkMacro (vtMacroName)

ByRef vtMacroName As Variant

パラメータ

vtMacroName: 現在設定されているマクロ名を戻す出力パラメータ

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypGetLinkMacro Lib "HsAddin" (ByRef vtMacroName As Variant) As Long

Sub Example_HypGetLinkMacro()
    Dim Macroname As Variant
    Sts = HypUseLinkMacro(True)
    Sts = HypSetLinkMacro("Sheet1.Macro8")
    Sts = HypGetLinkMacro(Macroname)
    If (StrComp(MacroName, "Sheet1.Macro8")) Then
        MsgBox ("Error Occurred")
    End If
End Sub
```

HypGetSourceGrid

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetSourceGrid()は、動的リンク問合せのソース・グリッドから問合せを作成します。

この関数は、静的リンク・ビューと動的リンク・ビューに適用されます。

HypGetSourceGrid を実行する前に、接続されたグリッドがアクティブなワークシート上に存在し、有効なデータ・セルが選択される必要があります。

構文

HypGetSourceGrid(vtSheetName, vtGrid)

ByVal vtSheetName As Variant

ByRef vtGrid As Variant

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtGrid: 戻されるグリッド XML

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetSourceGrid Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant,  
ByRef vtGrid As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypGetSourceGrid()  
    Dim vtGrid As Variant  
    Range ("B2").Select  
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)  
End sub
```

HypDisplayToLinkView

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning、Financial Management、Hyperion Enterprise

説明

HypDisplayToLinkView()は、Word または PowerPoint に Office ドキュメントを、Excel にグリッドを表示します。

注： 動的リンク問合せの最新のコンテンツに応じて、リンク・アクションが実行されます。

構文

HypDisplayToLinkView (vtDocumentType, vtDocumentPath)

ByVal vtDocumentType As Variant

ByVal vtDocumentPath As Variant

パラメータ

vtDocumentType: リンク・ビューの宛先。有効な値:

- EXCEL_APP
- WORD_APP
- PPOINT_APP

vtDocumentPath: ドキュメントへのパス。WORD_APP または PPOINT_APP の場合にのみ必要です。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypDisplayToLinkView Lib "HsAddin" (ByVal vtDocumentType As Variant, ByVal vtDocumentPath As Variant) As Long

Sub Example_HypDisplayToLinkView()
    Dim vtGrid As Variant
    Sts = HypConnect(Empty, "
        UserName
        ", "
        Password
        ", "MyDemoBasic")
    Sts = HypRetrieve(Empty)
    Range("B2").Select
    Sts = HypGetSourceGrid(Empty, vtGrid)
    Sts = HypSetColItems(1, "Market", "East", "West", "South", "Central", "Market")
    Sts = HypDisplayToLinkView("EXCEL_APP", "")
End Sub
```

HypGetConnectionInfo

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetConnectionInfo()は、動的リンク問合せの接続情報を戻します。

注: これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypGetConnectionInfo(vtServerName, vtUserName, vtPassword, vtApplicationName, vtDatabaseName, vtFriendlyName, vtURL, vtProviderType)

ByRef vtServerName As Variant

ByRef vtUserName As Variant

ByRef vtPassword As Variant

ByRef vtApplicationName As Variant

ByRef vtDatabaseName As Variant

ByRef vtFriendlyName As Variant

ByRef vtURL As Variant

ByRef vtProviderType As Variant

パラメータ

vtServerName: 出力パラメータ; 動的リンク問合せのサーバーの名前

vtUserName: 出力パラメータ; 動的リンク問合せのユーザー名

vtPassword: 出力パラメータ; 動的リンク問合せのパスワード。注意: 実際のパスワードはセキュリティ上の理由から戻されません。空として戻されます。

vtApplicationName: 出力パラメータ; 動的リンク問合せのアプリケーション名

vtDatabaseName: 出力パラメータ; 動的リンク問合せのデータベース名

vtFriendlyName: 出力パラメータ; 動的リンク問合せのわかりやすい接続名

vtURL: 出力パラメータ; 動的リンク問合せの URL

vtProvider: 出力パラメータ; 動的リンク問合せのプロバイダ・タイプ

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

例

```
Declare Function HypGetConnectionInfo Lib "HsAddin" (ByRef vtServerName As Variant, ByRef vtUserName As Variant, ByRef vtPassword As Variant, ByRef vtApplicationName As Variant, ByRef vtDatabaseName As Variant, ByRef vtFriendlyName As Variant, ByRef vtURL As Variant, ByRef vtProviderType As Variant) As Long

Sub Example_HypGetConnectionInfo()
    Dim vtGrid As Variant
    Dim server As Variant
    Dim user As Variant
    Dim app As Variant
    Dim db As Variant
    Dim provider As Variant
    Dim conn As Variant
    Dim url As Variant
    Sts = HypConnect(Empty, "
        UserName
        ", "MyDemoBasic")
    Sts = HypRetrieve(Empty)
    Range ("B2").Select
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)
    Sts = HypGetConnectionInfo(server,user, pwd, app, db, conn, url, provider)
End sub
```

HypSetConnectionInfo

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypSetConnectionInfo()は、問合せ内の接続情報を変更します。

HypSetConnectionInfo()に渡されるパラメータは、当該の接続名に保管されている接続情報と一致している必要があります。

注: これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypSetConnectionInfo (vtServerName, vtUserName, vtPassword, vtApplicationName, vtDatabaseName, vtFriendlyName, vtURL, vtProviderType)

ByVal vtServerName As Variant

ByVal vtUserName As Variant

ByVal vtPassword As Variant

ByVal vtApplicationName As Variant

ByVal vtDatabaseName As Variant

ByVal vtFriendlyName As Variant

ByVal vtURL As Variant

ByVal vtProviderType As Variant

パラメータ

vtServerName: 問合せ内のサーバー名

vtUserName: 問合せ内のユーザー名

vtPassword: 問合せ内のユーザー・パスワード

vtApplicationName: 問合せ内のアプリケーション名

vtDatabaseName: 問合せ内のデータベース名

vtFriendlyName: 問合せ内のわかりやすい接続名

vtURL: 問合せ内のプロバイダ URL

vtProviderType: 問合せ内のプロバイダ・タイプ

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetConnectionInfo Lib "HsAddin" (ByVal vtServerName As Variant, ByVal vtUserName As Variant, ByVal vtPassword As Variant, ByVal vtApplicationName As Variant, ByVal vtDatabaseName As Variant, ByVal vtFriendlyName As Variant, ByVal vtURL As Variant, ByVal vtProviderType As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypSetConnectionInfo()  
    Dim vtGrid As Variant  
    Sts = HypConnect(Empty, "UserName", "Password", "DemoBasic")  
    Sts = HypRetrieve(Empty)  
    Range("B2").Select  
    Sts = HypGetSourceGrid(Empty, vtGrid)  
    Sts = HypSetConnectionInfo("localhost", "UserName", "Password", "Sample", "Basic", "SampleBasic", "http://localhost:13080/aps/SmartView", provider)  
End Sub
```

HypGetRowCount

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetRowCount()は、行のディメンションの数を返します。

注： これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypGetRowCount()

戻り値

正常に終了した場合は行のディメンションの数を返します。それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetRowCount Lib "HsAddin" () As Long

Sub Example_HypGetRowCount()
    Dim vtGrid As Variant
    Sts = HypConnect(Empty, "
    UserName
    ", "
    Password
    ", "MyDemoBasic")
    Sts = HypRetrieve(Empty)
    Range ("B2").Select
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)
    Sts = HypGetRowCount ()
End sub
```

HypGetColCount

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetColCount()は、列のディメンションの数を返します。

注： これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypGetColCount()

戻り値

正常に終了した場合は列のディメンションの数を返します。それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetColCount Lib "HsAddin" () As Long

Sub Example_HypGetColCount()
    Dim vtGrid As Variant
    Sts = HypConnect(Empty, "
        UserName
        ", "
        Password
        ", "MyDemoBasic")
    Sts = HypRetrieve(Empty)
    Range ("B2").Select
    Sts = HypGetColCount ()
End sub
```

HypGetPOVCount

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetPOVCount()は、動的リンク問合せから POV 内のディメンション数を返します。

注： これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypGetPOVCount()

戻り値

正常に終了した場合は POV のディメンションの数を返します。それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetPOVCount Lib "HsAddin" () As Long

Sub Example_HypGetPOVCount()
    Dim vtGrid As Variant
    Sts = HypConnect(Empty, "
    UserName
    ", "
    Password
    ", "MyDemoBasic")
    Sts = HypRetrieve(Empty)
    Range ("B2").Select
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)
    Sts = HypGetPOVCount ()
End sub
```

HypGetRowItems

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetRowItems()は、動的リンク問合せ内の n 番目の行のディメンションに存在するメンバーを返します。

注: これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypGetRowItems(vtRowID, vtDimensionName, vtMemberNames)

ByVal vtRowID As Variant

ByRef vtDimensionName As Variant

ByRef vtMemberNames As Variant

パラメータ

vtRowID: 行番号 n。

vtDimensionName: 出力パラメータ; n 番目の行のディメンション名

vtMemberNames: 出力パラメータ; n 番目の行のディメンションのメンバー

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetRowItems Lib "HsAddin" (ByVal vtRowID As Variant, ByRef vtDimensionName As Variant, ByRef vtMemberNames As Variant) As Long

Sub Example_HypGetRowItems()
    Dim vtGrid As Variant
    Dim vtDimName As Variant
    Dim vtMembers As Variant
    Sts = HypConnect(Empty, "
    UserName
    ", "
    Password
    ", "DemoBasic_Connection")
    Sts = HypRetrieve(Empty)
    Range ("B2").Select
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)
    Sts = HypGetRowItems(1, vtDimName, vtMembers)
End sub
```

HypSetRowItems

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

動的リンク問合せの n 番目の行のディメンションのメンバーを設定します。n 番目の列が存在しない場合は、新しい行が追加されます。

注: これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypSetRowItems (vtRowID, vtDimensionName, ParamArray MemberList())

ByVal vtRowID As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ParamArray MemberList() As Variant

パラメータ

vtRowID: 行番号 n

vtDimensionName: デイメンションの名前

paramarray MemberList: メンバー名のリスト

戻り値

長整数。正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetRowItems Lib "HsAddin" (ByVal vtRowID As Variant, ByVal vtDimensionName As Variant, ParamArray MemberList() As Variant) As Long

Sub Example_HypSetRowItems()
    Dim vtGrid As Variant
    Sts = HypConnect(Empty, "
    UserName
    ", "
    Password
    ", "DemoBasic")
    Sts = HypRetrieve(Empty)
    Range ("B2").Select
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)
    Sts = HypSetRowItems(1, "Product", "100", "200", "300", "400", "Diet", "Product")
End sub
```

HypGetCollItems

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetCollItems()は、n 番目の列のデイメンションへの動的リンク・ビューに表示されるメンバーを返します。

注: これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypGetCollItems(vtColID, vtDimensionName, vtMemberNames)

ByVal vtColID As Variant

ByRef vtDimensionName As Variant

ByRef vtMemberNames As Variant

パラメータ

vtColID: 列番号 n

vtDimensionName: n 番目の列のディメンション名を戻します

vtMemberNames: n 番目の列のディメンションのメンバーを戻します

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetColItems Lib "HsAddin" (ByVal vtColID As Variant, ByRef vtDimensionName As Variant, ByRef vtMemberNames As Variant) As Long

Sub Example_HypGetColItems()
    Dim vtGrid As Variant
    Dim vtDimensionName As Variant
    Dim vtMembers As Variant
    Sts = HypConnect(Empty, "
    UserName
    ", "
    Password
    ", "AnamikaDemoBasic")
    Sts = HypRetrieve(Empty)
    Range ("B2").Select
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)
    Sts = HypGetColItems(1, vtDimensionName, vtMemberNames)
End sub
```

HypSetCollItems

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypSetCollItems()は、動的リンク問合せの n 番目の列のディメンションのメンバーを設定します。n 番目の列が存在しない場合は、新しい列が追加されます。

注: これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypSetCollItems (vtColID, vtDimensionName, ParamArray MemberList())

ByVal vtColID As Variant

ByVal vtDimensionName As Variant

ParamArray MemberList() As Variant

パラメータ

vtColID: 列番号 n

vtDimensionName: デイメンションの名前

paramarray MemberList: メンバー名のリスト

戻り値

長整数。正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetColItems Lib "HsAddin" (ByVal vtColID As Variant, ByVal vtDimensionName As Variant, ParamArray MemberList() As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypSetColItems()  
    Dim vtGrid As Variant  
    Sts = HypConnect(Empty, "  
        Username  
        ", "  
        Password  
        ", "SalesDemoBasic")  
    Sts = HypRetrieve(Empty)  
    Range("B2").Select  
    Sts = HypGetSourceGrid(Empty, vtGrid)  
    Sts = HypSetColItems(1, "Market", "East", "West", "South", "Central", "Market")  
End Sub
```

HypGetPOVItems

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Planning (アド・ホックのみ)、Financial Management (アド・ホックのみ)、Hyperion Enterprise (アド・ホックのみ)

説明

HypGetPOVItems()は、POV 内のデイメンションと、各デイメンションで現在選択されているメンバーを返します。

注: これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypGetPOVItems(vtDimensionNames, vtPOVNames)

ByRef vtDimensionNames As Variant

ByRef vtPOVNames As Variant

パラメータ

vtDimensionNames: POV 内のディメンション名

vtPOVNames: POV 内の各ディメンションで現在選択されているメンバー。

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypGetPOVItems Lib "HsAddin" (ByRef vtDimensionNames As Variant,  
ByRef vtPOVNames As Variant) As Long
```

```
Sub Example_HypGetPOVItems()  
    Dim vtGrid As Variant  
    Dim vtDimNames As Variant  
    Dim vtPOVNames As Variant  
    Sts = HypConnect(Empty, "UserName", "  
        Password  
        ", "MyDemoBasic")  
    Sts = HypRetrieve(Empty)  
    Range ("B2").Select  
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)  
    Sts = HypGetPOVItems (vtDimNames, vtPOVNames)  
End sub
```

HypSetPOVItems

データ・プロバイダ・タイプ: Essbase、Oracle Hyperion Planning (アド・ホックのみ)、Oracle Hyperion Financial Management (アド・ホックのみ)、Oracle Hyperion Enterprise® (アド・ホックのみ)

説明

HypSetPOVItems()は、動的リンク問合せの POV ディメンションを設定します。

注： これは、動的リンク問合せを初期化するために HypGetSourceGrid の呼出しがすでに実行されており、アクティブなデータ・プロバイダおよびワークシート上のグリッドに関する情報が格納されていることを前提とします。

構文

HypSetPOVItems (ParamArray MemberList())

ParamArray MemberList() As Variant

パラメータ

ParamArray MemberList(): 必要な POV アイテムのリストを Dimension#Current Member 形式で表したものを返す

戻り値

正常に終了した場合は 0 を返し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを返します。

例

```
Declare Function HypSetPOVItems Lib "HsAddin" (ParamArray MemberList() As Variant)
As Long
Sub Example_HypSetPOVItems()
    Dim vtGrid As Variant
    Sts = HypConnect (Empty, "
        UserName
        ", "
        Password
        ", "MyDemoBasic")
    Sts = HypRetrieve (Empty)
    Range ("B2").Select
    Sts = HypGetSourceGrid (Empty, vtGrid)
    Sts = HypSetPOVItems ("Scenario#Scenario", "Measures#Measures")
End sub
```

この章の内容

MDXについて.....	201
HypExecuteMDXEx	201

MDX について

マルチディメンショナル式(MDX)言語を使用して、Essbase データベースのデータやメタデータに対して問合せおよびレポート作成を行うスクリプトまたはアプリケーションを開発します。MDX の詳細は、Essbase のドキュメント・セットを参照してください。

201 ページの「[HypExecuteMDXEx](#)」

HypExecuteMDXEx

データ・プロバイダ・タイプ: Oracle Essbase

説明

HypExecuteMDXEx()は、結果をデータ構造に出力するがワークシート上には表示しない MDX 問合せを実行します。(問合せ結果をワークシート上に表示したい場合は、かわりに HypExecuteQuery を使用します。)

構文

```
HypExecuteMDXEx  
(  
  ByVal vtSheetName As Variant,  
  ByVal vtQuery As Variant,  
  ByVal vtBoolHideData As Variant,  
  ByVal vtBoolDataLess As Variant,  
  ByVal vtBoolNeedStatus As Variant,  
  ByVal vtMbrIDType As Variant,  
  ByVal vtAliasTable As Variant,  
  ByRef outResult As MDX_AXES_NATIVE  
) As Long
```

パラメータ

vtSheetName: 関数を実行するワークシートの名前。vtSheetName が Null または Empty の場合、アクティブ・ワークシートが使用されます。

vtQuery: 実行する MDX 問合せ。

vtBoolHideData: 結果でデータを非表示にするか表示するかを示すブール・フラグ

vtBoolDataLess: 結果でデータを取得するか回避するかを示すブール・フラグ

vtBoolNeedStatus: 結果でステータス情報を取得するか回避するかを示すブール・フラグ。

vtMbrIDType: 結果のメンバー・タイプ識別子(名前または別名)

vtAliasTable: 使用する別名表。

outResult: タイプが MDX_AXES の構造へのポインタ。問合せの出力を含みます。(この API でのデータ型およびサポートされる関数については、[HypExecuteMDXEx](#) に固有のデータ型を参照してください。)

戻り値

正常に終了した場合は 0 を戻し、それ以外の場合は該当するエラー・コードを戻します。

HypExecuteMDXEx に固有のデータ型

次のデータ型は、HypExecuteMDXEx にのみ適用されます:

MDX_CELL: セルに対応するデータ型

MDX_PROPERTY: メンバーおよびディメンションに関するプロパティを含むデータ型

MDX_MEMBER: メンバー情報のデータ型

MDX_DIMENSION: ディメンション情報のデータ型

MDX_CLUSTER: クラスタ情報のデータ型

MDX_AXIS: 軸を表すデータ型

MDX_AXES: 軸およびセルの集合を含む、ルート・レベル構造

MDX_AXES_NATIVE: HypExecuteMDXEx の出力パラメータとして使用されるデータ型。この構造は、GetVBCompatibleMDXStructure を使用して MDX_AXES に変換する必要があります。

例

```
Sub GetVBCompatibleMDXStructure(ByRef inStruct As MDX_AXES_NATIVE, ByRef outStruct As MDX_AXES)
```

```
Public Declare Function HypExecuteMDXEx Lib "HsAddin" (ByVal vtSheetName As Variant, ByVal vtQuery As Variant, ByVal vtBoolHideData As Variant, ByVal vtBoolDataLess As Variant, ByVal vtBoolNeedStatus As Variant, ByVal vtMbrIDType As Variant, ByVal vtAliasTable As Variant, ByRef outResult As MDX_AXES_NATIVE) As Long
```

```

Sub Example_HypExecuteMDXEx()

Dim Query As Variant
Dim vtBoolHideData As Variant
Dim vtBoolDataLess As Variant
Dim vtBoolNeedStatus As Variant
Dim vtMbrIDType As Variant
Dim vtAliasTable As Variant
Dim result_Native As MDX_AXES_NATIVE
Dim result_VBCompatible As MDX_AXES

Query = "select {Jan} on COLUMNS, {Profit} on ROWS from Sample.Basic"
vtBoolHideData = True
vtBoolDataLess = True
vtBoolNeedStatus = True
vtMbrIDType = "alias"
vtAliasTable = "none"

sts = HypConnect(Empty, "
    UserName
    ", "
    Password
    ", "SB")

If sts = 0 Then

sts = HypExecuteMDXEx(Empty, Query, vtBoolHideData, vtBoolDataLess, vtBoolNeedStatus,
vtMbrIDType, vtAliasTable, result_Native)
sts = GetVBCompatibleMDXStructure(result_Native, result_VBCompatible)
sts = HypDisconnect(Empty, True)
Else
End If
End Sub

```


この章の内容

Oracle BI EE の関数について	205
Oracle BI EE の関数を使用する準備	205
Oracle Smart View BI Extension オブジェクトのインスタンス化	206
Oracle Smart View BI Extension の関数	207

Oracle BI EE の関数について

この章の VBA 関数が Smart View の操作をサポートするのは、Oracle BI EE データ・ソースに接続している場合です。

Oracle BI EE の関数を使用する準備

Oracle BI EE のために VBA 関数の作成や編集を開始する前に、Oracle Smart View BI Extension タイプ・ライブラリおよび Oracle Smart View for Office タイプ・ライブラリにリファレンスを追加する必要があります。

- ▶ Oracle Smart View BI Extension および Smart View のリファレンスを追加するには:
- 1 Visual Basic Editor を Microsoft Office アプリケーション(Excel など)から起動します。
 - 2 「Tools」、「References」を選択します。
 - 3 「Available References」で、次のアイテムをチェックします:
 - Oracle Smart View BI Extension
 - Oracle SmartView RC 1.0 タイプ・ライブラリ
 - 4 「OK」をクリックします。

206 ページの「Oracle Smart View BI Extension オブジェクトのインスタンス化」に進みます。

Oracle Smart View BI Extension オブジェクトのインスタンス化

Oracle Smart View BI Extension は、COM インタフェースを介して自動化インタフェースを公開します。Oracle Smart View BI Extension に自動化呼出しを行うには、Oracle Smart View BI Extension COM オブジェクトをまずインスタンス化する必要があります。

Oracle BI EE のすべての自動化関数は IBIRreport インタフェースに定義され、SmartViewOBIEEAutomation クラスがこれらの関数を実装します。したがって、Oracle BI EE のすべての自動化呼出しには、次の手順で説明する変数宣言を含める必要があります。

▶ すべての関数に組み込む変数宣言を作成するには:

- 1 IBIRreport **タイプの変数**を宣言します。
- 2 この変数を SmartViewOBIEEAutomation **タイプのオブジェクト**に設定します。

この結果、行は次のようになります:

```
Dim obiee As IBIRreport
Set obiee = New SmartViewOBIEEAutomation
```

- 3 **手順 2** のこの行を各関数に含めます。

これで、Oracle Smart View BI Extension 関数の作成と使用の準備が整いました。使用可能なすべての関数と使用方法のリストは、[207 ページの「Oracle Smart View BI Extension の関数」](#)を参照してください。

Oracle Smart View BI Extension の関数

サブトピック

- [InsertView](#)
- [EditPrompts](#)
- [EditPagePrompts](#)
- [GetPagePrompts](#)
- [DeleteView](#)
- [AnalysisProperties](#)
- [DirProperties](#)
- [InvokeMenu](#)
- [CopyView](#)
- [PasteView](#)

InsertView

説明

Oracle BI EE ビューを Office アプリケーションに挿入します。

構文

```
Function InsertView(  
connectionContext As String,  
sourcePath As String,  
viewName As String,  
prompt() As BIReportPrompt,  
format As SVREPORT_RENDER_FORMAT,  
insertOption As SVREPORT_COMPOUND_VIEW_INSERT_OPTION) As Boolean
```

パラメータ

connectionContext: Oracle BI EE プロバイダの URL。

sourcePath: Oracle BI EE カタログ内のビューの場所。

ビューのパスを示すには、Web ブラウザで Oracle BI EE カタログにアクセスし、ビュー・フォルダに移動して、フォルダの URL をメモします。フォルダのパスは、フォルダ URL (URL エンコーディングでエンコードされている) のデコード後に導出できます。ビューの場所を指定するには、パスに分析名を含めます。たとえば、ブラウザにおいて、Oracle BI EE のフォルダの URL は次のようになります:

```
http://xxxx.com:xxxx/analytics/saw.dll?catalog#%7B%22location%22%3A%22%2Fusers%2Fadministrator%2Fsvc_auto_bugs%22%7D
```

URL をデコードすると、次のようになります:

```
http://xxxx.com:xxxx/analytics/saw.dll?catalog#{"location":"/users/administrator/svc_auto_bugs"}
```

フォルダ・パスを取得した後、パスに分析名を付加します。最終的に、パスは次のようになります:

```
/users/administrator/svc_auto_bugs/AnalysisName
```

viewName: ビューの名前。

prompt: ビューを挿入するためのプロンプト。

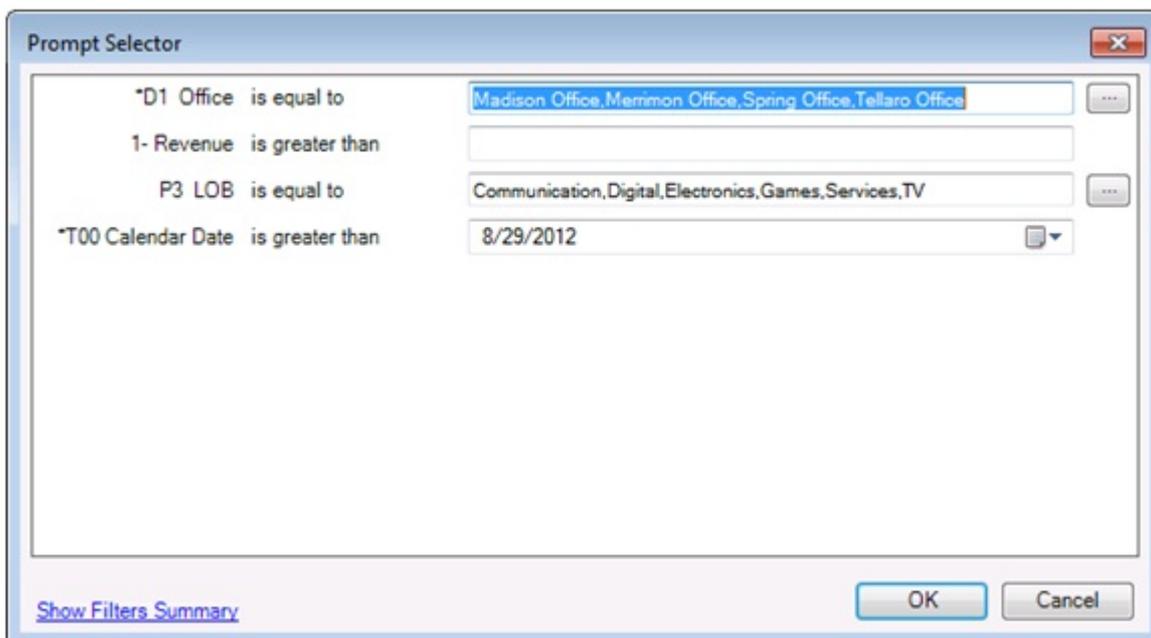
プロンプトは BIReportPrompt の配列です。BIReportPrompt は、1つのメンバー(文字列の配列)のみを含むクラスです。すべてのプロンプトの入力は文字列に変換する必要があります。BIReportPrompt 配列の順序は、「プロンプト・セレクタ」ダイアログ・ボックスのプロンプトの順序と同じにする必要があります。

たとえば、[図 1](#) のプロンプトに対してプロンプト値を指定するには、次の4つの BIReportPrompts を含む配列を作成する必要があります:

- 最初の要素は、"D1 Office"の選択肢を含みます
- 2番目の要素は"1 - Revenue"に対応します
- 3番目の要素は"P3 LOB"に対応します
- 4番目の要素は"T00 Calendar Date"に対応します

[図 1](#) の後にサンプル・コードを示します。

図 1 事務所、事業部門およびカレンダー日付の選択肢を含む「プロンプト・セレクタ」ダイアログ・ボックス



```
Dim prompts(0 To 3) As BIReportPrompt
```

```

Dim firstPrompt(0 To 3) As String
firstPrompt(0) = "Madison Office"
firstPrompt(1) = "Merrimon Office"
firstPrompt(2) = "Spring Office"
firstPrompt(3) = "Tellarro Office"
prompts(0).Values = firstPrompt

Dim secondPrompt(0 To 0) As String
secondPrompt(0) = "500"
prompts(1).Values = secondPrompt

Dim ThirdPrompt(0 To 5) As String
ThirdPrompt(0) = "Communication"
ThirdPrompt(1) = "Digital"
ThirdPrompt(2) = "Electronics"
ThirdPrompt(3) = "Games"
ThirdPrompt(4) = "Services"
ThirdPrompt(5) = "TV"
prompts(2).Values = ThirdPrompt

Dim ForthPrompt(0 To 0) As String
ForthPrompt(0) = "5/15/2009"
prompts(3).Values = ForthPrompt

```

format: 表示形式。有効な表示形式の値は、表 7 で説明します。

表 7 表示形式とビュー・タイプ

表示形式の値	使用されるビュー・タイプ
Default_Format	すべてのビュー
ExcelPivot	ピボット・テーブル・ビューのみ
ExcelTable	表ビューのみ
Image	チャート・ビューのみ

insertOption: 複合ビューのみ。このオプションは、複合ビューにすべてのビューを挿入する方法を指定します。個々のビューについては無視されます。

有効な値:

- NewSheet-新規シートの複合ビューに各ビューを挿入します。
- SameSheet-同じシートの複合ビューに各ビューを挿入します。

戻り値

操作が成功したかどうかを示します。

例

```

Sub InsertTableTest()

Dim obiee As IBIReport

```

```

Set obiee = New SmartViewOBIEEAutomation

Dim prompts() As BIReportPrompt

obiee.InsertView "http://xxx.com:xxxx/analytics/jbips" , "/shared/SmartView/OBIEE/
sv_vba_dev", "tableView!1", prompts, Default_Format, NewSheet

End Sub

Sub InsertPromptTableTest()

Dim obiee As IBIReport
Set obiee = New SmartViewOBIEEAutomation

Dim prompts(0 To 3) As BIReportPrompt

Dim firstPrompt(0 To 3) As String
firstPrompt(0) = "Madison Office"
firstPrompt(1) = "Merrimon Office"
firstPrompt(2) = "Spring Office"
firstPrompt(3) = "Tellarro Office"
prompts(0).Values = firstPrompt

Dim secondPrompt(0 To 0) As String
secondPrompt(0) = "500"
prompts(1).Values = secondPrompt

Dim ThirdPrompt(0 To 5) As String
ThirdPrompt(0) = "Communication"
ThirdPrompt(1) = "Digital"
ThirdPrompt(2) = "Electronics"
ThirdPrompt(3) = "Games"
ThirdPrompt(4) = "Services"
ThirdPrompt(5) = "TV"
prompts(2).Values = ThirdPrompt

Dim FourthPrompt(0 To 0) As String
ForthPrompt(0) = "5/15/2009"
prompts(3).Values = ForthPrompt

obiee.InsertView "http://xxx.com:xxxx/analytics/jbips" , "/shared/SmartView/
sv_vba_dev/promptAllTypes", "tableView!1", prompts, Default_Format, SameSheet

End Sub

```

EditPrompts

説明

ビューのプロンプトを編集します。

構文

Function EditPrompts(

objID As String,

prompt() As BIReportPrompt

) As Boolean

パラメータ

objID: 編集するビューの ID。空の ID が渡されると、選択したビューが使用されます。

prompt: [InsertView](#) の prompt パラメータと同じです。

戻り値

操作が成功したかどうかを示します。

例

```
Sub EditPromptTableTest()  
  
Dim obiee As IBIReport  
Set obiee = New SmartViewOBIEEAutomation  
  
Dim prompts(0 To 3) As BIReportPrompt  
  
Dim firstPrompt(0 To 3) As String  
firstPrompt(0) = "Madison Office"  
firstPrompt(1) = "Merrimon Office"  
firstPrompt(2) = "Spring Office"  
firstPrompt(3) = "Tellaro Office"  
prompts(0).Values = firstPrompt  
  
Dim secondPrompt(0 To 0) As String  
secondPrompt(0) = "500"  
prompts(1).Values = secondPrompt  
  
Dim ThirdPrompt(0 To 5) As String  
ThirdPrompt(0) = "Communication"  
ThirdPrompt(1) = "Digital"  
ThirdPrompt(2) = "Electronics"  
ThirdPrompt(3) = "Games"  
ThirdPrompt(4) = "Services"  
ThirdPrompt(5) = "TV"  
  
prompts(2).Values = ThirdPrompt  
  
Dim ForthPrompt(0 To 0) As String  
ForthPrompt(0) = "8/15/2009"  
prompts(3).Values = ForthPrompt  
  
obiee.EditPrompts Empty, prompts
```

EditPagePrompts

説明

ビューのページ選択を編集します。

構文

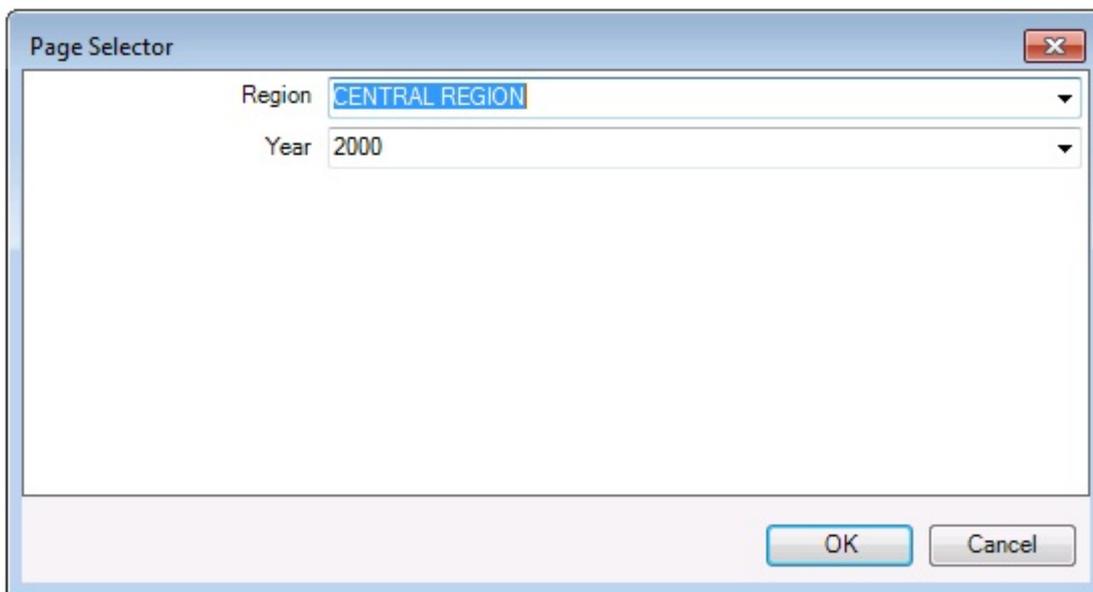
Function EditPagePrompts(
objID As String,
pageSelections() As String
) As Boolean

パラメータ

objID: 編集するビューの ID。空の ID が渡されると、選択したビューが使用されます。

pageSelections: 文字列配列に格納される選択ページの順序は、「ページ・セレクタ」ダイアログ・ボックスの選択ページの順序と同じにする必要があります。たとえば、[図 2](#) に示されるページ選択肢を指定するには、[図](#)の後のサンプル・コードを使用します。

図 2 地域と年を選択できる「ページ・セレクタ」ダイアログ・ボックス



```
Dim pageSelections(0 To 1) As String  
pageSelections (0) = "CENTRAL REGION"  
pageSelections (1) = "2000"
```

戻り値

操作が成功したかどうかを示します。

例

```
Sub EditPagePromptTest()  
  
Dim obiee As IBIReport  
Set obiee = New SmartViewOBIEEAutomation  
Dim pages(0 To 1) As String  
pages(0) = "CENTRAL REGION"  
pages(1) = "2000"  
  
obiee.EditPagePrompts Empty, pages  
  
End Sub
```

GetPagePrompts

説明

ビューのページ選択を取得します。

構文

```
Function GetPagePrompts(  
objID As String,  
PageEdges() As String,  
PageSelections() As String  
) As Boolean
```

パラメータ

objID: ページ選択を取得するビューの ID。空の ID が渡されると、選択したビューが使用されます。

PageEdges: 出力引数。ビューのページ・エッジの名前を返します。

PageSelections: 出力引数。選択したページの値を返します。

戻り値

操作が成功したかどうかを示します。

例

```
Sub TestGetPage()  
  
Dim obiee As IBIReport  
Set obiee = New SmartViewOBIEEAutomation  
  
Dim dims() As String  
Dim pageSelections() As String
```

```
obiee.GetPagePrompts Empty, dims, pageSelections
```

```
End Sub
```

DeleteView

説明

Office アプリケーションのビューを削除します。

構文

```
Function DeleteView( objID As String ) As Boolean
```

パラメータ

objID: 削除するビューの ID。空の ID が渡されると、選択したビューが使用されます。

戻り値

操作が成功したかどうかを示します。

例

```
Sub DeleteViewTest()  
  
Dim obiee As IBIReport  
Set obiee = New SmartViewOBIEEAutomation  
obiee.DeleteView Empty  
  
End Sub
```

AnalysisProperties

説明

分析のプロパティをフェッチします。

構文

```
Function AnalysisProperties(  
connectionContext As String,  
sourcePath As String,  
analysisName As String  
) As SVReportProperty()
```

パラメータ

connectionContext: Oracle BI EE プロバイダの URL。

sourcePath: 分析のパス。

analysisName: 分析の名前。

戻り値

SVReportProperty の配列。配列の各要素は、分析の 1 つのプロパティを表します。SVReportProperty の名前メンバーにはプロパティの名前が含まれます。値メンバーにはプロパティの値が含まれます。

例

```
Sub TestAnalysisProp()  
  
Dim BIReport As IBIReport  
Set BIReport = New SmartViewOBIEEAutomation  
  
Dim result As Variant  
  
result = BIReport.AnalysisProperties("http://xxx.com:xxxx/analytics/jbips", "/shared/  
SmartView/OBIEE", "svdevusr")  
  
End Sub
```

DirProperties

説明

ディレクトリのプロパティをフェッチします

構文

```
Function DirProperties (  
connectionContext As String,  
sourcePath As String,  
) As SVReportProperty()
```

パラメータ

connectionContext: Oracle Business Intelligence Enterprise Edition プロバイダの URL。

sourcePath: ディレクトリのパス。

戻り値

AnalysisProperties の戻り値と同じです。SVReportProperty の配列。配列の各要素は、分析の 1 つのプロパティを表します。SVReportProperty の名前メンバーにはプロパティの名前が含まれます。値メンバーにはプロパティの値が含まれます。

例

```
Sub TestDirProp()  
  
Dim BIReport As IBIReport  
Set BIReport = New SmartViewOBIEEAutomation  
  
Dim result As Variant  
  
result = BIReport.DirProperties("http://xxx.com:xxxx/analytics/jbips", "/shared/  
SmartView/OBIEE/sv_vba_dev")  
  
End Sub
```

InvokeMenu

説明

Smart View Oracle BI EE Extension メニューを起動します。

構文

```
Sub InvokeMenu(  
menuID As String  
)
```

パラメータ

menuID: メニュー・アイテムの ID。表 8 に有効な値を示します。

表 8 Oracle BI EE のメニュー・アイテムと ID

メニュー	ID
ビュー・デザイナー	ViewDesigner
ビューの発行	PublishView
リフレッシュ	Refresh
プロンプトの編集	EditPrompts
ページ・プロンプトの編集	EditPage
コピー	CopyView
貼付け	PasteView
削除	DeleteView
データのマスク	MaskView
ドキュメント・データのマスク	MaskDocumentView

例

```
Sub TestMenuInvoke()  
  
Dim obiee As IBIRreport  
Set obiee = New SmartViewOBIEEAutomation  
  
obiee.InvokeMenu "ViewDesigner"  
  
End Sub
```

CopyView

CopyView 関数は、現在のリリースではサポートされていません。

PasteView

PasteView 関数は、現在のリリースではサポートされていません。

